



文部科学省

地(知)の拠点

The University of Shimane
ENMUSUBI PLATFORM

地域と大学の共育・共創・共生に向けた

縁結びプラットフォーム

HAMADA

IZUMO

MATSUE

平成28年度 地(知)の拠点整備事業

成果報告書

(地域連携活動報告書)



公立大学法人 島根県立大学

はじめに

島根県立大学の「地（知）の拠点整備事業」：「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」（COC事業）は平成28年度で4年目となり、5年間の事業実施期間も残り少なくなり、来年度は事業実施の最終年度に入ります。COC事業の2本柱は、①地域のニーズと大学の知的資源であるシーズをマッチングさせ、地域課題の解決に向けた共同研究を進めること、②地域の再生、活性化に貢献する地域人材を養成する教育改革を実行すること、です。

教育面では、既に、地域志向の教育である「フレッシュマン・フィールド・セミナー」等、地域をフィールドとする体験型学習を実施しています。本年度は、地域人材を養成する「しまね地域マイスター認定制度」の本格運用を開始しました。「認定制度」の基礎となる「しまね地域共生学入門」を、COC²ネットを活用した遠隔授業として、3キャンパス同時に開講することが出来ました。

研究面では、「9月連携会議」における地域ニーズと大学シーズのマッチングをより実質的なものとするため、これまで、全体会議方式、テーマ別分科会方式を試みてきましたが、今年度は、これらの取組を踏まえ、学会等で行われている「ポスターセッション」形式を採用し、参加いただきました地域の皆様との意見交換をより自由に、尚且つ、効果的に進め、多くのマッチングを実現して頂きました。また、「しまね地域共創基盤研究費」を活用した共同研究の成果は、「第4回全域フォーラム」の場で発表され、同時に、浜田市及び益田市と島根県立大学との共同研究の成果も発表されました。

島根県における地域の再生と活性化を推進する担い手となる人材の育成に向けて、「松江キャンパス」では、現場の専門職と大学教員が過疎地域の課題解決に向けて研鑽し合う専門職者向け履修証明プログラム「地域共生専門コース」を開設し、本格的に実施し始めました。「出雲キャンパス」では、「しまね看護交流センター」が中心となり、「地域とともに歩む看護・福祉の専門職」の育成に取り組んでいます。「浜田キャンパス」では総合政策学の学びと実践のもと、地域事情に精通し、地域を繋ぎコーディネートしながら課題解決に取り組む「実践力のある専門地域人材」の育成に努めています。

今後とも、「縁結びプラットフォーム」を基盤として地域課題を解決し、地域の再生・活性化に向けて、大学が関係する自治体や団体等の間を繋ぎ合せる接着剤の役割を果たすことができると願っています。

公立大学法人島根県立大学

理事長・学長 本 田 雄 一

目次

はじめに	1
I. 3キャンパス合同事業	
1. 「地(知)の拠点整備事業」平成28年度全域プラットフォームの実施状況	5
1) 9月連携会議	5
2) 縁結びプラットフォーム運営委員会総会	7
3) 第4回全域フォーラム	8
4) しまね地域マイスター認定制度	11
5) しまね地域共育・共創研究助成の研究成果	12
6) 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会	31
7) 益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会	32
2. 3キャンパス合同学生ボランティア	33
1) 3キャンパス合同学生ボランティア企画(7/18)	33
2) 3キャンパス合同学生ボランティア報告会・研修会(5/11)	37
3) 3キャンパス合同学生ボランティア交流会(11/26～27)	38
3. 学生災害ボランティア	41
1) 熊本地震に伴う災害ボランティア活動2016記録	41
II. 各キャンパスの活動	
1. 浜田キャンパス	43
1) 学生の地域貢献活動	45
(1) 学生ボランティア活動(災害ボランティア以外)	46
(2) ボランティア・ポイント抽選会	48
(3) 地連café OPEN!	49
2) 地域に関する教育・研究活動	52
(1) 地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会	52
(2) 山陰地域フィールド体験学習—弥栄の農林業と暮らし	54
(3) フレッシュマン・フィールド・セミナー	55
3) 地域から/地域への応援・情報発信	59
(1) 公開講座	59
(2) 学生研究発表会	63
(3) はまだ灯2016	65
(4) 大学生による小中学校学習支援事業	66
(5) 匹見中学校学習等支援	67
(6) 中学生の島根県立大学訪問	68
(7) MAKE DREAM 2016	71
(8) 高大連携の取り組み	72
(9) NEARセンター市民研究員制度	73
(10) 講演会講師等・審査会委員等	75
2. 出雲キャンパス	79
1) 地域連携活動報告	81
(1) 生涯学習	81
①公開講座	81

②	サテライトキャンパス公開講座	83
③	地域、団体主催による出前講座	87
④	ぎんざんテレビ出前講座	89
(2)	学生の地域交流・地域貢献	91
①	学生ボランティア活動の促進	91
1.	学生ボランティア研修会	91
2.	学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア活動保険の実施	92
3.	学生へのボランティア情報提供	93
4.	3キャンパス合同学生ボランティア交流会	94
②	受託事業および地域活動への学生参加促進	95
(3)	教育機関との連携	97
①	小中高校等出前講座	97
②	小中学校体験学習	98
(4)	産公学連携	99
①	包括協定締結自治体との連携	99
②	受託研究・受託事業	99
1.	受託研究	99
2.	受託事業	100
出雲市	佐香地区介護予防教室事業（あじさいの会）	100
出雲市	児童虐待防止推進研修事業	101
③	NPO法人・関係団体・企業との連携	102
1.	出雲産業フェア2016への出展	102
④	各種審議会・委員会等への参加	103
(5)	広報・広聴活動	106
①	ホームページ等を活用した最新情報発信	106
②	キャンパスモニター会議	107
③	第6回島根県立大学出雲キャンパス タウンミーティングin邑南町	108
④	シニア・ジュニアキャンパスツアー	109
3.	松江キャンパス	
1)	地域に関する教育・研究活動	111
(1)	地域志向科目の位置づけ	113
(2)	『しまね地域共生センター紀要』の刊行	114
(3)	『地域研究と教育』の作成	114
(4)	研究連携協議会	114
2)	「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催	116
(1)	履修証明プログラム	116
(2)	公開講座の開催	117
(3)	客員教授による講演会	118
3)	地域活性化支援	119
(1)	企業・団体・NPO法人等との連携	119
①	健康栄養学科の地域活性化支援	121
②	保育学科の地域活性化支援	125
③	総合文化学科の地域活性化支援	125
④	連携協定	127
(2)	自治体との連携	128

①	松江市との教育連携協議会	128
②	松江市主催文化教育行事への協力	128
③	松江市立女子高等学校との連携	129
④	小泉八雲記念館との連携協定	129
⑤	正課授業における連携協力	129
4)	教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携	130
(1)	連携校協議	130
(2)	健康栄養学科の教育機関連携	132
(3)	保育学科の教育機関連携	133
(4)	総合文化学科の教育機関連携	134
5)	教育課程のための地域の施設・機関との連携	134
(1)	健康栄養学科の実習施設・機関との連携	135
(2)	保育学科の実習施設・機関との連携	135
6)	学生による地域貢献活動	137
(1)	学生の自主的なボランティア活動	137
(2)	キラキラドリームプロジェクト	140
7)	おはなしレストランライブラリーの地域連携活動	148

Ⅲ. 縁結びプラットフォーム事業

1.	事業概要	153
3	キャンパス共通の事業概要	153
2.	事業の主な具体的取組	154
島根県立大学／島根県立大学短期大学部		154

Ⅳ. その他の地域活動

1.	地域貢献プロジェクト助成事業	155
2.	島根県との連携	156
3.	松江工業高等専門学校との連携	157
4.	公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）との連携	158
5.	小泉八雲記念館との連携	159
6.	しまね産業振興財団・島根県発明協会との連携	160

おわりに		161
------	--	-----

参考

1.	大学憲章	163
2.	自治体・学校等との協定・覚書	164

I. 3 キャンパス合同事業

1.「地(知)の拠点整備事業」平成 28 年度全域プラットフォームの実施状況

1) 9 月連携会議

平成 28 年 9 月 28 日（水）午後、浜田キャンパス学生会館「カフェテリア」で、今年度の「9 月連携会議」を開催しました。

大学と地域が「出会い」、「次のステップへつなげる」ことをコンセプトに、自治体等関係団体から 39 名、浜田・出雲・松江の各キャンパスから教員 22 名の計 61 名が参加しました。

<イベント前半>（ポスターセッション）

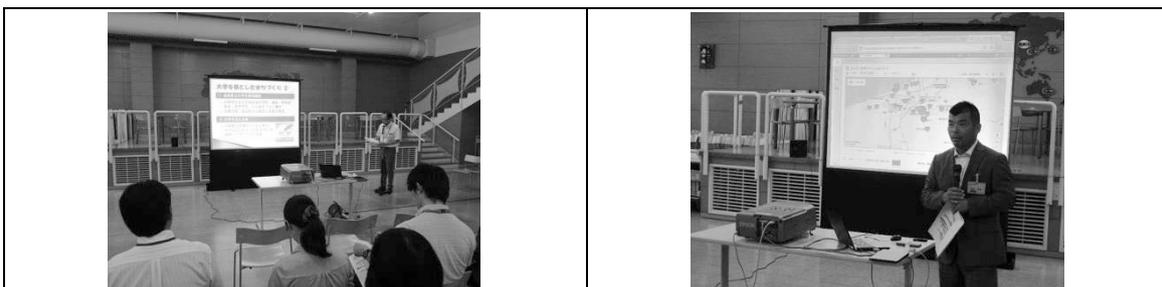
昨年度のテーマ別「分科会方式」を通じて作成された「構図」内の現状や課題をベースに、大学シーズをより分かり易く提示するため、ポスターセッション形式で本学教員の研究・アイデア等を参加の皆様へご説明しました。



活発な意見交換が行われました

<イベント後半>（ステージ発表）

浜田市及び益田市の担当者の皆様から、本学との連携についてご発表いただきました。



▲浜田市まちづくり推進課 上野様より

<テーマ>

大学を核としたまちづくりの歩み
ー大学・地域・行政のつながりー

▲益田市教育委員会社会教育課 大畑様

より

<テーマ>

クラウド環境を活用した
「ふるさと基盤教育」

会場内では、「ヨシタケコーヒー」の試飲コーナーを設け、缶コーヒーの生みの親であり、浜田市出身の三浦義武が編み出したコーヒーを多くの方々に味わっていただきました。

なお、今年度、浜田市と本学の共同研究で浜田キャンパスの2名の教員が「ヨシタケコーヒー」をテーマに研究を進めております。



多くの皆様に試飲いただきました

ご参加いただいた自治体等関係団体の皆様、ありがとうございました。



2) 縁結びプラットフォーム運営委員会総会

平成 28 年 5 月 31 日（火）午後、島根県立大学浜田キャンパスにて、「平成 28 年度縁結びプラットフォーム運営委員会総会」を開催しました。

以下の議事について、審議がなされ、いずれも承認されました。

当日の議事は以下のとおりです。

■ 議事

- ・ 第 1 号議案 日本海信用金庫の縁結びプラットフォーム運営委員会新規参画について
- ・ 第 2 号議案 平成 27 年度事業実績、事業評価(自己評価・外部評価)の報告について
- ・ 第 3 号議案 平成 25 年度から平成 27 年度における中間評価（自己評価・外部評価）の報告について
- ・ 第 4 号議案 平成 28 年度事業計画について

いただいたご意見等を整理・検討いたしまして、引き続き、本学の COC 事業の実施計画に反映させてまいりたいと思います。



3) 第4回全域フォーラム

平成29年2月23日(木)、浜田キャンパスを会場に、平成28年度島根県立大学「地(知)の拠点整備事業」成果報告会『第4回全域フォーラム』を開催しました。

自治体等関係団体のみなさま、県外の高等教育機関、一般企業・団体、地域の方々など計196名のご来場を頂きました。

今年度も、「しまね地域共育・共創研究助成金(COC研究費)」の成果報告のほか、浜田市・益田市と島根県立大学の共同研究の成果報告と浜田キャンパス学生研究発表会を併せて開催しました。

また今回は、来場いただいた皆さまと幅広く、そしてより深い意見交換が行えるよう、イベントの後半でポスターセッションを取り入れて開催したところ、大変活発な意見交換が行われ、大盛況のうちに終了することができました。

◆日時 平成29年2月23日(木) 9:30~14:00

◆会場 島根県立大学浜田キャンパス

講義・研究棟1階 大講義室1、中講義室3・4・5、学生会館カフェテリア

◆プログラム

<開会のあいさつ>

- ・公立大学法人島根県立大学 本田雄一 理事長
- ・浜田市 久保田章市 市長
- ・益田市 堀江勝幸 政策企画局長 (益田市長代理)



▲本田理事長あいさつ



▲久保田浜田市長あいさつ



▲堀江益田市政策企画局長
あいさつ (益田市長代理)

・浜田市・益田市と島根県立大学の共同研究報告会

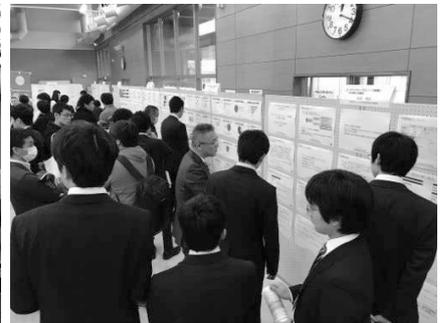
会場:中講義室 3	浜田市共同研究発表 「浜田市の新しいお土産の形」 島根県立大学 田中恭子 准教授(浜田キャンパス)
	浜田市共同研究発表 「コミュニティワゴンのニーズ調査とその導入可能性」 島根県立大学 松田善臣 准教授(浜田キャンパス)
	浜田市共同研究発表 「浜田市内の団地における買い物環境の調査」 島根県立大学 西藤真一 准教授(浜田キャンパス)
会場:中講義室 4	浜田市共同研究発表 「温泉施設を起点とした観光振興に関する研究」 島根県立大学 久保田典男 准教授(浜田キャンパス)
	浜田市共同研究発表 「ヨシタケコーヒーを活かした観光と地域活性」 島根県立大学 藤原真砂 教授(浜田キャンパス) 島根県立大学 金野和弘 准教授(浜田キャンパス)
	浜田市共同研究発表 「中国・寧夏回族自治区石嘴山市との「観光交流」を目指す方策の検討」 島根県立大学 井上治 教授(浜田キャンパス) 島根県立大学 福原裕二 教授(浜田キャンパス)
会場:中講義室 5	益田市共同研究発表 「萩・石見空港を利用した着地型観光と広域観光ルートの提案」 島根県立大学 西藤真一 准教授(浜田キャンパス)
	益田市共同研究発表 「保小中地域連携による「ふるさと基盤教育」の実証研究」 島根県立大学短期大学部 山下由紀恵 教授(松江キャンパス)
	浜田市共同研究発表 「若者の投票率向上に関する研究」—島根県浜田市の事例を参照して— 島根県立大学 光延忠彦 教授(浜田キャンパス)



▲共同研究報告会（登壇報告）



▲共同研究報告会（ポスターセッション）▲



・しまね地域共育・共創研究の成果報告会、学生研究発表会（浜田キャンパス）

会場：学生会館カ フェテリア	しまね地域共育・共創研究の成果報告会 「地域における起業家誘致・育成に関する調査研究」 島根県立大学 久保田典男 准教授(浜田キャンパス)
	しまね地域共育・共創研究の成果報告会 「小さなブランド化の可能性調査：棚田米を事例にして」 島根県立大学 豊田知世 講師(浜田キャンパス)
	しまね地域共育・共創研究の成果報告会 「石見地方の物流ネットワークの構築と共同化による地域産品振興」 —空荷トラックの活用、冷温冷凍・冷温保冷施設の構築、共有および食のブランド化— 島根県立大学 藤原真砂 教授(浜田キャンパス)
	しまね地域共育・共創研究の成果報告会 「島根の地を活かした療養者向けヘルスツーリズムの開発」 島根県立大学 石橋照子 教授(出雲キャンパス)
	しまね地域共育・共創研究の成果報告会 「ケーブルテレビを活用した健康情報サービスの取り組み」 島根県立大学 吉川洋子 教授(出雲キャンパス)
	しまね地域共育・共創研究の成果報告会 『『古事記』『出雲国風土記』の英訳研究』 島根県立大学短期大学部 松浦雄二 教授(松江キャンパス)
	学生研究発表会（浜田キャンパス） 「学生による石見地方企業の情報発信」—ウェブサイト作成の試み 島根県立大学 林秀司 教授 ゼミ生(浜田キャンパス)
	学生研究発表会（浜田キャンパス） 「浜田市の水産物ブランド化の効果と課題」 島根県立大学 林秀司 教授 ゼミ生(浜田キャンパス)
学生研究発表会（浜田キャンパス） 「里山の自然と地域の歴史を伝えるウォーキングイベント」 —体験交流プログラム造成の試み 島根県立大学 林秀司 教授 ゼミ生(浜田キャンパス)	



▲ 学生研究発表会（浜田キャンパス）



▲ 「しまね地域共育・共創研究助成金」
成果報告



▲ 「しまね地域共育・共創研究助成金」を通じた産学官連携のご紹介▲

4) しまね地域マイスター認定制度

本制度は、島根地域のあらゆる分野へ精通した学生を認定する、**本学独自の学士認定制度**です。1年次に3キャンパス共通科目『しまね地域共生学入門』にて、島根県の地域課題を概論的に学びます。2年次以降では(一部、1年次含む)『**選択専門科目**』として、地域課題を専門的に研究・学習する機会を設け、『**地域共生演習**』として**フィールドワーク**(現場に飛び出した学習)を取り入れて地域課題について学べるゼミを選択していきます。また、より地域に精通した人材育成の為に、高度な専門科目の取得、キャンパスを越えての『**地域課題総理解**』(他キャンパスとのディスカッション等)にて、複眼的に物事をとらえる能力を養います。



カリキュラムマップ

学年	1年	2年	3年	4年
演習科目				地域共生卒業研究
		地域共生演習		
専門科目	選択専門科目			
		地域課題総理解		
基礎科目	共しまね学入門地域			

『しまね地域マイスター』に認定された学生は、卒業時には自ら課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として社会に飛び出すことが出来る事を目標としています。

地域に対しては『地域事情に精通した人材』、『地域や人をつなぐ、コーディネート力を持つ人材』、『熱意をもち課題解決に取り組める実践力を持った人材』を育成することにより、自ら課題に対して考え・行動出来る人材として受け入れられることを目指していきます。

『しまね地域マイスター』認定を受けた学生が、将来的に自治体・企業等に就職を希望する際に有利にはたらく等、環境整備を行っていきます。

『しまね地域マイスター認定制度』各カリキュラムについて

しまね地域共生学入門

複雑な地域課題において、複数の専門からの知見により学ぶことで、実際に地域に出て実践する力を養います。

地域課題総理解

キャンパスを跨ぎ、それぞれの専門を交えて演習形式で議論・報告を行うことで、学際的に考えることの必要性を理解・学習します。

選択専門科目

『しまね地域マイスター』を取得するための認定対象科目です。

地域共生演習

関心のある地域課題の解決に向けて自らの仮説を設定し、フィールドワーク等を用いた客観的な論証を通じ、その解決策の提案力を養います。

地域共生卒業研究

地域課題について学んできたこれまでの知識を踏まえ、受講することで『しまね地域マイスター』取得が実現します。



5) しまね地域共育・共創研究助成の研究結果

(1)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）教授 藤原 眞砂
研究テーマ	石見地方の物流ネットワークの構築と共同化による地域産品振興 -空荷トラックの活用、冷温冷凍・冷温保冷施設の構築、共有および食のブランド化-

1. 研究目的
<p>石見地方では地元卸売業者が共同配送会社を設立し、共同で配送システムを構築し、システムティックな物流効率化を試みて来た。これにより雑貨や食産品を県外から取り寄せ県内の約 400 店舗の取引先に対して毎日の配送を実現している。</p> <p>ただ、業界の悩みは中山間地域に商品を配送したトラックの帰り便が空荷である。この帰り便の有効利用が業界の課題とされる。共同配送、空荷問題の実態を把握し、地域産品振興を構想する。</p>
2. 方法
<p>(1) 地元卸売業者の者が共同配送会社(Daily Collaboration Delibery)の空荷問題の実態解明 DCD 会長の吉田会長と DCD の立ち上げ時のコンサルタンの勝谷氏にヒアリング調査を実施し、配送システムの概要、空荷問題を含めた問題点を聴取した。</p> <p>(2) 中山間地域の特産品業者の物流コスト削減、販路開拓問題の実態解明 「加工食品の出荷についての(産品)事業所アンケート調査」(2017 年 1~2 月)を実施した。1) 配送先、配送車の種類、所要時間、頻度、出荷量、温度管理を石見、県内、県外にわけて現状把握した。そして 2) 「共同配送」システムの活用状況、利用意向などを問うた。システム利用意向を示した業者には載せたい品物、配送先等の利用意向の詳細も探った。</p> <p>(3) 中山間地域の特産品業者の空便の利用意向の解明 上記アンケート調査(2)-2)で確認した。</p> <p>(4) 中山間地域の特産品業者の浜田市の流通拠点(冷温冷凍・冷温保冷施設)の利用意向の解明 新システムに載せたい商品の温度管理(常温、冷蔵、冷凍)の別を問うことで流通拠点に備えるべき冷蔵、冷凍施設の需要を上記アンケート調査で探った。</p> <p>(5) シンポジウムの開催による情報収集、関係者の意見集約 上記の(1)から(4)の情報を基に、吉田、勝谷、経済同友会、産品業者を集め、二度に渉るシンポジウムを開催し、DCD の意義を再確認し、発展の方向性を議論した。</p>

<h3>3. 結果</h3>
<p>(1)全国で共同配送システムを有している地域は浜田市と高知市の2つのみである。互いの出荷量、事業規模が知られてしまうために相互の疑心暗鬼から、共同配送システムは成立、存続しないのが実情である。DCD 会長である吉田氏は地元の卸売り大手吉寅商店の社長でもあり、当初は吉寅に絡め取られるとの懸念も参加会員にあった。しかし、成立後は吉田氏の無私な精神から相互信頼が芽生え、共同搬送システムが16年以上存続した。会員相互間では親睦も盛んである。7つの配送ルートを持ち、配送の様々のルールも柔軟に構築されてる。システムの発足、存続の最大要因が理解出来た。(2)共同配送システムの存続、発展のためには'効率化'のためには1)参加企業数の増大と、'売り上げ増大'のためには2)県外への販路拡大が必要である。1)に関して見ると、の事業所アンケート調査(329社に配布、回収、有効回答数は140社)よれば35.2%の企業が参加の意向を示していた。回答には事業者名、住所、配送先等(2.方法の(2)参照)が記載されているので、今後はDCDと協力して配送ルートを再設計し、参加を喚起する働きかけをする必要があると考えている。これまでの帰りの空荷の問題もこれにより緩和の方向を探ることが出来よう。2)に関しては、すでに販路拡大のために本研究代表者は石見地域の産品業者を網羅したを策定している。しかし、これだけでは全国の消費者の目に触れる機会が限られているので、勝谷氏が主催する全国レベルの産品ホームページにリンクすると同時に、そこに石見の産品情報を組み込んでもらうことで販路の拡大を図ろうと考える。</p>
<h3>4. 研究成果の公表</h3>
<p>島根県立大学総合政策学会『総合政策論叢』34号(10月発刊)に「共同配送の飛躍を目指して」論文を投稿する。また勝谷氏主催のホームページに「いわみの産品ホームページ」を統合、リンクさせ、DIDの参加企業の広報を図る。</p>
<h3>5. 地域貢献の成果(地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。)</h3>
<p>DCDに事業所アンケートの情報を提供し、DCDの参加企業の増大、搬送ルートの再設計に貢献したい。この場合、回答事業書の企業情報の保護にも配慮する。また、販路の拡大に関しても、これまでの研究で構築した「いわみ産品ホームページ」をコンサルの勝谷氏の全国版にホームページにリンクし、販路の拡大を試みる。研究により得た成果、あるべき方向性は今後、地域経済の維持・発展に些かとも貢献することが期待される。</p>

(2)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）准教授 久保田典男
研究テーマ	地域における起業家誘致・育成に関する研究 ～「後継者人材バンク」の現状と課題

1. 研究目的
<p>島根県内の企業数は減少傾向にあり、とくに県内企業のほとんどを占める小規模事業者の減少が顕著となっている。島根県内において雇用創出を実現するためには、新規創業を促進させることもさることながら、既存の中小企業における後継者難を理由とした廃業を食い止めつつ、個々の事業の継続・発展を支援することが必要である。</p> <p>こうした中、2015年3月に中小企業向け事業引継ぎ検討会が公表した「事業引継ぎガイドライン」においては、後継者問題を抱えている小規模事業者と起業家とのマッチングを行う「後継者人材バンク」の機能強化が謳われており、今後の動向が注目されている。</p> <p>そこで本研究では、「後継者人材バンク」の取組みに焦点をあてつつ、その現状と課題の整理を踏まえ、地域における起業家の誘致・育成や、地方における事業承継支援のあり方を考察することを目的とする。</p>
2. 方法
<p>具体的な研究方法としては、「後継者人材バンク」の取組みの現状と課題を整理するため、「後継者人材バンク」を運営する事業引継ぎ支援センター（静岡県、長野県、広島県）に対してインタビュー調査を実施した。さらに上記の地域に立地し、事業承継支援に積極的な地域金融機関等にも、事業引継ぎ支援センター及び後継者人材バンクとの連携の可能性を確認するためにインタビュー調査を実施した。</p> <p>また、中小企業の事業承継支援に向けて大学や土業専門家がどのような役割を担うのかを考察するために、中小企業の事業承継支援を実際に行っている中小企業診断士、税理士、社会保険労務士などの土業専門家などを構成メンバーとする中小企業の事業承継に関する研究会に参加し、情報収集や意見交換を行った。</p>
3. 結果
<p>インタビュー調査の結果等から後継者バンクの課題として、起業家にとっては通常の起業に比べて経営の自由度が低くなること、起業家と後継者不在の事業者との間に経営理念や想いの共有が不可欠であり、経営方針等のすり合わせが必要となることなどがあることがわかった。</p> <p>事業引継ぎ支援センターと地域金融機関の間では「金融機関等連絡会」などの場を通して、情報の共有や人材育成に向けた連携が行われているものの、後継者人材バンクの活用については更なる連携の余地があることがわかった。</p>

以上を踏まえ、後継者人材バンク推進に向けた方策として、①U・Iターンの移住促進の取組みと組合せた支援体制の構築、②創業支援の取組みと組合せた支援体制の構築、③地域金融機関等の後継者バンクへの積極的関与、④承継前・承継後のフォローを行うための体制構築の4点を指摘した。

4. 研究成果の公表

研究成果については、2017年2月23日に島根県立大学浜田キャンパスにおいて開催された「第4回全域フォーラム」において、ポスターセッションによる発表を行った。

なお、本研究を契機として、事業承継における支援機関の役割に研究の焦点を当てる着想に至り、平成29年度科学研究費助成事業の採択が得られたことから、今後は科研費の研究に基づいて中小企業の事業承継における支援機関の役割の観点から研究成果を公表する予定である。

5. 地域貢献の成果（地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。）

本研究を契機として、浜田市事業承継推進調査アドバイザーや、益田市商工業振興会議委員長を務めつつ、実践的な立場から島根県西部における中小企業の事業承継問題の解決に向けた取組みに関わることができた。

(3)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）講師 豊田知世
研究テーマ	小さなブランド化の可能性調査：棚田米を事例にして

1. 研究目的
旭町坂本地区の主な産業は農業（稲作）であり、整備事業によって圃場や畦が整備された棚田を有している。ここでは良質な米が栽培されているが、JAの買い取り価格は一定のため、農業で生計が立てられるほどの収入を確保することは難しい。そこで浜田キャンパスの豊田研究室と松江キャンパス健康栄養学科の酒元研究室が共同で、坂本で栽培される米（「坂本米」）の高付加価値化の可能性をさぐる。
2. 方法
坂本米を天日干しさせた場合、1) 食味に変化があるのか、2) 西日本一美味しいと評価されている「仁多米」と比較して違いがあるか、3) ハデ干しによる費用対効果はどの程度あるのか、松江キャンパス健康栄養学科の酒元研究室と浜田キャンパス総合政策学部の豊田研究室で合同で調査する。 5-7月 研究打ち合わせ、プレ食味調査を実施 9月 豊田研究室にて、対象地の稲刈り、ハデ干しを実施。ハデ干し（天日干し）の労力と付加価値を推計。 10月松江キャンパスと浜田キャンパスで行われる学園祭にて、奥仁多米と坂本米についてブラインドをかけた比較対象試験を実施。調査項目：「香り」、「外観」、「味わい」、「感触」、「総合評価」の5項目を5段階で評価。対応のある2郡の中央値に差があるかどうか検定する、ウィルコクソン符号付順位和検定を実施して、ブランド米である仁多米と比較した。

<p>3. 結果</p>
<p>1) 食味に変化があるのか、2) 仁多米と比較して違いがあるのか、を検証するために、食味アンケートを実施した。食味アンケートでは、522名から結果を得た。アンケートはそれぞれのキャンパスで2日ずつ実施し、一日は奥仁多米とハデ干しした坂本米、もう一日は奥仁多米と機械乾燥の坂本米の食味を調査した。ウィルコクソン符号付順位和検定による食味調査の結果、以下の通りだった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 仁多米とハデ干しした坂本米==>5項目すべてで差がない • 仁多米と機械乾燥の坂本米==>外観、香り、総合評価に差があり、味わい、感触は差がない • 20代以下は仁多米と機械乾燥の坂本米==>差がない • 30代以上は仁多米と機械乾燥の坂本米==>仁多米のほうが外観、香り、総合評価の評価が高い <p>坂本米は機械干しよりもハデ干しの方が高く評価され、ハデ干しした場合は仁多米と同じくらい美味しいと判断されていた。機械米とハデ干しの味の違いは、年齢層が高いほど分かる結果となった。</p> <p>また、3) ハデ干しによる費用対効果の推計では、ハデ干しをするためには、10aあたり6人日の追加労働力の投入が必要となるが、ただし、仁多米と同程度の価格帯で販売できれば、追加労働力の投入があったとしても、10aあたりの人件費を約30万円確保することが可能であることが示された。ただし、輸送費が占める割合が比較的大きいため、人件費を確保するためには、販路方法の検討が必要となる。</p>
<p>4. 研究成果の公表</p>
<p>12月 旭町坂本地区にて、地域住民への成果報告会および意見交換会を実施 2月 合同成果報告会での発表 研究成果の一部は、坂本米販売広告に記載。</p>
<p>5. 地域貢献の成果（地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。）</p>
<p>地域資源が限られている地域でも、手をかけると高付加価値製品を生み出せる機会がある。その際に、客観的な評価と費用便益評価を行った上で、短期的な雇用（所得効果）を評価することは、新規定住者の所得確保の面から有効である。ただし、販売方法については検討が必要となる。都市部へ小ロットずつ販売する場合、輸送費が占める割合が大きい。そのため、輸送費が比較的小さい周辺地域や地元での販売量を確保するといった、販路開拓が人件費を確保するためには有効だろう。</p>

(4)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科（出雲キャンパス）教授 山下一也
研究テーマ	島根の地を活かした療養者向けヘルスツーリズムの開発

1. 研究目的
1) 大学教員の専門性を活かし、特定の疾患・症状に対応したヘルスケアプログラムを構築することで、療養者の健康課題解決に取り組む。 2) それぞれのヘルスケアプログラムは地域の特性（温泉・えごま・どじょうなど）を活用し、その地域独自のオリジナルプログラムとすることで地域の魅力拡大、ケアとツーリズムの両面から対応できる人材育成に繋げる。
2. 方法
1) 教員 2～3 名のグループで、専門性を活かし、疾患・症状に対応したヘルスケアプログラムを検討した。疾患・症状に悩む人の症状改善を図るため、島根県内の温泉・食・特産品等の資源を有効に活用し、特定のターゲットに向けて健康増進や病状の緩和を目的としたツアープログラムを構築した。 2) 構築した5つプログラムでモニターツアーを実施し、健康に対する効果測定・検証を行った。糖尿病・ロコモ予備軍の中老年など、ターゲット別に5つの「ヘルスケアプログラム」を構築し、モニターツアーを実施し効果測定を行った。 ① 心と身体をリフレッシュ！～糖尿病患者さんのためのヘルスツアー～ ターゲット：糖尿病患者 ② 健康寿命を延ばそう！ロコモ予防で素敵にウェルエイジング ターゲット：中高年女性 ③ 幸せ力UP ついでに介護力UP ツアー ターゲット：認知症介護家族 ④ マイナスをプラスに転じる旅 ターゲット：大手企業の職員とその家族 ⑤ エゴマ収穫探検とエゴマクリーム使用体験の旅 ターゲット：乾燥肌及びスキンケアに関心のある人
3. 結果
・参加総数は105名であった。参加者の年代は、小学生から80歳代まで幅広く、男性31名、女性74名であった。 ・参加者の80%が「満足」、「やや満足」を加えると98.8%が満足だった。

- 専門性を活かし、対象毎の健康課題解決に向けたツーリズムを企画・実施でき、今後に向け基盤ができた。
- プログラム毎に心理測定尺度やストレス度チェックなどにより、健康効果検証を行い効果を確認できた。
- 参加者への聞き取り調査等をまとめ、ガイドブックにまとめるなど、地域資源の魅力拡大や人材育成につながった。
- 一部のツアーは商品化し、株式会社バイタルリードの「シェアナビ」に掲載、Web上で集客するなど、商品化に繋げることができた。

4. 研究成果の公表

平成29年2月、島根県立大学浜田キャンパスで行われた全域フォーラムにおいて報告した。

平成29年3月、島根県が主催するヘルスケアビジネス報告会において報告した。

その他、プログラム毎に成果を学術集会等に発表の予定である。

5. 地域貢献の成果（地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。）

- 県内の療養者団体等を対象として、島根県民が元気になるよう、今後も魅力ある課題解決に向け新たなプログラム開発に取り組む。

- モニターツアーということで安価な価格で実施をしたため、売上ではバスの借料といった経費を回収できていない。本格的なビジネスとして展開するに当たり、最少催行人数の設定や現地集合型のプランへの切り替え等を検討する必要がある。

- 島根県立大学の研究倫理審査により周知の時間が十分に確保できなかったため、研究と併せた形でツアーを実施する場合、開催時期等について再考が必要である。

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科（出雲キャンパス）教授 吉川洋子
研究テーマ	ケーブルテレビを活用した健康情報サービスの取り組み

1. 研究目的
<p>ケーブルテレビは身近なコミュニティの情報や行政サービスの紹介など地域の活性化や住民の暮らしに有益な情報提供ができる効果的な情報媒体である。大田圏域では、ケーブルテレビの加入率が80%と高く、島根県立大学出雲キャンパスは、「ぎんざんテレビ健康講座」を当地域において5年間行ってきた。さらに、地域の健康ニーズに答え、地域と大学・学生とのつながりを強化した番組づくりを志向し、大田市、県央保健所、石見銀山テレビ放送、大学の4者で企画委員会を立ち上げ検討し、2016年度はロコモティブシンドローム（運動器症候群、以下「ロコモ」という）予防を目指した活動、乳がん自己検診向上をめざした番組を制作・配信した。その効果を評価する。</p>
2. 方法
<p>1) 大田市、県央保健所、石見銀山テレビ放送、大学の4者で企画委員会の開催 6月～2月 6回</p> <p>2) 番組の作成</p> <p>(1) ロコモ予防 目標：ロコモの認知度向上</p> <p>ロコモの認知度を向上させることを目的としたオリジナルPR動画「Try40cm～大田市ver.」を制作し、ケーブルテレビで放映を開始した。動画への出演者は地元市民（大田市役所、県央保健所、大田高校、大田市立病院、久手町民他）および島根県立大学出雲キャンパス学生とし、出演人数は200人を超えた。PR動画は番組の合間に繰り返し放映することで、放映時間帯が分散され、様々な年代の方が視聴可能となった。</p> <p>(2) 乳がん検診 目標：乳がん自己検診の向上</p> <p>乳がんについての知識や自己検診の必要性、自己検診方法について番組を作成した。島根県立大学出雲キャンパスがんを考える学生の会「てんしんはん」の協力を得てPR動画が完成した。特に、自己検診の方法については、一般の視聴者の意見も取り入れ、幅広い年齢層に視聴されることを考えた内容とした。</p> <p>3) 啓発普及活動への参加</p> <p>地域で開催される祭りや健康イベントに参加し、ロコモ度測定や体力測定の実施、乳がんの自己検診の啓発活動にかかわる活動等に学生と教員が参加した。</p>

4) 調査の実施

番組放映開始1ヵ月後（ロコモ）、番組放映開始前（乳がん）に、同市内スーパーマーケット2カ所で来店者にロコモおよび乳がんに関する街頭調査を実施した。

3. 結果

(1) ロコモ認知度向上

平成26年に同市民を対象に行ったロコモ認知度および理解度調査では、認知度が30.7%、理解度が15.1%であった。今回実施した街頭調査では、認知度が22.5ポイント、理解度が14.4ポイント上昇し、ロコモは着実に地域住民に浸透してきていた。しかし、理解度は認知度に比べまだ低い傾向にあった。ロコモの認知度上昇においては一定の成果が表れたと評価できる。今後は、ロコモの理解度向上を視野に入れたPR活動を強化し、ロコモの予防対策に向けた活動を地域と共に検討していく必要があると考える。

(2) 乳がん自己検診の向上

大田市民を対象に行った調査では、自己検診が早期発見に役立つことについては全員が知っていた。一方で、自己検診実施の有無では、自己検診を「定期的に行っている」20%、「たまに行っている」34%であった。年代別では、50代、60代、70代で約20%で5人に1人が定期的に自己検診を実施していた。また、乳がんの画像検診（マンモグラフィー）を2年以内に47.5%と約半数が受診していた。乳がんの自己検診についての調査(2013)では、自己検診の実施が34.5%、そのうち1か月に1回以上の定期的に行っている者が60%であり、今回の調査結果でも同程度であったと考えられる。自己検診しない理由として、自己検診のやり方がわからないという人が多い。今後、番組の効果を調査していく予定である。

4. 研究成果の公表

日本看護研究学会（2017.8）において発表予定である。

5. 地域貢献の成果（地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。）

地域と協働して地域の健康課題に焦点をあて、ケーブルテレビを介して広く地域へロコモの認知度、乳がんの自己検診についてのPRを実施できたことは一定の効果があったと考え、ケーブルテレビを活用した地元住民参加型の新たな健康情報サービスの有効性が示唆された。今後は、さらにケーブルテレビの活用方法を検討し、健康増進や疾病の早期発見などに向けた活動を地域と共に展開していく必要があると考える

(6)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科（出雲キャンパス）准教授 松本玄智江
研究テーマ	食の歳時記 ～健康を支える地域特有の食文化の伝承～

1. 研究目的																										
出雲市佐田町吉野地区における「残したいふるさとの味」、「伝えたいふるさとの味」のレシピを発掘し、地域の「食文化」の継承する取組みを行う。																										
2. 方法																										
1) 農作業体験：休耕地に農作持ちの栽培を行う。地域住民の指導のもと現地での農作業を学生とともに実施する。作物の植え付けから、管理、収穫までを体験する。																										
2) 「食の歳時記」作成 吉野自治会ならびに婦人部の協力を得て、「伝えたいふるさとの味」「残したいふるさとの味」のレシピを発掘し、「吉野の里 ふるさとレシピ」としてレシピ本を作成する。																										
3. 結果																										
1) 農作業&交流	<table border="1"><thead><tr><th>月日</th><th>参加人数</th><th>作業内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4月10日</td><td>5</td><td>ジャガイモ, 落花生植え付け</td></tr><tr><td>7月2日</td><td>2</td><td>ジャガイモ収穫 黒豆植え付け</td></tr><tr><td>7月9日</td><td>3</td><td>草刈り</td></tr><tr><td>7月17日</td><td>3</td><td>草刈り</td></tr><tr><td>7月24日</td><td>2</td><td>キュウリ, フロッコリー他植え付け</td></tr><tr><td>8月28日</td><td>1</td><td>草刈り 収穫</td></tr><tr><td>10月30日</td><td>1</td><td>落花生・黒豆収穫</td></tr></tbody></table>	月日	参加人数	作業内容	4月10日	5	ジャガイモ, 落花生植え付け	7月2日	2	ジャガイモ収穫 黒豆植え付け	7月9日	3	草刈り	7月17日	3	草刈り	7月24日	2	キュウリ, フロッコリー他植え付け	8月28日	1	草刈り 収穫	10月30日	1	落花生・黒豆収穫	
月日	参加人数	作業内容																								
4月10日	5	ジャガイモ, 落花生植え付け																								
7月2日	2	ジャガイモ収穫 黒豆植え付け																								
7月9日	3	草刈り																								
7月17日	3	草刈り																								
7月24日	2	キュウリ, フロッコリー他植え付け																								
8月28日	1	草刈り 収穫																								
10月30日	1	落花生・黒豆収穫																								
2) 「吉野の里 ふるさとレシピ」作成 3 レシピの掲載 これまでの吉野地区での活動状況の掲載																										
4. 研究成果の公表																										
1) 平成 29 年 3 月 10 日 出雲キャンパス研究成果報告会でポスター発表																										
2) 出雲市佐田町吉野自治会の皆さん, 農作業に参加した学生へ完成したレシピ本の配付																										

5. 地域貢献の成果（地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。）

1) H26年から学生とともに当該地区での農作業体験、地区行事への参加等を通して地域の活性化に向けた活動を継続してきたが、活動の認知度をあげることは難しかった。今回、活動の成果を「レシピ本」という見える形にしたことで認知度を上げることにつながるのではないかと考える。

2) 学生にとって、農作業や地域住民の方々との交流は「地域を考える」きっかけになったと思われる。このような活動を継続するために、学生が主体的に関わるができる仕組み作りをする必要があると思われる。また、地道な活動を継続することで地域の新たな魅力の発見、発信に繋げていくことが可能になると考える。

(7)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科（出雲キャンパス）講師 加藤真紀
研究テーマ	「地域在住高齢者の死生観と終末期療養ニーズ」

1. 研究目的
地域で暮らす高齢者の死生観や終末期療養ニーズを調査し、今後の地域づくり及びケア提供の体制構築のための基礎資料を作成すること。
2. 方法
1) 対象地区住民へのヒアリングおよび質問紙調査 対象地区：出雲市平田地域 北浜地区・鰐淵地区 出雲市平田地域の北浜地区・鰐淵地区はそれぞれ高齢化が進んでおり、高齢化率（2015年4月）は北浜地区で41.4%、鰐淵地区で42.6%である。
2) 在宅医療・介護等の研修会・ワークショップ等を企画し、地域住民とともに学び合い、安心して暮らすための地域づくり、ケア体制について検討する。
3. 結果
1) 質問紙調査の結果 ・対象地区へ調査票を配布。回収数49部。・男性17名(34.7%)、女性31名(63.3%)。 ・平均年齢74.4±13.7歳。男性76.1±7.2歳、女性73.5±16.2歳。 ・調査結果では、治る見込みがない病気を抱えた時に過ごしたい場所として、ホスピス・緩和ケア病棟のある病院、あるいは自宅を希望する人の割合が高い割合を示しました。その背景には、安心して過ごしたい、住み慣れた場所で過ごしたいとの希望があることが推察されました。そして、可能な限り住み慣れた地域で、自宅で過ごしていくためには、家族の理解や協力とともに、かかりつけ医、訪問看護師、ホームヘルパーなどの専門職の支援が必要であると考えている人が多くおられました。
2) 「人生のエンドステージに関する意識調査」報告会・講演会の実施 日時：平成29年3月30日 10時～12時 場所：島根県立大学出雲キャンパス217講義室 参加者：16名 内容：「人生のエンドステージに関する意識調査」報告（加藤真紀） 「これからの地域の発展のために」講演（島根県健康福祉部健康推進課課長 村下伯氏）

4. 研究成果の公表
<ul style="list-style-type: none"> • 調査報告会の実施 • 事業報告書を作成、関係機関、調査協力者等へ配布。
5. 地域貢献の成果（地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。）
<p>• 可能な限り住み慣れた地域で、自宅で過ごしていくためには、家族の理解や協力とともに、かかりつけ医、訪問看護師、ホームヘルパーなどの専門職の支援が必要であると考えている人が多くおられました。地域の特性をふまえた体制を構築するとともに、医療・介護サービスの専門職について情報発信をおこない、利用者の理解を促進することが必要であると思われました。</p> <p>• これからも変わりゆく北浜地区の中で、住み慣れた家・地域で暮らし続けていくには、本人の思いや希望について、本人と家族、支える人々で共有していくことが課題であると思われました。</p>

申請者	島根県立大学 短期大学部 総合文化学科（松江キャンパス）教授 岩田英作
研究テーマ	島根の民話資料の保存と整理—ふるさと郷育（教育）への活用に向けて—

1. 研究目的
<p>暮らしの中で親から子どもへと、その地域に根差した民話が語り継がれていた時代は過ぎて、放っておけばやがて消えてなくなる運命にある。</p> <p>幸い、ここ島根では、島根県立大学名誉教授田中瑩一先生らのご尽力によって、今は亡き語り部たちの肉声がカセットテープの中に残されている。島根県の出雲地方、石見地方、隠岐地方のそれぞれに伝わる民話が6000近く残されており、それぞれの地域の風土や文化を知る上できわめて貴重な資料である。</p> <p>しかしながら、これらの昔話は半世紀近く前に録音されたテープの状態では保存されており、テープの劣化も年々進行している。</p> <p>それらの貴重な資料の保存の質を高め、次代へ民話を継承していくことは、島根に生きる人々の暮らしや文化を再認識し、生まれ育ったふるさとへの愛着と誇りを育むことにほかならない。</p> <p>本研究では、民話の収録されたカセットテープのデジタル化（永久保存化）を行う。</p>
2. 方法
<p>1. 民話リストの作成</p> <p>採取の際の記録用紙を参考とし、地域、テープナンバー、採取年月日、採取場所、語り手情報、民話の題名についてまとめる。リスト作成は申請者と総合文化学科2年卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生が担当し、田中瑩一氏の指導を適宜受けながら進める。</p> <p>2. テープのデジタル化</p> <p>民話リストの作成が完了した地域から順次テープを業者に送り、テープのデジタル変換を行う。</p>

3. 結果	
以下の地域の民話テープについてデジタル化を行った。	
出雲市	23本
美保関町（現松江市）	12本
安来市	24本
玉湯町（現松江市）	31本
湖陵町（現出雲市）	15本
	計105本
4. 研究成果の公表	
研究成果は、CD、印刷物にまとめて公表し、民話を採集した各地域に還元する。また、採集した民話を実際に語ることによって、民話の保存と継承、ふるさと郷育（教育）に役立てる。	
5. 地域貢献の成果（地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。）	
民話はわらべ歌等と同様に、その土地の暮らしや人々の考え方を伝える貴重な文化資源である。各家庭でほとんど語られることがなくなってしまった現代においては、意識的に民話等を収集し、記録・保存することを心がけなくては、いずれは失われてしまう運命にある。県立大学の役割として、そういう地方の文化資源の保存に関わることは意義のあることではないだろうか。	

申請者	島根県立大学 短期大学部 総合文化学科（松江キャンパス）教授 松浦 雄二
研究テーマ	『出雲国風土記』の英訳研究

1. 研究目的
<p>平成 23 年度より平成 25 年度までの 3 年間にわたって行われた、出雲神話翻訳研究会での『古事記』出雲神話翻訳による地域貢献研究活動、さらに COC しまね地域共創基盤研究費助成による平成 26～27 年度の「『出雲の国風土記』の英訳研究」の活動を継続し、『古事記』と『出雲国風土記』において相補的に構成される「出雲神話」の英訳と注釈の充実を目指しながら、出雲神話翻訳研究の成果であるホームページに随時公開していく。</p>
2. 方法
<ul style="list-style-type: none"> ・上記 1「研究目的」で述べた趣旨を踏まえ、さらに広い成果公開のための「出雲神話翻訳研究会」ウェブサイト充実させていく。インターネットによって継続的に、出雲を中心とする山陰の文化を広め地域振興の一助とするという目標に向かうべく、荒神谷博物館館長・NPO 法人出雲学研究所理事長藤岡大拙氏と継続して連携して翻訳研究を重ねていき、藤岡氏の本学における公開講座「出雲神話翻訳研究会」（平成 23～25 年度）、「風土記の語る神話」（平成 26、27、28 年度）を踏まえ、『古事記』と『風土記』の出雲神話にまつわる箇所を英訳する。 ・英訳にあたっては、藤岡氏の、地域に住む者だから伝えられる、物語の背景の風景心情が打ち出された解釈を訳に反映させることを目標とするが、解釈を本文の文言に直接的に訳出できない場合は、注釈として出す。 ・英語は、高校 1～2 年生ぐらいの水準の英語を目指し、多くの若い人に利用してもらえるものにする。 ・『古事記』『出雲国風土記』ならびにそれらの英訳に関連する最新の研究も盛り込むために、随時担当者研究会を開く。

3. 結果

今年度は、平成 28 年度松江キャンパス公開講座「椿の道アカデミー」の「出雲国風土記の語る神話—古代出雲人(びと)の信仰世界」(担当：NPO 法人出雲学研究所理事長 藤岡大拙氏、計 5 回)の開講と、非公開による研究会により遂行した。英語訳に関する研究会は松江キャンパス総合文化学科の松浦雄二教授が進行役をつとめ、藤岡氏の講演内容について研究、訳出内容と公開の方針などを検討しながら、少しずつ訳出作業を行い、山村桃子講師からは日本古代文学の専門家の立場からの語学的内容的な補足的説明を得、英語訳については、ラング クリス准教授とキッド ダスティン講師が、ネイティブ・スピーカーの立場、また「外国人から見た出雲神話世界の魅力」の観点から助言を行いながら、英訳の精度を高め、注釈の内容を工夫する作業をしている。英語訳は、作業の進行に合わせて、翻訳成果を順次デジタル化し、平成 24 年度末に立ち上げたウェブサイト「出雲神話翻訳研究会～出雲人が語る出雲神話～」を随時更新していき、次年度以降も適宜更新していく予定である。

2016 年 4 月～ 適宜 Web サイト「出雲神話翻訳研究会～出雲人が語る出雲神話～」修正加筆・調整 (立ち上げ 2013 年 3 月 29 日)。

2016 年 6 月～9 月 NPO 法人出雲学研究所理事長 藤岡大拙氏による公開講座「出雲国風土記の語る神話—古代出雲人(びと)の信仰世界」計 5 回。

2016 年 7 月～10 月 公開講座「風土記の語る神話」テープ起こし。

2016 年 11 月～ 学内担当者各自で、起こされたテープの内容を確認・研究・訳出作業、年度末の研究会に向けて課題・問題を検討。翌年の COC 全域フォーラム(浜田キャンパス)を目標に、注釈内容絞り込み。

2017 年 1 月～3 月 学内担当者による英訳のチェック、Web サイトの次年度メンテナンス・更新について業者と連絡調整。

2017 年 2 月 COC 全域フォーラムに参加、研究と地域との連携の在り方について参加者と意見交換・交流を行う。

2017 年 3 月 COC 研究連携協議会で報告。学外共同研究者とともに研究会。継続的に翻訳・推敲作業。

「古代出雲人(びと)の信仰世界」という副題をつけられた今回の公開講座において、核となる箇所はいわゆる国引き神話で、今回の講座ではポイントは二つあった。国引き神話における四つの国引きエピソードの成立過程が諸説ある中での、独自性のある見解をどのように打ち出すことができるかがまず重要な点であり、そのことが古代出雲人の信仰世界のあり方とどのように結びついているかを説明することがもう一つのポイントである。これらのポイントを常に踏まえ、各講座の内容を英訳・注釈にまとめる作業をすべきである。

4. 研究成果の公表
研究成果の公開は、WEB サイト「出雲神話翻訳研究会～出雲人が語る出雲神話～」(http://izumo-kojiki.com/)で行い、随時更新していく。
5. 地域貢献の成果（地域課題に対する提言、示唆等の考察をご記入ください。）
<p>島根県の地域振興に観光が欠かせないことは言うまでもないが、その観光について、本プロジェクトの地域協力者藤岡大拙氏は、「観光マインドとは、地元の観光資源を自信と誇りをもって、来訪者にすすめる積極的な心である」と述べ、風土記の国引き神話は、出雲人の自負と誇りが背景になっていることを力説する(公開講座より)。一方、日本各地に、それぞれの地域の神話伝承がそれぞれの地域の人々によって大切に保存・継承されており、それぞれの神話文化は何らかの形で現在の生活に生かされている。であれば、各地域の神話文化伝承のあり方にも敬意を払いつつ、出雲の神話文化の独自性とは何かを考えていくべきであろう。独自性に関するそのような考え方を、当地の神話文化を踏まえた地域振興に生かすことができれば、より広くより多くの人々にアピールするのではないか。</p>

6) 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成 29 年 2 月 23 日開催）

本学では「浜田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など浜田市の施策に有用なテーマについて浜田市と共同で研究をおこなっております。

本年度においては、平成 29 年 2 月 23 日（木）に浜田キャンパス講堂を会場にして開催された、文部科学省 平成 28 年度「地(知)の拠点整備事業（大学 COC 事業）」成果報告会 第 4 回全域フォーラムの中のプログラムとして、平成 28 年度の研究成果報告会がおこなわれました。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

なお、本年度の研究テーマは以下の 7 件です。

《本年度の研究テーマ》

○浜田市の新しいお土産の形

島根県立大学 田中恭子 准教授（浜田キャンパス）

○コミュニティワゴンのニーズ調査とその導入可能性

島根県立大学 松田善臣 准教授（浜田キャンパス）

○浜田市内の団地における買い物環境の調査

ーバス事業者との共同利用促進活動の可能性も視野に入れて

島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）

○温泉施設を起点とした観光振興に関する研究

島根県立大学 久保田典男 准教授（浜田キャンパス）

○ヨシタケコーヒーを活かした観光と地域活性

～「コーヒーの薫るまちづくり」のための調査研究～

島根県立大学 藤原真砂 教授（浜田キャンパス）

島根県立大学 金野和弘 准教授（浜田キャンパス）

○中国・寧夏回族自治区石嘴山市との「観光交流」を目指す方策の検討

島根県立大学 井上治 教授（浜田キャンパス）

島根県立大学 福原裕二 教授（浜田キャンパス）

○若者の投票率向上に関する研究

島根県立大学 光延忠彦 教授（浜田キャンパス）



7) 益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成 29 年 2 月 23 日開催）

本学では「益田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など益田市の施策に有用なテーマについて、益田市と共同で研究をおこなっております。

本年度においては、平成 29 年 2 月 23 日（木）に浜田キャンパス講堂を会場にして開催された、文部科学省 平成 28 年度「地(知)の拠点整備事業（大学 COC 事業）」成果報告会第 4 回全域フォーラムの中のプログラムとして、平成 28 年度の研究成果報告会がおこなわれました。当日発表された研究テーマは以下の 2 件です。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

《本年度の研究テーマ》

○萩・石見空港を利用した着地型観光と広域観光ルートの提案

島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）

○保小中地域連携による「ふるさと基盤教育」の実証研究

島根県立大学短期大学部 山下由紀恵 教授（松江キャンパス）



2.3 キャンパス合同学生ボランティア

1) 3 キャンパス合同学生ボランティア企画

平成 28 年 7 月 18 日に 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会を松江キャンパスにて開催しました。この交流会は松江・出雲・浜田の 3 キャンパスの学生が日頃行っているボランティアを相互に理解し合い、ボランティア活動によるつながりをつくることを目的に開催しています。この日は 3 キャンパスの学生 31 名、教職員 8 名の合計 39 名の参加があり、各キャンパスの活動報告や 3 キャンパス合同ボランティア活動の企画を学生主体の運営で進めました。

【午前の部】 3 キャンパスのボランティア活動紹介

午前はアイスブレイク（自己紹介）から始まり、各キャンパスごとにそれぞれ特色のあるボランティア活動の報告がありました。

- 松江キャンパス 総合文化学科 2 年 林紗羅「ボランティアサークルvolcano活動報告」
- 松江キャンパス 総合文化学科 2 年 小松華「東日本災害ボランティア いわてGINGA-NET活動報告」
- 浜田キャンパス 総合政策学部 2 年 原大地「浜田キャンパスのボラ紹介」
- 出雲キャンパス 看護学部 3 年 若葉志保「訪問看護ボランティア」



【開会・アイスブレイク】



【松江キャンパス総合文化学科2年 林紗羅】



【松江キャンパス総合文化学科2年 小松華】



【浜田キャンパス総合政策学部2年 原大地】

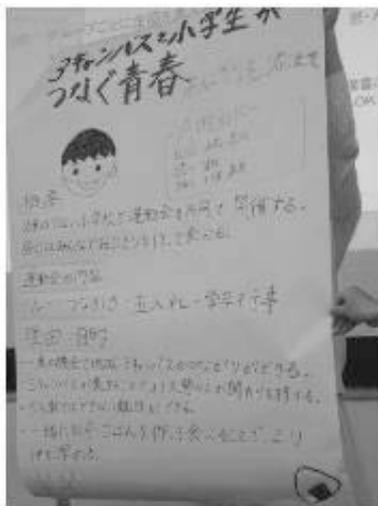


【出雲キャンパス看護学部3年 若葉志保】

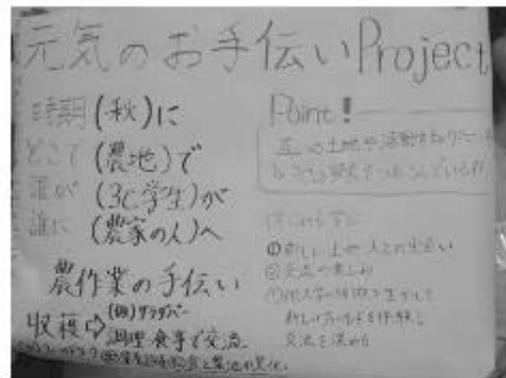
【午後の部】 3キャンパス合同ボランティア活動の企画



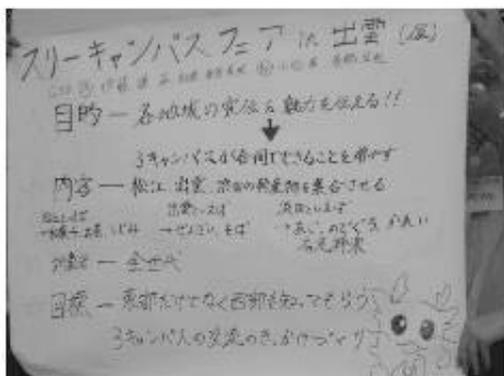
会食を挟み交流が深まった午後は3キャンパス合同でするボランティア企画を6グループに分かれ繰り返上げました。各グループのプレゼン後、参加者全員による投票が行われました。



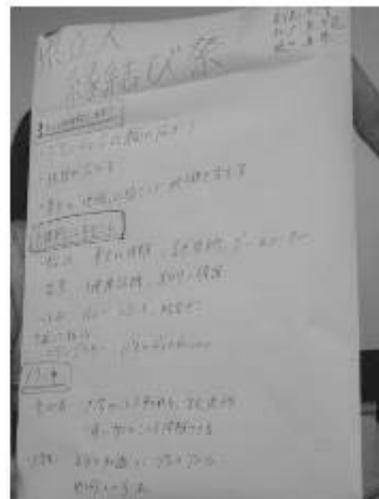
A「3キャンパスと小学生がつなぐ青春」



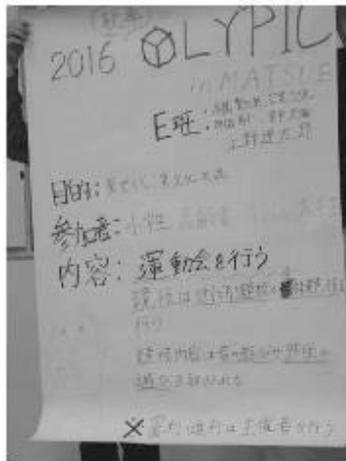
B「元気お手伝いproject」



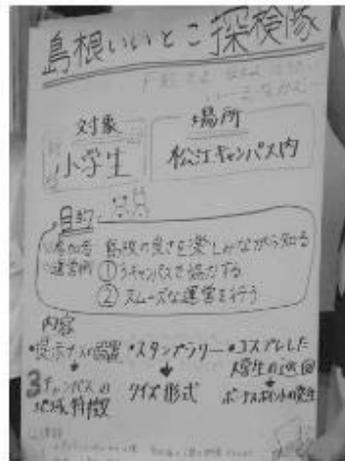
C「スリーキャンパスフェアin出雲」



D「県立大緑結び祭」



E「2016秋季OLYMPIC」



F「島根いいとこ探検隊」

大きく分けて「地域に向かう活動」「小学生と運動会」「3キャンパス合同学園祭」の企画が発表され、それぞれ3キャンパスの特色を生かした内容でしたが、投票の結果「3キャンパス合同学園祭」に決定しました。最後に3キャンパスの代表を選出し、秋頃の企画実施にむけ思いをひとつにしました。



【“島根のポーズ”で一致団結！！】

2) 学生ボランティア報告会・研修会

平成 28 年 5 月 11 日、学生のボランティア活動への参加意識を高めることを目的として、出雲キャンパスを会場に学生ボランティア報告会・研修会を開催しました。

当日は、出雲キャンパスを主会場にして、浜田キャンパスにも同時中継され、両キャンパスの学生が参加しました。

【学生によるボランティア活動の報告】

- ・がんを考える学生の会「てんしんはん（いなだひめプロジェクト）」
- ・東日本大震災災害復興支援ボランティア「いわてGINGA-NETプロジェクト」

【講演】

「ボランティア活動の魅力」

講師：古澤 俊司 氏 島根県立青少年の家（サンレイク）

【地域の方々によるボランティア紹介】

- ・国立三瓶青少年交流の家
- ・出雲市社会福祉協議会
- ・島根県青少年の家（サンレイク）



講演を聴いていた学生の感想には、

▶ ボランティア活動を支援する大学の取り組みや先輩たちの活動を聞く事で安心して参加する意欲が湧いてきた。

▶ 地域のボランティア紹介では、色々なボランティア活動がある事や実際の活動内容が分かって、興味が湧いた。

などがあった。

古澤氏の講演では、ボランティアを体験する事の意義や多様な価値観の理解などを楽しく学ぶ事ができた。

3) 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会

平成 28 年 11 月 26・27 日に 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会を開催しました。この交流会はボランティア活動に取り組んでいる 3 キャンパスの学生が交流することで繋がりを深め、異なった活動視点を相互に理解し、学生ボランティアの質の向上を図ることを目指しています。

7 月の交流会以降、3 キャンパスの代表者が中心となり、企画を練ってきました。そして、NPO 法人緑と水の連絡会議の方にご協力いただき、大田市温泉津町のわさび田にてボランティア作業をすることになりました。

【1日目】

この日は3キャンパスから学生20人の参加があり、生産者の長見さんをはじめ、地域の方に手ほどきを受け、わさびの苗植えのボランティアをさせていただきました。はじめにわさび田に流れる落ち葉などを清掃。山に自生しているわさびの苗を採り、清流で根を洗い、苗の長さを切りそろえる作業をしました。その苗を石で造った畝で囲い、2時間程の作業で3段のわさび田に約900本を植え付けました。急こう配の山や冷たい水の中での作業を体験し、わさび田の管理の大変さを実感したとともに、先祖代々受け継がれたわさび田の歴史、三瓶特有のわさび品種を守りたいという地域の方の取り組みなどを知ることができました。作業終了後には長見さんお手製のおむすびにすりたてのわさび、わさび漬け、わさび味噌をご馳走になりました。本物のわさびを味わった学生たちからは歓声と笑顔があふれました。



【山道を登ってわさび田へ行きます】



【自生しているわさびを採取して苗を作ります】



【植付けたわさびが収穫できるのは3年後】

夜は三瓶青少年交流の家にてグループワークを行いました。わさび田のボランティア活動で感じたことをグループ共有・全体発表し、二日目の学習会の準備としました。

【2日目】

2日目は大田市地域おこし協力隊、NPO法人緑と水の連絡会議の方々にお越しいただき、意見交換会とワークショップを行いました。

●「地域おこし協力隊」の皆様からお話

大田市内で『地域おこし協力隊』としてご活躍の方々にお越しいただき、ご自身の経験や地域活動に対する思いなどをお聞きました。

◎西島一泰 様（大田市の教育魅力化、山村留学の魅力化）

◎三冢本巨 様（温泉津沖泊への移住・定住の促進）



●ワークショップ「人生グラフ」の作成

自分の人生を振り返り「壁にぶつかった時」「そこからどう乗り越えたか」などモチベーションの起伏をグラフ化し、今の自分と向き合うワークです。またそこから「これからの自分」「夢に向かって明日からできること」を導きだし、全員の前で目標宣言をしました。

過去と今の自分を見つめ直しなりたい自分への目標を語る姿は、今回の活動をとおして一人ひとりが何かを感じ一歩進んだ印象を受けました。



【感想】松江キャンパス学生代表 総合文化学科2年 山岡さくら

今回の3キャンパス合同ボランティアは学生同士のつながりはもちろん、地域の方たちとのつながりもできた貴重な経験となりました。特に印象に残っているのは、わさび農園でのボランティアです。実際に管理されている長見さんのお話を聞くことができ、代々受け継いできたわさび農園への想いにふれることができました。また様々な困難を乗り越え、今のわさび農園があるということを目の当たりにしました。これらのお話からこのわさび農園が未永く続くために、学生が積極的に関わりをもっていけるような活動ができればいいと強く感じました。

また翌日の学習会では大田市の地域おこし協力隊の方のお話から、自分の人生や今後の目標について深く考えることができ、自分自身の今後の生活の活力となりました。

3. 学生災害ボランティア

1) 熊本地震に伴う災害ボランティア活動記録

○熊本地震・災害ボランティアに参加して

総合政策学部 2年 亀井 直樹

私は、熊本地震・島根県立大学学生災害ボランティア隊の一人として、災害復興支援に行かせていただきました。現地に足を運んで最も印象に残っているのは、活動対象の地区とはならなかったのですが、益城町の風景です。無傷の家は無く、ほぼ全壊の家が多数存在していました。今でも思い出すと、活動終了後に熊本市社協の方がおっしゃっていた話で「私の家は傾いてないだけマシだ」というご近所さん同士の会話が頭を過ります。益城町では、自分たちからすればありえないような会話が普通に飛び交っていたようです。

各現場では、災害時まで毎日普通に使用していた家や家具が、一瞬にして処分対象のものになっていました。普段そこにあった物が急になくなり、被災者の人々は何が起きたか理解できずにパニックに陥ったことと思います。私の心に残っている好きな言葉で、「本当に大切なものは、持っている人より持っていない人のほうが知っている」という言葉があります。いつも何気なく使用していたことで有難味も薄らいでいたものが、失って初めて本当に大切なものであったと気付かされた、そのショックを考えると、私は胸が苦しくなりました。作業の一つに瓦礫撤去があったのですが、その瓦礫と呼ばれているものは家の壁にあたるものでした。それを粉々に砕いて土嚢袋に詰め、災害ゴミとしてゴミステーションに出すことをしましたが、持ち主が見ていたらどんな気持ちなのだろうかと考えました。私は正直、罪悪感でいっぱいでした。

また、私が依頼を受けて伺ったのは、ご高齢の方のお宅でした。そこでも若者の力が求められているのだなと感じました。作業を行った後、依頼人の方は一緒に現地に向かった学生と話をしており、その時の顔は心なしか穏やかで楽しそうに見えました。私は後になって、このコミュニケーションの重要性に気づかされました。私たち学生は孫のような年齢なので、些細な会話でも心のケアになるのです。しかし、現地での私は人とコミュニケーションをとるのが苦手なために、このことから逃げ腰でした。被災者の方々の笑顔を取り戻すことを目標に足を運んだのに、どうしておしゃべりをしに行かなかったのかと、とても後悔しています。

私は初めてこういったボランティアに参加させていただいて、初めてリーダーとして活動してきました。私の出身は大分県ですが、隣県民として自分の出来ることを行いました。初めてのことばかりで、体力だけでなく頭も使ったりと慌ただしい日々でしたが、とても貴重な経験ができたと思います。私の参加は、現地に行けばちっぽけなことだったかもしれませんが、しかし今度は後悔しないよう、もう一度参加したいとも思っています。

被災された熊本県民の方々の願いでもある、被災者や遺族の方々の苦しみや悲しみを忘れない（「風化」させない）ために、この記事をご覧の皆さまにも今一度、熊本のことを深く考えてほしいと切に願います。

Ⅱ. 各キャンパスの活動

《浜田キャンパス》

平成28年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター 浜田キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成28. 4. 1～平成29. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教授	林 秀司	・地域連携推進センター長
准教授	田中 恭子	・地域連携推進センター副センター長 ・事業推進検討会
准教授	金野 和弘	・委員(研究企画検討会)
准教授	西藤 真一	・委員(教育支援検討会)
准教授	林田 吉恵	・委員(公開講座検討会)
講師	村井 重樹	・委員(公開講座検討会)
講師	豊田 知世	・委員(情報発信検討会)
講師	マニング・クレイグ	・委員(ボランティア検討会)
地域連携課 課長	河部 安男	・委員
地域連携課 主任	石倉 義生	
地域連携課 主事	竹口 雄一	(任期：平成28. 4. 1～平成28. 5. 31)
地域連携課 主事	山本 麻央	(任期：平成28. 6. 1～平成29. 3. 31)
地域連携課 主事	慈地 秀昭	
地域連携 コーディネーター	吉田 隆博	
嘱託員	竹根 美雪	

浜田キャンパス:地域連携活動概要

地域連携推進センター副センター長 田中 恭子

平成 25 年度から文部科学省補助事業「地（知）の拠点整備事業」を実施して参りました。平成 28 年度は、事業実施体制を試行的に運用した結果を踏まえた「改善・評価」の一年となりました。

浜田キャンパスの取組としては、教育では「しまね地域マイスター認定制度」科目が本格的に開講されました。マイスター取得を目指す 14 名の学生が、地域共生演習、地域課題総理解などの新設科目を受講し、地域課題をテーマとした研究を開始しています。本学マイスター認定制度が掲げる人材像を体現した教育実践が可能となるよう、2 年後のマイスター認定に備え、課題を改善しつつ体制の一層の精緻化を目指しました。

また 3 キャンパス必修科目である「しまね地域共生学入門」が浜田、出雲、松江の 3 キャンパスにて開講され本格実施となりました。複雑化した社会課題解決のために、3 キャンパスの専門分野を基礎的に学ぶことで、複眼的な視野をもつ人材の育成を目指しています。そのために全学一丸となつての教育実践および知の共有も行われています。

「しまね地域共育・共創研究助成金」および「9 月連携会議」も 4 度目の開催となり、地域ニーズと大学シーズのマッチングの場である「9 月連携会議」は、ポスター形式で開催されました。地域と地域、地域と大学それぞれの課題・現状認識の共有、対応策の検討など、より自由な意見交換がなされ、参加者からも好評を得ることができました。今後も課題解決へ向けての方向性の共有と、広域連携、複数キャンパスが連携しての地域課題研究がより活発に行われるよう改善を重ねて参ります。

社会貢献では引き続き「3 キャンパス合同学生ボランティア交流会」が計画どおりに実施され、学生主導で安定的に運営がなされはじめています。各キャンパスの専門分野や地域性を考慮したテーマが選択され、毎年特徴的なボランティア内容が企画、実践されています。学生自身が地域との関係から学ぶ機会を、今後もさらに提供できる仕組み作りを検討していきたいと考えています。

最終年度に向けて教育・研究・社会貢献の各領域において各キャンパスでの実績を基礎とし、3 キャンパスでの総合力を発揮すべく全学的な連携・協働をより一層展開していく次第です。引き続き何卒宜しくお願い申し上げます。

1) 学生の地域貢献活動

(1) 学生ボランティア活動（災害ボランティア以外）

学生の地域貢献活動のひとつとして地域でのボランティア活動に従事しています。以下活動依頼者からの感想の抜粋と活動の様子の写真、参加者の感想を紹介し、さらに今年度のボランティア活動の一覧を付します。

○島根県立少年自然の家「かわいい子には旅をさせよう！」（10月29日～30日開催）

小さい子の支援は大変だったと思うが、常に笑顔で意欲的に活動した。参加者を適切にリードしたり、安全に配慮しながら活動の支援をしたりした。今後もぜひ主催事業に参加してほしい。

○巫女舞い（8月7日開催）

三人の学生さん達は巫女舞いの取り組みも熱心でありました。スマホで録画して持ち帰り練習をされたようです。本番でも、練習の甲斐があつてうまく巫女神楽をやっていただきました。これをご縁に来年も来ていただければ喜びます。

○隠岐体験学習に係る児童引率（8月5～7日開催）

県と財団の共同事業にボランティアとして活動補助をお願いしましたが、私たちスタッフよりも児童に年が近く、実際の体験補助のみでなく精神的なケア（寄り添い）もしていただきました。また、体験期間中においては事前をお願いしていた役割のほか、大小様々な現場対応が求められる部分が多かったですが、自ら積極的に動いていただき、大変助かりました。



H28. 10. 16 医療フェスタ



H28. 4. 24 お神輿担ぎ



H28. 5-6 月 みつ蜂飼育作業

～参加学生からの活動の感想～

6月から8月の間に浜田市旭町和田地区で行われた「和田地区いいとこマップ作りプランニング」のボランティアに参加してきました。それをきっかけに8月の初めにまた和田地区の神社の巫女舞のボランティア活動に参加しました。今回マップ作りに参加したメンバーが私ともう一人の留学生と4年生の日本人学生でした。4年生の日本人学生にいろいろ教えていただきました。

また、マップ作りのご縁で和田地区の巫女舞のボランティアに参加しました。この2つのボランティア活動に参加する前は少し緊張しましたが、優しい日本の方に出会い、地域の文化についても学ぶことができました。特に留学生の自分にとってとてもいいチャンスでした。（1年生・梁瑞）

ボランティア活動の一覧

依頼団体	活動場所	活動日	内容	人数
大平桜まつり実行委員会	浜田市三隅町	H28. 4. 2-3	大平桜まつり	延べ18名
浜田市役所	浜田市内	H28. 4. 9-10	新入生浜田探索ツアー	延べ7名
長沢1町内自治協議会	長沢神社	H28. 4. 24	長沢神社 春の例大祭	11名
浜田市商工会議所	浜田市内	H28. 4. 29	浜っ子まつり大名行列	4名
ひきみ田舎体験推進協議会	益田市匹見町	H28. 5. 3-4	匹見峡春祭り	3名
浜田おやこ劇場	いわみーる	H28. 5. 8	託児	3名
ハチセンモン	浜田市内	H28. 5. 8/5. 15 /6. 19/6. 26	ニホンミツバチ飼育作業	延べ10名
島根県赤十字血液センター	学内	H28. 6. 8/12. 7	献血呼び込み	延べ4名
学校における災害時対応 能力向上プロジェクト	江津市内	H28. 6. 14	災害時対応研修のトリアージ役	2名
和田公民館	浜田市旭町	H28. 6~8月	和田地区いいところマップ作り	3名
郷土芸能意味和神楽周布 青少年保存会	浜田市内	H28. 6. 18-19	熊本震災復興イベント(神楽)	3名
いわみ福祉会	浜田市金城町	H28. 7. 24	神楽大会	5名
大田市山村留学センター	大田市三瓶山他	H28. 8. 7-11	夏の山村留学リーダー	2名
島根県しまね暮らし推進課	隠岐の島	H28. 7. 21-23 H28. 8. 2-4	小学生隠岐体験学習事業	4名
和田自治会	浜田市旭町	H28. 8. 6-7	神社 巫女舞	3名
黒沢地区生涯学習推進委員会	浜田市三隅町	H28. 8. 7	かっぱランド夏祭り	5名
いわみ福祉会	浜田市金城町	H28. 8. 9	桑の木 納涼祭	2名
浜田地区広域行政組合	浜田・江津	H28. 8. 10-12	浜田広域子ども交流事業	11名
有福八幡宮	江津市内	H28. 10. 2	八幡宮 神輿	3名
浜田医療センター	浜田医療センター	H28. 10. 16	浜田駅北フェスタ	3名
美川幼稚園	浜田市内	H28. 10. 23	幼稚園バザー	2名
らいらっくの会	学内	H28. 10. 23	骨髄バンク上映会	1名
三隅城のろしりレー実行委員会	浜田市三隅町	H28. 10. 30	三隅城のろしりレー	4名
島根県立体育館	県立体育館	H28. 11. 13	体操競技大会補助員	2名
島根県西部県民センター	西部県民センター	H28. 11. 14	石見の観光パンフレット企画	5名
いわみ福祉会	桑の木園	H28. 11. 23	桑の木大収穫祭	8名
浜田市教育委員会	浜田市内	H29. 1. 3	浜田市成人式	3名
ことばを育てる親の会	浜田市内	H29. 2. 4	鬼たいじ会	2名

通年ボランティア

依頼団体	活動場所	活動日	内容
浜田市教育委員会	中央図書館	指定土曜日	中学1～3年生の生徒の自学自習を支援する
放課後等デイサービスあしあと	あしあと	日曜日以外	障がい児の見守り
オレンジカフェはまだ	ひだまりふっくら	第1木曜日 第3土曜日	認知症本人、その家族との交流。
しまね西部若者サポートステーション	いわみーる	指定月曜日	スポーツでのコミュニケーション プログラムの手伝い
てらこや	雲雀ヶ丘小学校	指定金曜日	体操教室での補助
浜田おやこ劇場	子育て支援センター	第1・3 金曜日	子どもの見守り

(2) ボランティア・ポイント抽選会

平成 29 年 2 月 1 日に、学生会館（カフェテリア）2 階にてボランティア・ポイント抽選会を開催しました。抽選では、ポイント引き換えを行なった 1,166 枚の抽選券で賞品の抽選を行い、学外活動にも役立つ「旅行券」、浜田市内各所で利用できる「浜田市共通商品券」、石見地域の美味しいものをいただける「石見の選べるうまいもんセット」、浜田市での活動範囲を広げてくれる「石見交通バスカード」、浜田の魅力を体験できる「アクアス入場券」「かなぎウエスタンライディングパーク乗馬体験チケット」「石州和紙紙すき体験チケット」などの賞品が当選した学生に授与されました。



(3)地連 Café（ボランティア交流会）

○第 17 回 地連 Café OPEN！（平成 28 年 4 月 15 日）

浜田キャンパスカフェテリア 2 階にて、第 17 回地連カフェが開催されました。今年度はじめて開催される地連カフェだったため、主に 1 年生を対象として実施されました。サークル・団体が行っている地域活動についての報告や、外部からゲストをお招きしてボランティア活動の紹介等を行って頂きました。約 50 名の参加者が訪れて、充実した時間を共有できました。

【外部団体によるボランティアの案内】

・国立三瓶青少年交流の家 渡邊絵里子さん

国立三瓶青少年交流の家で行われる活動について、映像と音楽を交えて紹介いただきました。年間を通しての三瓶での活動にみんな興味深く耳を傾けていました。

・益田市匹見町 石橋留美子さん

匹見町のボランティア活動では、これまでに大学生が関わってきた活動について紹介いただきました。今後も大学生と地域との繋がりに期待をしていると話されました。

【学生による地域活動の紹介】

学生からは 3 つの団体から活動の報告がありました。

・SCOT 金志翼さん（3 年生）

地域の安全パトロールについて

・BBS 岡崎梨乃さん（3 年生）

子どもを通じた地域活動について

・すこっぷ 西村樹一さん（3 年生）

弥栄の小熊集落での野菜づくりの活動について

○第 18 回 地連 Café OPEN！（平成 28 年 5 月 18 日）

浜田キャンパスカフェテリア 2 階にて、第 18 回地連カフェが開催されました。今回の地連カフェでは地域で活動をするサークル団体の代表 6 名が集結し、「地域で活動する魅力」について、トークセッションを行いました。当日は学生と一般の方約 35 名にご参加いただきました。

【ファシリテーター：藤岡賢司】

・一緒に盛り上がって感謝をされる、するとまた行きたくなる。（はまでいあん代表 竹内聖太郎）

・林業体験で危険な目に遭い地域の人に怒られたことがある。遊び感覚で面白いことを探し、結果地域のためになっていたらいいと思う。（しまえっこ代表 上野遼太郎）

・基本的には依頼に対しての活動を行っているが、こちらから提案していけるような信頼

関係を持てたらよいと思っている。(BBS 副代表 鈴木翔太)

・農業体験に興味があり、思いの先が弥栄だった。活動をはじめると地域の課題が見えてきて、話を聞いていると何かの役に立つのではと感じはじめた。学生の力で変えていくのは難しいかもしれないが、歯車のひとつになればいいと思っている。(里山レンジャーズ代表 加藤崇)

・里山レンジャーズと同じ弥栄地域で活動を行っているので連携してやっていけたらいい。(すこっぷ代表 西村樹一)

・都会の大学と違って少し移動したらすぐに現場があるのが魅力。感謝の言葉ももらった時にやりがいを感じる。受け身ではなく、主体的にアクションを起こしていきたい。(てごねっと代表 松永稜太郎)

○第 19 回 地連 Café OPEN！(平成 28 年 11 月 30 日)

浜田キャンパスカフェテリア 2 階にて、第 19 回地連カフェが開催されました。今回は、在学中に地域活動などを積極的に行った 2 名の卒業生をお招きし、伝えたいことや考えたことなどを話していただきました。

まず始めにお話をしてくださったのは、藤本みのりさんです。藤本さんは、在学中は「国際文化交流のタベ」の実行委員で、2 年生になったときに幹事長を務めました。やるからにはしっかりやろうと決め、先輩にも意見を出すなど幹事長であることの意義を果たされました。藤本さんは、学生である今だからこそ経験はたくさん積むべきである、「長」という役職の重みを感じてほしいということを伝えてくださいました。

次に、黒木大輔さんです。現在勤務されている会社のことや、学生時代に失敗したことについてお話をしていただきました。お話の途中では、「貢献すべき 3 つの役割」について説明をいただいた後に、その事柄を自分に当てはめてほしいということで、学生たちとディスカッションをして盛り上がりました。私たちへのメッセージとしてお金の話が出てきました。就職した際に、自分にどれだけ投資を行っているかなどの自覚をもって、これからの学生生活を頑張りたいと伝えてくださいました。

お話を聞いた後は、テーブルごとに分かれてフリートークを行いました。今回来てくださった先輩は最近卒業された方々でもあるので、たくさんその後輩が地連カフェに来てくれました。ボランティア活動やサークル活動、就活、アルバイトのことなど他愛のないお話もして、満喫した時間を過ごせました。2 名の卒業生のお話は、まだまだ人生経験の少ない私にとって、とても勉強になる良い機会でした。

次回の地連カフェは、ボランティア・ポイント抽選会が行われます。皆様の参加をお待ちしております。

○第 20 回 地連 Café OPEN！ ボランティア回数上位表彰（平成 29 年 2 月 1 日）

今年度最後の地連 Café では、平成 28 年 4 月～12 月までのボランティア回数の上位者 10 名を表彰し賞状と記念品を贈呈しました。

上位者の活動回数は以下の通りです。

1 位	高橋賢太朗	4 年生
	春若 美咲	1 年生
3 位	青木美奈子	4 年生
4 位	鈴木 翔太	3 年生
5 位	梁 瑞	1 年生
6 位	小川向日葵	2 年生
	梶 瑞希	1 年生
8 位	常本 真由	3 年生
	赤井 佑希	1 年生
10 位	聶 玉蓉	1 年生
	渡部 佳苗	3 年生

2) 地域に関する教育・研究活動

(1) 地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会

平成29年2月14日に、浜田キャンパスにおいて、「第14回地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会」が開催されました。今年度は13名の学生が奨励賞を受賞し、本田学長から表彰されました。

このうち、最優秀賞には、農福連携による耕作放棄地の利用を研究内容とした篠原佑太さん、ビジネスマッチングの特徴と今後の課題を研究内容とした平田直人さん、地方自治体の事例を基に、地域包括ケアシステムの中で行われる介護予防の有効性を研究内容とした山根尚久さんが選ばれました。また、浜田市長賞には篠原佑太さんが選ばれ、久保田章市市長から賞状と記念品が授与されました。

発表会の後半では、奨励賞を受賞した中から、5名が自ら得た知見と研究をしてきた内容について発表をしました。

奨励賞受賞者の研究内容は、ポスターにまとめられ、会場前で併せて紹介されました。学生、教職員を含めた大学関係者、市民の方々合わせて75名の参加があり、多くの活発な質疑応答が行われました。



氏名	卒業研究・論文タイトル
相賀智樹※	シフト・シェア分析による島根県と岡山県の地域経済比較
青木大輔	キャラクターが現代社会にもたらす影響力
片山優樹※	浜田市のゾーン 30 における課題とその対策
金崎彩	浜田市の読み聞かせボランティアの役割と将来性
久次米雄貴	合区制度下における候補者擁立に関する政党戦略 —特殊性を擁する島根県での選挙戦略から—
篠原佑太※	島根県における耕作放棄地の利用～農福連携の可能性～
陶山善史	島根県雲南市の定住対策—若者移住の可能性—
寺田遥奈	金融機関の金融経済教育における都市部と地方の地方間格差
難波佳央理	来訪者の観光地評価からみるリピート需要創出の可能性分析 —石見銀山遺跡とその文化的景観を対象とした研究—
林田あずさ	高齢者の免許返納について
平田直人※	金融機関によるビジネスマッチングの効果
松本遥	著名な観光地を持たない地方の観光活性化に向けた戦略 —鳥取県米子市の取り組みから—
山根尚久※	地方の閉じこもり高齢者に対する介護予防の有効性 —島根県 X 市の地域包括ケアシステムを事例として—

※：当日の発表者

(敬称略)

(2) 山陰地域フィールド体験学習

「山陰地域フィールド体験学習——弥栄の農林業と暮らし」

2016年度の「山陰地域フィールド体験学習——弥栄の農林業と暮らし」は、9月7日から10日まで、浜田市弥栄町をフィールドに実施した。受講者には、本学浜田キャンパスから7名に加えて、島根大学(松江キャンパス)から1名の計8名を得ることができた。

1日目は、12時45分に浜田キャンパスに集合し、宿泊場所の「弥栄ふるさと体験村」にチェックインした後、小坂集落を訪ねた。そこでのおもな活動は、かつて青米(未熟米)を利用してつくられ、間食などに食べられていたという焼き米づくりである。できあがった焼き米を試食しながら、地域の方々と意見交換も行った。

2日目の午前中は、2班に分かれ、仲三集落と西の郷集落を訪問した。それぞれ、まち歩きやダイコンの種まきをした後、ブルーベリーの酢漬けやナスのジャムなどの保存食づくりをさせていただいた。昼食は、浜田市食生活改善推進協議会弥栄支部のみなさまにつけていただいたいただき、食事をしながらの交流会となった。午後は、全員で、小熊集落を訪問した。そこでの活動は、手刈りでの稲刈りである。刈った稲束を稲架にかけ、稲束をつくるための縄(「ツガワ」という)をなう作業も体験させていただいた。

3日目の午前中は、栃木集落を訪ね、ライスセンターを見学し、乾燥・粳摺り・選別を行った玄米を袋詰めする作業をさせていただいた。さらに、電柵の撤去作業、鎌で隅刈りし、コンバインでの刈り取りも体験させていただいた。昼食は地元の「いきいき会」のみなさまにご準備いただき、昼食交流会となった。午後からは、それまで毎晩行ってきた活動の振り返りもふまえて、2班に分かれて学習成果のとりまとめを行った。

最終日は、10時から、地元のみなさまもお招きして、学習成果発表会を開催した。ひとつの班は自分たちの経験に基づいて深く考察しており、いまひとつの班は素人らしからぬ話術で聴衆を楽しませるもので、それぞれのもち味を出していたという点で、好ましいものだったと思う。受入の窓口となっていた浜田市弥栄支所産業建設課の担当者からも暖かいコメントをいただくことができた。ご協力いただいたみなさまに、あつくお礼申し上げます。
(文責：林 秀司)



ツガワづくり体験のようす



学習成果発表会のようす

(3) フレッシュマン・フィールド・セミナー

フレッシュマン・フィールド・セミナーは、社会のさまざまな現場（フィールド）に出かけていき、そこでフィールドにおられる人々への調査を通じて課題を発見し、課題の解決策を提案するセミナーである。入学初年次から地域のさまざまな人と接し、自らの学修目的を明確化することで、自らが望んだ職業に就く能力を学生に身につけさせることを目的としている。

このセミナーは、1) 事前学習、2) フィールド調査、3) 調査結果分析、4) 課題解決策の提案、5) 成果発表、の5つのプロセスで構成されている。各セミナーの実施回数にもよるが、概ね10～13回を教室で行い、島根県内・浜田市・近隣地域に出向いてのフィールド調査を2～5回ほど実施する。春学期に実施されるフレッシュマン・スキル・セミナーで学んだアカデミック・スキルを活用しながら、課題発見と課題解決能力を身につけ、2年次から始まる専門教育への橋渡しをするセミナーでもある。また、グループ学習を実施するセミナーの場合、受講生は少人数のグループを組み、協同作業による自発的で能動的な学びを実践する。

平成29年1月26日には、このセミナーの最終プロセスである「フレッシュマン・フィールド・セミナー合同成果発表会」が、浜田キャンパス講堂において開催された。はじめにステージ上で、ゼミ単位で順番に1分間ずつの概要説明をおこなったのち、全16ゼミが各ブースに分かれて成果をポスターセッション形式で報告した。

来場者には「いいね！」シールを配付し、各ゼミのポスター等の掲出物、プレゼンテーション、研究の内容等に対して、「いいね！」と感じたゼミを3つ選び、投票ボードに「いいね！」シールを貼っていただき、同時に3つのゼミに対するコメントも用紙に記入していただいた。その結果、獲得票数上位3ゼミを「いいね！大賞」として表彰もした。

この発表会には学生・教職員はもとより、取材・調査先関係、一般市民、報道関係の皆さんなどの来場もあった。



フィールドワークの様子



合同成果発表会の様子

平成 28 年度 フレッシュマン・フィールド・セミナー 授業概要一覧

クラス	テーマ・概要等	フィールド
井上(厚)ゼミ	<p>【「多様性」について】</p> <p>地方都市が今後生き残るためには、外部から来た人間との共生が不可欠な時代になっている。積極的に外に出て、大学の外に広がる「多様性」を学んでおきたい。具体的には、①島根県西部で最も移住者との共生に成功している吉賀町柿木村との交流、②広島市内でカンボジア料理店を営むカンボジア難民サルーンさんとの意見交換会を通して、リアルな「他者」との共生について学んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吉賀町柿木村 ・JICA 中国 ・カンボジア料理店「ミリア・アンコール」
瓜生ゼミ	<p>【浜田の食を考える～安全・安心・おいしいを求めて…TPP も合わせて考えた～】</p> <p>“地域の活性化や振興” という目標が、実際の地域社会とそこで生活している人々にどのような影響を及ぼし、どのように受け止められているかを調べ、その将来像を探ってみた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有限会社しまねポーク
大橋ゼミ	<p>【島根あさひ社会復帰促進センター及びグラントワについて】</p> <p>このセミナーでは、島根あさひ社会復帰促進センター及びグラントワ（島根県芸術文化センター）を取り扱います。目標は、島根あさひ社会復帰促進センター及びグラントワの現状を調査し、現在いろいろと取られている施策を考え、課題を発見し、さらに出来得ればこれらをより活性化させるための策を提案することです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島根あさひ社会復帰促進センター ・グラントワ（島根県芸術文化センター）
川中ゼミ	<p>【犯罪被害者支援】</p> <p>本ゼミナールでは、島根被害者サポートセンターや、犯罪被害の家族の方々のお話を伺うことで、犯罪被害者支援に実際とその課題を知り、犯罪被害者中心の支援について考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島根被害者サポートセンター ・江角弘道様、由利子様 ・市原千代子様
久保田ゼミ	<p>【地域企業の事業展開 –株式会社岩多屋のケーススタディー】</p> <p>本ゼミナールでは、島根県を代表する中小企業である株式会社岩多屋を調査対象として取り上げる。同社の取組を調査することを通じて、企業を調査するうえでの手法を学ぶとともに、企業の抱える課題やその解決策、企業の事業展開の取組みについて学ぶことを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社岩多屋
齋藤ゼミ	<p>【浜田市における高齢者福祉の現状と課題】</p> <p>本ゼミナールでは、全国的にも高齢化が進む浜田市で、地域福祉が高齢者の方々にどのように支えていくのかを考えていきます。</p> <p>行政（浜田市）、民間の福祉団体（社会福祉協議会）、住民による高齢者のサークル（高齢者サロン）の三つへの調査を通じて、地域における高齢者福祉の課題を多角的に理解します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市健康長寿課 ・浜田市社会福祉協議会 ・浜田市内の高齢者サロン（「和泉サロン」、 「松原笑み会」、 「ほがらか会」）

田中ゼミ	<p>【新規市場開拓のマーケティング ～株式会社オーサン 食用エゴマ市場開拓の事例から～】</p> <p>土木・建築業からの農業参入、事業の多角化に精力的に取り組まれている株式会社オーサンの企業経営・マーケティングを学ぶ。特に農産部エゴマ事業についてヒアリング調査を通じて、①対象企業の業務内容、経営課題、主力商品、重点戦略等を理解した後、②当該企業のマーケティング戦略（製品、価格、販売促進、流通）について、当該企業が具体的にどのような戦略対応を行っているのかを事例調査を通じて明らかにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社オーサン ・道の駅サンピコごうつ
豊田ゼミ	<p>【木の活かし方 ～林業の現状と今後の可能性～】</p> <p>島根県の木材からどのような製品が作られているのでしょうか。本演習では浜田市の林業素材生産業者である「浦田木材株式会社」へ訪問し、ヒアリング調査や木材の利用方法に関する調査・学習を行ったうえで、林業分野や企業の課題を挙げ、その課題解決に向けた改善策の提案を試みました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浦田木材株式会社 ・日本製紙株式会社ケミカル事業本部 江津事業所 ・合同会社しまね森林発電
林ゼミ	<p>【農業参入企業への改善提案の試み】</p> <p>島根県石見地方において農業に参入している企業について、学生の視点から、事業所や事業の課題を見だし、その改善のための提案を試みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・阿郷建設有限会社 ・真砂産業株式会社 ・有限会社 KKN (きんた農園ベリーネ)
林田ゼミ	<p>【消防と消防団からみる行政と地域連携について】</p> <p>行政と地域連携は、住民の生活を豊かにするために重要なことである。そこでこの授業では行政と地域連携のひとつとして、消防と消防団の関係を上げる。実際に消防と消防団についてヒアリングを行い、そこで諸課題を発見し、それについてどのように解決するべきなのかを探る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田消防署 ・浜田市消防団
福原ゼミ・佐藤ゼミ (合同ゼミ)	<p>【北東アジアで生きる～戦争の体験と記憶、交流、共生～】</p> <p>右記フィールド調査で得た知見を手がかりにして、「戦争体験の記憶とその継承」、「北東アジア諸国間の国際交流」、「日本に生きる在日外国人との共生」という3つのサブ・テーマについて、現状と課題を浮き彫りにする。北東アジアで生きる若い世代が、歴史認識、国際交流、日本社会の多文化共生のあり方を提示する試みである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広島平和記念資料館 ・駐広島大韓民国総領事館 ・出雲市役所国際交流室 ・在日本大韓国民団島根県地方本部 ・出雲市社会福祉センター日本語教室 ・NPO 法人エスペランサ ・京都韓国中高等学校関係者 ・浜田市近隣在住の在日コリアン
藤原ゼミ	<p>【ヨシタケコーヒーを活かした観光と地域活性～「コーヒーの薫るまちづくり」のための調査研究～】</p> <p>三浦義武氏の業績を掘り起し、それを物語として育てつつある浜田市の観光課のご教示を得ながら、観光政策について学びたい。また、私たちがさまざまなエピソードを発掘し、物語の創出、形成に寄与したいと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市

別枝ゼミ	<p>【ふるさと納税とは何かー浜田市の場合】 浜田市は2015年に約21億円の「納税」を集めました。この金額は第1位の宮崎県都城市の集めた金額のちょうど半分ですが、全国で第10位にランクされました。浜田市の関係者や「返礼品」を提供している数多くの業者にもインタビューを行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市ふるさと寄附推進室 ・有限会社信港商店 ・有限会社しまねパーク ・有限会社なまけもの(珈琲焙煎)
光延ゼミ	<p>【新有権者の政治参加に関する研究】 選挙権の年齢が18歳に引き下げられたことによって、若者の国政選挙における投票率はどのようになったのか。このクラスでは、2016年7月10日の参議院選挙から18歳以上にも選挙権が付与されたことに伴って、新たに240万人もの新有権者が登場することになったことを踏まえて、20代、30代の、いわゆる若者の、国政選挙における投票率について調査研究(フィールドワーク)を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山陽新聞 ・岡山市内 ・広島市内
渡部ゼミ	<p>【津和野町の体験型ツアープランを考える】 津和野町における歴史を活かしたまちづくりの取組みを調査し、課題を発見し、解決策を提案する。3回の現地調査を行い、現場の観察と、まちづくりに携わっている人びとへの聞き取り調査を通じて観光振興のための真の課題はどこにあるかを考え、津和野町の観光振興に役立つ提言を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津和野町

(※五十音順)

3) 地域から／地域への応援・情報発信

(1) 浜田キャンパス公開講座の開催

浜田キャンパスでは、地域に開かれた大学として地域の方々の知的好奇心に応えるため、毎年度公開講座を開催しています。

表：平成 28 年度公開講座 受講者数一覧

No.	テーマカテゴリー	講師	所属	講座名	日時	受講者数	平均受講者数
1	学校では教えてくれない石見の○○の世界	志田尾 隆司	TSデザイン／有限会社志田尾工務店 代表取締役	学校では教えてくれない住まいづくりの世界 ～いい家ってどんなの？日本・石見の風土に合った家とは～	6月1日	34	35
2		安藤 正文	安養堂鍼灸院 院長	健康の維持・増進のために～東洋医学の歴史を振り返りながら～	6月22日	58	
3		平野 義弘	有限会社平野屋 代表取締役	「もてなし」の心から～お茶を楽しもう～	10月19日	27	
4		陳 幼竹	本学北東アジア地域研究センター非常勤研究員	漢方医学の薬理理論からみる浜田の地元食材	10月26日	18	
5		松尾 恵美	有限会社ホテル松尾 女将	石見で宿泊業を続けていくことへの想い	11月30日	39	
6	心のふるさと石見を想う～若者たちの熱いキモチ～	西田 勝	西田和紙工房	石州和紙の歴史と新たな取り組みについて	7月20日	22	21
7	田畑 卓郎	NPO法人浜田ライフセービングクラブ	浜田の海の魅力	11月1日	18		
8	尾田 洋平	株式会社リクルートライフスタイル	島根出身の私が	12月14日	22		
9	浜田キャンパス国際ターミナルへ優先搭乗のご案内～	キンバリー・モーガン	浜田市国際交流員	イギリスを旅する	5月11日	27	28
10		ナタリア・ボルホドーフ	島根県国際交流員	私の知っているロシア巡り	5月18日	21	
11		マニング・クレイグ 森谷 浩士	浜田キャンパス 本学嘱託助手	人とつながる英会話術	7月13日	26	
12		ニュン グエン ティー ゴク	浜田市国際交流員	ベトナムを旅する	8月3日	27	
13		于 清	浜田市国際交流員	中国を旅する	9月28日	49	
14	森谷 浩士	本学嘱託助手	英会話に活かす日本語入門	10月12日	15	257	
15	松永 和平	株式会社松永牧場代表取締役社長	松永牧場のあゆみ：消費者への信頼と循環型農業への取り組み	5月18日	249		
16	亀谷 典生	亀谷窯業有限会社代表取締役社長	石州瓦の新たな挑戦：亀谷窯業200年の伝統製法へのこだわり	6月15日	252		
17	領家 康元	株式会社キヌヤ代表取締役社長	キヌヤについて：ローカルブランドの取り組み	7月6日	270	25	
18	久保田 典男	浜田キャンパス	顧客ニーズの捉え方～フレッシュマン・フィールド・セミナーの取組から～	5月11日	22		
19	岡本 寛	浜田キャンパス	立憲主義と安全保障(1) 憲法編	5月25日	18		
20	佐藤 壮	浜田キャンパス	立憲主義と安全保障(2) 国際政治編	6月8日	27		
21	村井 洋	浜田キャンパス	H. アーレントとアメリカ	6月29日	27		
22	松尾 哲也	浜田キャンパス	哲学カフェ しまね ～働くことは？～	8月3日	13		
23	聞いて得する！大学教員の「ちょっとコトだけ」の話	ケイン・エレナ・アン	浜田キャンパス	ピアトリス・ポッターからハリ・ポッターのイギリス児童文学：内容語学言語のアプローチで読む	9月28日		14
24	張 忠任	浜田キャンパス	経済減速期に入る中国の経済情勢	1月18日	16		
25	マニング・クレイグ	浜田キャンパス	実地研究とサービス・ラーニングの学生活動	11月8日	7		
26	木村 秀史	浜田キャンパス	ゼロからわかるアベノミクス入門～どーなる日本経済！～	11月9日	46		
27	西藤 真一	浜田キャンパス	地域課題と住民参画：地域の空港を活かすために私たちができること	11月16日	49		
28	松田 善臣	浜田キャンパス	地域課題と住民参画：生活の「足」を守るために私たちができること	11月16日	49		
29	李 憲	浜田キャンパス	夫婦間の法律問題について考えてみよう	12月7日	17		
30	村井 洋	浜田キャンパス	幸福論はいかが？	12月21日	23		

受講者数 計1,502人(1講座あたり50名)

平成 28 年度は 30 回の講座が開講され、延べ 1,502 名の参加者を得ました。前年の参加者は 25 回、1,588 人だったため、参加者が減少しています。最も出席者が多かった講座は、領家康元氏（株式会社キヌヤ代表取締役社長）による「キヌヤについて：ローカルブランドの取り組み」で 270 名の参加がありました。次いで、亀谷典生氏（亀谷窯業有限会社代表取締役社長）による「石州瓦の新たな挑戦：亀谷窯業 200 年の伝統製法へのこだわり」であり、参加者は 252 名でした。

また、学生によるゼミ研究報告を市民向けに公開する学生研究発表会を年 2 回行いました。春学期に川中淳子ゼミが、秋学期に林秀司ゼミが報告しました。

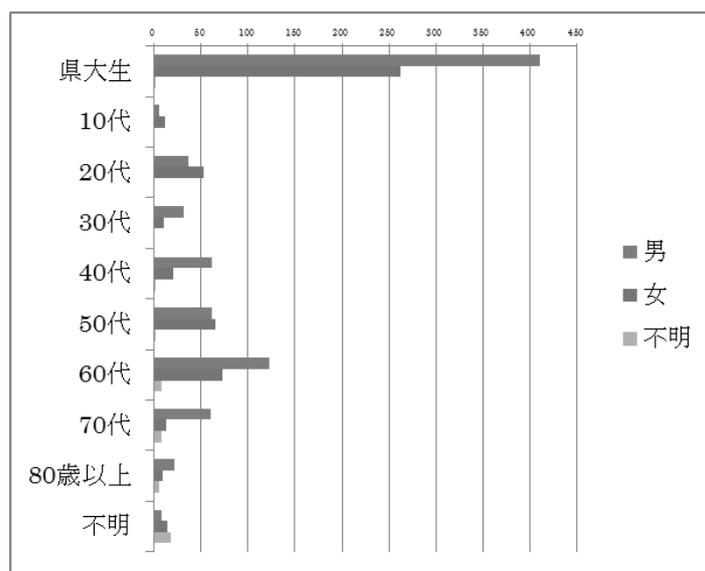
受講者には、できる限りアンケートに回答していただくことにしています。その結果について、以下、概要を報告します。

表：アンケートに回答した段階での参加回数

1回目	536名
2回目	336名
3回目	168名
4回目	49名
5回以上	123名
不明	180名
合計	1,392名

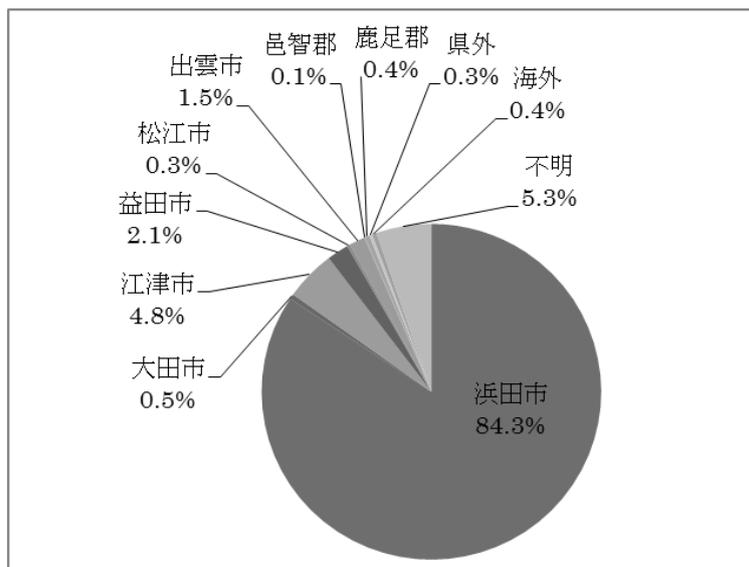
公開講座のリピーター獲得は重要です。この点について、上の表で示される参加者数を確認すると、複数回参加している受講者も比較的多くなっています。

図：回答者の年齢と性別（単位：人）



回答者（出席者）の年齢層は比較的高齢者に偏っています。受講者の掘り起しが必要であると考えています。

図：回答者の居住地 (N=1,392)



回答者（受講者）のほとんどは浜田市内に在住する方々です。昨年度よりも江津市や益田市など、隣接する市の在住者の参加者が増えましたが、それでも8割以上が浜田市の在住者である事から、浜田市内からの参加者を探る必要があると考えています。

表：公開講座会員登録の有無

有	326 名
無	945 名
不明	121 名

昨年度、公開講座会員登録者は175人でしたが、今年度は209人に増加しました。なお、公開講座参加者の内、公開講座会員は24%となっています。

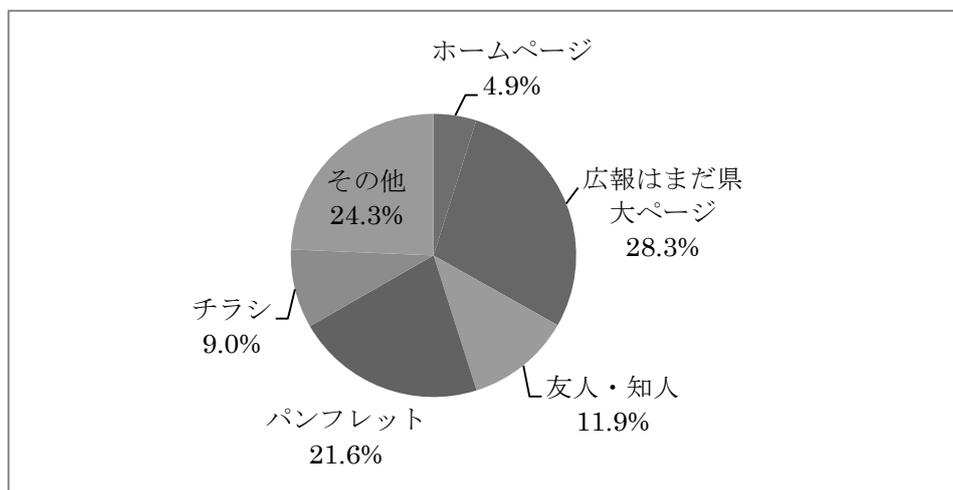
表：公開講座に出席する理由

① 知識を深めたいから	604 名
② このテーマについて勉強をしているから	132 名
③ 知識を獲得し、仕事や地域活動に活かしたい	202 名
④ 生涯学習として関心があったから	170 名
⑤ 講師(またはゼミ活動)に関心があったから	180 名
⑥ 大学主催の行事だから	231 名
⑦ 交友関係を広げたいから	47 名
⑧ 公開講座に出席することが楽しいから	84 名
⑨ その他	167 名

公開講座への参加理由は、「知識を深めたいから」という項目が最も高く、続いて「大学

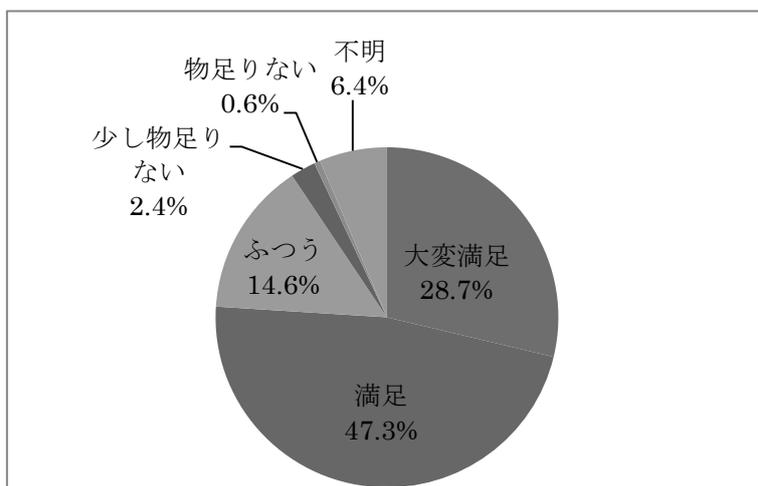
主催の行事だから」、という項目が続きました。昨年度と比べると、特に「知識を獲得し、仕事や地域活動に活かしたい」、「講師（またはゼミ活動）に関心があったから」、「交友関係を広げたいから」、そして「公開講座に出席することが楽しいから」という理由による参加者が増加しています。

図：公開講座を知った経緯 (N=1,443)



公開講座を知った経緯は、「広報はまだ」と回答する方が 28.3%に上り、ホームページ、facebook 等電子媒体を通じて情報を得る人は少なくなっています (4.9%)。これは受講者が比較的高齢者に偏っていることも一つの要因であると考えられます。

図：公開講座の満足度 (N=1,392)



公開講座に出席する人の満足度は、「満足」「大満足」と答えた方が 76.0%にのびりました。このことから概ね、公開講座の内容は参加者の皆様に好評を得たとの判断をしています。

(2) 学生研究発表会

○第6回学生研究発表会

平成28年7月14日、浜田キャンパスにおいて、「学生研究発表会」が開催されました。この発表会は、本学「大学COC事業」における、浜田キャンパス「キャンパス・プラットフォーム」の研究発表の場のひとつとして位置付けられています。

本発表会を通じて、学内での学生の研究成果を地域の方々へ報告する機会を設け、より広く地域市民の皆さまに知っていただくことと同時に、地域の皆さまからの質問やアドバイスをいただくことによる学生の教育への効果も期待されます。今回は、川中淳子教授のゼミから3組の報告がありました。学生、教職員を含めた大学関係者、市民の方々合わせて17名の参加があり、活発な質疑が行われました。

テーマ：「犯罪被害者支援」

- 1) 「犯罪被害者が求めること」
- 2) 「犯罪被害に関する啓発活動について」
- 3) 「再犯率を下げる刑務所の在り方に関する一考察」



○第7回学生研究発表会

平成 29 年 2 月 23 日、浜田キャンパスにおいて、今年度 2 回目の学生研究発表会が開催されました。本発表会は、本学「大学COC事業」における、浜田キャンパス「キャンパス・プラットフォーム」の研究発表の場のひとつとして位置づけられており、今回は、平成 28 年度の成果報告となる「第 4 回全域フォーラム」のプログラムのひとつとして開催いたしました。

本発表会を通じて、学内での学生の研究成果を地域の方々へ報告する機会を設け、より広く地域市民の皆さまに知っていただくことと同時に、地域の皆さまからの質問やアドバイスを受けつけることによる学生の教育への効果も期待しています。今回は、林秀司教授のゼミから 3 組の報告がありました。



テーマ：

- 1) 「学生による石見地方企業の情報発信ーウェブサイト作成の試み」
- 2) 「浜田市の水産物ブランド化の効果と課題」
- 3) 「里山の自然と地域の歴史を伝えるウォーキングイベントー体験交流プログラム造成の試み」

(3)はまだ灯 2016（平成 28 年 10 月 26 日開催）

総合政策学部 4 年生 青木 美奈子

浜田市の安心で安全な町を目指し、市民と大学生でつくる市民団体「はまだを明るく照らし隊」が主催となり「はまだ灯 2016」が開催された。「はまだ灯」は、同時、島根県立大学 1 年生であった、平岡都さんの痛ましい事件を契機に、事件を繰り返さないため、事件の風化を防ぐために始まったイベントである。今回で 5 回目を迎え、当キャンパスの講堂前に約 1200 個の明かりを灯し、事件の風化防止を誓い、平岡さんの冥福を祈った。当時の事件を直接知る学生がいなくなった今でも、多くの皆様にお越しいただいた。また、企画、運営には多くの学生、市民が携わり、地域や学生、市民との繋がりを再認識することができた。



【はまだ灯 2016】

当キャンパスのカフェテリア内では、「はまだを明るく照らし隊」の学生代表の挨拶から始まり、本学学長が挨拶を述べた。事件発生を機に発足した防犯サークル SCOT が防犯マップについての発表を行った。SCOT のメンバーは毎週定期的に市民の方々と学生部員で夜の町のパトロールを継続して取り組んでいる。そのことから、町の防犯上の注意すべき箇所の報告に加え、浜田警察署の方々と平岡さんが発見された臥竜山を訪れたことなどの調査を報告した。学生、市民が浜田市の防犯意識の向上について考える機会となった。カフェテリア内最後には、「はまだを明るく照らし隊」代表からの挨拶で締め括った。

【はまだ灯 2016 セレモニー】

セレモニーでは会場を講堂前の屋外に移し、本学学長、浜田市長、学生代表、「はまだを明るく照らし隊」に参加している市民の挨拶が行われ、安心、安全な町を誓う思いも述べられた。また、事件発生 1 年後に大学が整備した花壇「ガーデン・オブ・ホープ」の植栽が行われた。平岡さん追悼の意を込めて学生、学長、市長の 3 人が参加者の前で葉ボタンなどを植えた。参加者はキャンドルの明かりを頼りに歩き、学生と市民との時間がゆっくり流れる交流の時間となった。浜田市の安心で安全な住みよいまちづくりのきっかけとなることを願った。

(4) 大学生による小中学校学習支援事業の取り組み

大学生による小中学校学習支援事業は、浜田市内の小中学校に学生（学習支援員）を派遣し、週1～2回（1回1～2時間）程度、放課後の補習時間に学習指導を実施する事業となっている。この事業は島根県立大学と浜田市との連携協力協定（平成19年5月18日締結）に基づき、学力向上を目的として平成19年度から中学生を対象として開始し、平成24年度からは小学生も対象に含め、実施している。平成28年度は2校の小学校、5校の中学校が参加し、延べ292名の学生が従事した。

平成28年度派遣先	
浜田市立第一中学校	浜田市立松原小学校
浜田市立第二中学校	浜田市立三隅小学校
浜田市立第三中学校	
浜田市立東中学校	
浜田市立金城中学校	



(5) 匹見中学校学習等支援

総合政策学部 3 年生 川本 晃太

5 月 21 日、私を含む 2 回生 4 名で匹見中学校の生徒と交流しました。

午前中に、野球部を除く全生徒の学習支援を行いました。私たちは昨年も交流していたので、2、3 年生の生徒とは面識がありました。みんな 1 年間でとても成長していて、とても嬉しくなりました。1 年生は初めて交流したので、最初はみんな緊張していましたが、時間が経つと慣れてきて、たくさんお話をすることが出来ました。生徒たちは、1 人 1 台、学校から支給されたタブレットを使いながら勉強していました。計算やグラフなど、板書をすると面倒な作業を、タブレットを使ってスムーズに行っていました。便利な時代になったと感じました。

勉強が得意な子と、そうでない子との差は多少ありましたが、みんな一生懸命取り組んでいて、学ぶ姿勢が素晴らしかったです。少しアドバイスをすると、理解して問題を解いて、嬉しそうな表情を浮かべる生徒の顔を見ると、とてもやりがいを感じました。私は中学生の頃、勉強がとても嫌いで、怠けてばかりでした。ですが、匹見中の生徒には、今のうちから勉強を頑張って、将来の選択肢をなるべく増やしてほしいです。そのことを生徒に伝えました。この経験が後に少しでも生徒たちの役に立てば嬉しいです。

午後からは、練習試合を終えた野球部が学校に帰ってきて、部活動支援をしました。顧問の先生が代わっておられたため、改めて挨拶をしてから始めました。野球部の生徒とは、全員交流した経験があるため、スムーズに練習に取り組むことが出来ました。昨年以下級生だった生徒が上級生になり、野球を始めたばかりの 1 年生が成長していたりと、1 年間で中学生はこれほど成長するものかと驚きました。昨年と同じように、一緒にキャッチボールをして、一緒にノックを受けて、合間に少しずつアドバイスをしました。技術的なこともそうですが、特に精神的なことを教えたかったです。なぜなら、中学の部活動というのは、将来に強く影響すると思うからです。高校に入れば、今一緒に部活をしている仲間とほとんど離れ離れになり、やることも変わってしまうことが多いです。今、同じ町で生まれ、同じ町で共に同じことをしながら 1 つの目標を目指す。このようなことは後にも先にもありません。私は今になってその素晴らしさを実感しています。なので、生徒たちには今この瞬間を大事にしてほしいと願っています。

1 日交流を終えて、私たちも生徒たちも楽しむことが出来たと思います。大学生と中学生が交流できるのは、このようなボランティア活動に限られてきます。来年から匹見中の野球部は無くなってしまいますが、また別の形で県立大学と匹見中の生徒が交流出来ることを祈っています。

(6) 中学生の鳥根県立大学訪問

○益田市立匹見中学校との交流事業

6月23日(木)、益田市立匹見中学校の2年生5名が浜田キャンパスへ訪問し、以前より交流のあった本学ソフトボール部の学生と交流を行ないました。

【ランチ交流】

はじめに匹見中学生とソフトボール部の学生と一緒に昼食。自分の好きなメニューの食券を購入し、談笑しながらのランチタイムを楽しみました。



【学生発表・意見交換】

ランチのあとはソフトボール部の川本晃太さんと伊藤謙さんが大学生活についてお話をしました。授業の合間に多くの自由時間があり、自分でやりたいことを見つけて勉強やサークル、ボランティア活動などをしているといったお話をしました。



【キャンパス見学】

学生発表の後はキャンパス内の見学を行いました。匹見中学校の生徒さんは「ずっと通って見たかったところを通ることができてうれしい」と目を輝かせていました。



【記念撮影】

最後に本学マスコットキャラクターのオロリンと記念撮影。匹見中学生にとっても本学学生にとっても、大変貴重な時間を共有することが出来ました。

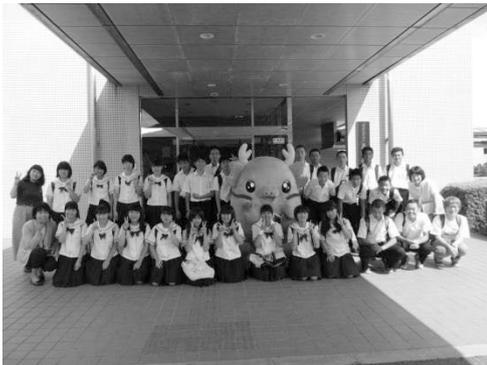


○美郷町立邑智中学校との交流事業

9月23日（金）美郷町立邑智中学校の3年生26名が浜田キャンパスを訪問頂きました。

【記念撮影】

最初に本学マスコットキャラクターのオロリンと記念撮影。邑智中学校の皆さんにも大人気でした。



【キャンパス見学】

最初に施設見学を行ないました。中学生にはめずらしい階段教室で着席し大学を体感しました。



【学生発表】

本学1年生の津田智子さんが自身の大学生活や寮生活での経験談を発表しました。また、経験を積むほど新しい発見や知識が得られるとお話しました。



【ランチ交流会】

邑智中学生の皆さんは自分の好きなメニューを選んで、一緒にランチを楽しみました。



(7) MAKE DREAM 2016

平成 28 年 12 月 16 日（金）に、本学交流センターコンベンションホールにて本学の学生が浜田の地域資源を活用したビジネスプランを提案する島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM 2016」最終プレゼンテーションが開催された。

「MAKE DREAM」は、地域の企業や行政などに学生の発案する若者ならではの自由な発想を聞いてもらい、新産業や新事業創出の参考にしてもらう「アイデア提供型」の企画であり、今回で 6 年連続 6 回目の開催となる。

同コンテストの運営は主催であるはまだ産業振興機構をはじめ、行政、支援機関の幅広い協力を得て行われている。審査にあたっては、久保田章市浜田市長を審査委員長とし、浜田商工会議所、石中央商工会、日本政策金融公庫浜田支店、島根県商工会連合会石見事務所といった各協力機関からトップクラスの方々が審査員として参画した。

コンテストには合計 14 組からの応募があり、書類選考を通過した上位 4 組が最終プレゼンを実施した（表）。

その結果、3 年の小瀧真由さんが発表した、浜田市旭町にある木田暮らしの学校においてヨシタケコーヒーと赤梨を使ったスイーツを提供し、既存のカフェを強化するプランである「ひみつの隠れ家??木造校舎の小さな珈琲店」が最優秀賞を受賞した。また、3 年の松井雅子さんが発表した「復活！はままだの眠れるお寺」が優秀賞を、2 年の松永稜太郎さんが発表した「シャッター商店を活用した水素足湯と缶詰バー」が共感大賞（来場者が最も共感したプランへ投票し、その得票数が最も多いものに対して贈られる）を受賞した。

また今年度は、昨年度のコンテストでの受賞を経て地元企業と連携し観光二次交通の整備に向けた取組みを継続して行っている 3 年の廣井修平さんの発表も行われた。

表 「MAKE DREAM 2016」最終プレゼンテーション発表者とテーマ（発表順）

氏名	学年	発表テーマ
竹内聖太郎	3年	こどもキャリアデザイン
松井雅子 （優秀賞）	3年	復活！はままだの眠れるお寺
松永稜太郎 （共感大賞）	2年	シャッター商店を活用した水素足湯と缶詰バー
小瀧真由 （最優秀賞）	3年	ひみつの隠れ家??木造校舎の小さな珈琲店

（准教授 久保田典男）

(8) 高大連携の取り組み

島根県立大学と島根県立浜田高校及び島根県立江津高校とはそれぞれ平成16年、平成19年に高大連携包括協力協定を締結し、相互の特色を活かした連携活動を行っている。

【島根県立浜田高等学校】

平成16年11月18日 高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講義、ゼミ開放、教育実習生の受け入れ、学生交流など）を継続的に実施

平成28年度の活動状況

5月23日、7月13日 HIRAKU への参画（島根県立大学学びの共有プロジェクト事業）
（普通科2年生170名参加）

10月28日 高大連携推進会議

11月22日 大学見学会（定時制1～4年生6名参加）

【島根県立江津高等学校】

平成19年6月1日 高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講義、ゼミ開放、英語授業開放、学生交流など）を継続的に実施

平成28年度の活動状況

7月29日 学びの共有プロジェクト（高等学校への学生派遣）（2年生71名参加）

7月22日 高大連携推進会議

9月1日～2日 江津高校学園祭（大学活動関連資料の展示、各種サークルの参加）

10月9日～10日 海遊祭（高校活動資料の展示、吹奏楽部との合同演奏等）

10月18日 アカデミック・インターンシップ（普通科2年生31名参加）



① 浜田高校 HIRAKU への参画



② 江津高校アカデミック・インターンシップ

(9)NEAR センター市民研究員制度

日本海をはさんで北東アジア地域に接する島根県とその周辺には、様々な視点からこの地域に強い興味を抱き、知識を蓄えている市民がいる。島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEARセンター）では、日本を含む北東アジア地域の研究に強い興味を持っている市民の方々にNEARセンターの市民研究員として共に研究していただく「NEARセンター市民研究員制度」を平成18年度に創設した。



市民研究員研究発表会の様子

市民研究員はNEARセンターに所属し、研究会等への参画を通じて自らの興味関心に基づく研究活動に取り組むほか、研究テーマで意気投合した本学の大学院生と研究計画書を練り上げ、学内審査のうえ研究助成を受けて共同研究を行うなど、大学院生の研究に刺激を与えていただいている。平成23年度に立ち上げたグループ・リサーチ・サロンは、平成25年度に「北東アジア地域の歴史と文化」・「北東アジア地域の現代的課題」の2つに再編成され、関連する領域の共同研究や情報交換を行う場となっている。

NEARセンター研究員（本学教員・NEARセンター嘱託助手などで構成）は、「NEARアカデミック・サロン」に登壇し、専門研究分野の最前線を市民研究員向けにわかりやすく解説するなどして市民研究員制度を通じた地域への「知」の還元を心がけている。

平成28年度における成果として、市民研究員自らの企画により以下の研究会を開催した。

1. 日時：平成28年7月16日（土）14:00～17:00

場所：講義・研究棟1階 中講義室4

内容：第1部：（1）NEARセンター・アカデミック・サロン

井上厚史 NEARセンター長「日韓関係史における石見の重要性」

（2）「大学院生と市民研究員の共同研究」審査結果発表と講評

第2部：市民研究員による研究発表（若林一弘（市民研究員）、郭雪奕）

「宋寨村（河南省焦作市）の村芝居座」

2. 日時：平成28年12月10日（土）14:00～16:30

場所：講義・研究棟1階 中講義室3

内容：（1）NEARセンター・アカデミック・サロン

李憲 総合政策学部講師「破綻主義離婚と離婚慰謝料」

（2）大学院生との共同研究－市民研究員による中間報告

・岡崎秀紀（市民研究員）

・澁谷善明（市民研究員）

(3) 市民研究員による研究発表（田中文也（市民研究員））

「全国邪馬台国連絡協議会第3回全国大会の開催と基調報告について」

また、年度内に3回開催する市民研究員全体会の一環として毎年度行っている「市民研究員研究発表会」及び「市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会」を以下のとおり開催した。

○平成28年度 市民研究員研究発表会

日時：平成29年1月28日(土)13:00～15:30

場所：交流センター2階 コンベンションホール

内容：市民研究員による研究報告・発表

- ・若林一弘（市民研究員）、鞍山街並み探検隊（鞍山師範学院）
『鞍山街並み探検隊』報告
- ・福原孝浩（市民研究員）
「ハンセン病問題に取り組んで」

○平成28年度 市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会

日時：平成29年3月4日(土)13:00～17:00

場所：講義・研究棟1階 中講義室3

内容：市民研究員と大学院生の共同研究成果報告

- ・滑純雄氏（市民研究員）、王節節氏（大学院生）
「中国と日本の都市生活ごみの分別・収集・処理の比較について
—蘇州市、広島市、浜田市を対象にして—」
- ・岡崎秀紀氏（市民研究員）、格格日勒氏（大学院生）
「破壊と再興に見る内モンゴル・フレイ旗社会における仏教のあり方
—復興に対する経済政策・文化政策と仏教復興の関与者（アクター）を
中心として—」
- ・澁谷善明氏（市民研究員）、李萌氏（大学院生）
「多文化共生社会におけるメディアの役割—在日中国人向けエスニック・
メディアとマスメディア及び地方メディアの相互作用の観点から—」

(10) 講演会講師等・審査会委員等

◇講演会講師等

教員名	依頼元	名称	期間
久保田典男	浜田郷土資料館友の会	日本経済における中小・小規模企業の果たす役割	H29. 3. 11
久保田典男	益田市役所	市民（小規模・中小企業者）を対象とした講演会	H28. 4. 21
久保田典男	日本海信用金庫	後継経営者育成塾「せがれ塾」セミナー講師	H28. 6. 23
八田 典子	島根県社会福祉協議会	シマネスクくにびき学園講師	H28. 11. 5
小林 明子	公益財団法人しまね国際センター	多文化共生フォーラムしまね 2016 の講師	H28. 11. 15
瓜生 忠久	フォーラム「平和・人権・環境」はまだ	報道規制問題を考える集い	H28. 4. 27
岡本 寛	戦争させない・9条壊すな！実行委員会	5・3 憲法集会	H28. 5. 3
岡本 寛	島根県母親大会実行委員会	母親大会の分科会助言者	H28. 6. 19
久保田典男	日本労働組合総連合会島根連合会	参加型の地域フォーラムの講師	H28. 9. 24
大橋 敏博	島根県社会福祉協議会	平成 28 年度シマネスクくにびき学園講師の依頼	H28. 4. 12
別枝 行夫	島根県自治研修所	市町村若手職員政策形成セミナー講師	H28. 11. 7～H28. 11. 8

◇審査会委員等

氏名	発令元	名称	期間
岩本 浩史	大田市	大田市情報公開審査委員ほか	H26. 10. 30～H29. 10. 29
岩本 浩史	浜田市	浜田市情報公開審査会並びに浜田市個人情報保護法審査会及び浜田市個人情報保護審議会委員	H25. 10. 1～H29. 9. 30
岩本 浩史	美郷町	美郷町情報公開審査会委員ほか	H26. 10. 1～H28. 9. 30
岡本 寛	浜田市	浜田市情報公開審査会並びに浜田市個人情報保護法審査会及び浜田市個人情報保護審議会委員	H25. 2. 14～H29. 9. 30
岡本 寛	益田市総務部総務管理課	益田市行政情報公開不服審査会委員	H26. 5. 14～H28. 5. 13
沖村 理史	公益財団法人しまね自然と環境財団	島根県地球温暖化防止活動推進員研修会	H28. 12. 3～H28. 12. 3
沖村 理史	島根県環境生活部環境政策課	島根県環境審議会委員	H26. 7. 1～H30. 6. 30
川中 淳子	浜田市	浜田市保健医療福祉協議会 審議委員	H28. 5. 20～H30. 3. 31
木村 秀史	浜田市総務部行財政改革推進課	浜田市指定管理者選定委員会委員	H27. 10. 15～H28. 10. 14
久保田典男	浜田市総務部行財政改革推進課	浜田市指定管理者選定委員会委員	H27. 10. 1～H28. 10. 31
ケイン エレナ アン	島根県教育委員会	英語教育教科地域拠点事業 運営指導委員	H28. 6. 9～H29. 3. 31
小池 律夫	島根県	学校評議員	H28. 5. 20～H29. 3. 31
小池 律雄	一般財団法人島根県教職員互助会	一般財団法人島根県教職員互助会評議員	H25. 1. 1～H29. 3. 31
小林 明子	公益財団法人しまね国際センター	しまね国際センター評議員	H25. 5. 31～H28. 6. 30
小林 明子	公益社団法人日本語教育学会	日本語教育学会研究集会委員会委員（中国地区）	H27. 7. 1～H29. 3. 31
寺田 哲志	島根県技術管理課、薬事衛生課	島根県公共事業再評価委員会委員	H27. 4. 1～H29. 3. 31
林 秀司	（公財）ふるさと島根定住財団	公益財団法人ふるさと島根定住財団評議員	H24. 6. 27～H29. 3. 31

氏名	発令元	名称	期間
林 秀司	島根県農林水産部農業経営課	島根県中山間地域等振興対策検討委員会委員	H27. 1. 30～H28. 12. 18
林 秀司	島根県農林水産部農村整備課	島根県農地・水保全管理支払交付金検討委員会委員	H27. 4. 1～H29. 3. 31
光延 忠彦	浜田市総合調整室	浜田市行財政改革推進委員会委員	H26. 8. 27～H28. 8. 2
本田 雄一	大田市	難波利三・ふるさと文芸賞審査員	H28. 7. 1～H28. 11. 23
本田 雄一	島根県看護協会・看護連盟合同研修会	公益社団法人 島根県看護協会	H29. 2. 19～H29. 2. 19
本田 雄一	独立行政法人 国立病院機構浜田医療センター	治験審査委員会委員及び倫理審査委員会委員	H28. 4. 1～H30. 3. 31
松田 善臣	浜田市地域公共交通活性化協議会	浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H25. 4. 1～H29. 3. 31
マニング クレイグ トーマス	島根県高等学校英語教育研究会	島根県高等学校英語教育研究会出雲地区大会の講演 会講師	H28. 10. 21～H28. 10. 21
岡本 寛	浜田市	浜田市行政不服審査会委員	H28. 4. 1～H29. 10. 29
岡本 寛	フォーラム「平和・人権・環境」はまだ	フォーラム「平和・人権・環境」はまだ主催の学習会 の講師	H28. 7. 23 H28. 7. 23
岡本 寛	益田市総務管理課	益田市行政不服審査会委員	H28. 4. 1 H30. 3. 31
岩本 浩史	島根県西部県民センター	地域系部活動推進事業報告会の講師として	H29. 2. 1
岩本 浩史	中国地方整備局	中国地方整備局道路協力団体指定委員会	H28. 12. 27～H31. 12. 26
岩本 浩史	浜田市	浜田市行政不服審査会委員	H28. 4. 1～H29. 10. 29
岩本 浩史	美郷町	美郷町個人情報保護審査委員会（会長）	H29. 2. 1～H31. 1. 31
久保田典男	大田市	大田市仁摩地区 道の駅整備推進委員会	H28. 8. 17～H30. 3. 31
久保田典男	大田市	第2次大田市産業振興ビジョン策定委員会プロジェクト 委員	H28. 11. 24～H29. 3. 31
久保田典男	邑南町	地区民を対象として開催する地方創生に関する講演 会の講師	H29. 2. 28～H29. 2. 28
久保田典男	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター	調査事業推進委員会 委員	H28. 6. 9～H30. 3. 31
久保田典男	江津市政策企画課	江津市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会	H28. 3. 1～H30. 2. 28
久保田典男	島根県	島根県雇用表彰委員会「いきいき雇用賞」委員	H28. 5. 20～H30. 3. 31
久保田典男	島根県	島根県芸術文化センター指定管理業務評価委員	H28. 6. 24～H32. 5. 31
久保田典男	特定非営利活動法人石見銀山協働会議	石見銀山基金事業公開審査会、報告会等	H28. 4. 1～H31. 3. 31
久保田典男	浜田市	浜田港拠点化形成協議会（仮称）委員	H28. 5. 20～H30. 3. 31
久保田典男	益田鹿足雇用推進協議会	益田鹿足雇用推進協議会会員への講演会講師	H29. 2. 17～H29. 2. 17
久保田典男	益田市	道の駅整備検討委員会 委員	H28. 9. 5～H30. 3. 31
久保田典男	益田市	益田市商工振興会議委員	H29. 1. 27～H30. 3. 31
金野 和弘	島根県環境生活部	島根県県民いきいき活動促進委員会委員	H27. 4. 1～H29. 3. 31
金野 和弘	鳥取県	鳥取・島根広域連携協働事業審査委員会委員	H28. 6. 14～H29. 3. 31
金野 和弘	日本海信用金庫	後継経営者育成塾「せがれ塾」セミナー講師	H28. 12. 16～H28. 12. 16
光延 忠彦	全国健康保険協会島根支部	全国健康保険協会島根支部評議会評議員	H28. 11. 1～H30. 10. 31

氏名	発令元	名称	期間
光延 忠彦	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会	H28. 9. 29～H30. 9. 28
光延 忠彦	浜田市	浜田市議会議員研修会	H29. 1. 24
光延 忠彦	益田市行革推進課	益田市行財政改革審議会委員	H28. 3. 1～H30. 2. 28
小林 明子	公益社団法人日本語教育学会	公益社団法人 日本語教育学会 審査・運営協力員	H28. 7. 1～H29. 6. 30
小林 明子	浜田市	男女共同参画推進委員	H28. 4. 1～H30. 3. 31
西藤 真一	島根県	浜田・江津地区地域整備方針検討会議オブザーバー	H28. 10. 3～H29. 3. 31
西藤 真一	日本海信用金庫	後継経営者育成塾「せがれ塾」セミナー講師	H29. 2. 9～
西藤 真一	浜田市	浜田城周辺整備検討会 検討委員	H28. 6. 1～H29. 3. 31
西藤 真一	浜田市社会福祉協議会	浜田市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員	H27. 3. 15～H29. 3. 14
西藤 真一	浜田市地域公共交通活性化協議会	浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H27. 4. 1～H29. 3. 31
赤坂 一念	島根県	スーパーグローバルハイスクール 運営指導委員	H28. 10. 11～H31. 3. 31
大橋 敏博	島根県芸術文化センター	島根県芸術文化センター協議会委員	H28. 3. 1～ H30. 2. 28
大橋 敏博	しまね文化ファンド受託者三菱UFJ信託銀行株式会社	しまね文化ファンド運営委員	H27. 4. 1～ H29. 3. 31
大橋 敏博	独立行政法人日本芸術文化振興会	芸術文化振興基金運営委員会地域文化活動専門委員会委員	H27. 8. 1～H28. 6. 30
大橋 敏博	浜田市	浜田市文化財審議会委員	H28. 4. 1～H30. 3. 31
大橋 敏博	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会	H28. 9. 29～H30. 9. 28
大橋 敏博	益田市市長	益田市公平委員会委員	H25. 1. 1～H28. 12. 31
鄭 世桓	川本町	公民館人権講座の講演講師	H29. 1. 27～H29. 2. 24
田中 恭子	雲南市産業振興部商工観光課	雲南市地域経済振興会議委員	H26. 5. 29～H28. 5. 28
田中 恭子	公益財団法人しまね産業振興財団	(公財)しまね産業振興財団評議員	H24. 6. 18～H29. 3. 31
田中 恭子	島根県(財政課)	改革推進会議	H28. 4. 1～H29. 3. 31
田中 恭子	島根県教育委員会社会教育課	島根県社会教育委員	H26. 8. 27～H28. 6. 23
田中 恭子	日本海信用金庫	後継経営者育成塾「せがれ塾」セミナー講師	H28. 10. 18～H28. 10. 18
藤原 真砂	浜田市	浜田市緑の基本計画策定委員会 委員	H28. 10. 1～H29. 3. 31
藤原 真砂	国土交通省中国地方整備局	中国地方整備局事業評価監視委員会委員	H28. 4. 6～H30. 3. 31
八田 典子	江津市	江津市庁舎改修整備基本計画策定業務に係る公募型プロポーザル選定委員会委員	H28. 11. 10～H28. 12. 31
八田 典子	島根県土木部都市計画課	しまね景観賞審査委員	H28. 4. 1～H30. 3. 31
八田 典子	国土交通省中国地方整備局	社会資本整備審議会専門委員(道路分科会 中国地方小委員会委員)の兼任	H26. 11. 26～H28. 11. 25
別枝 行夫	浜田市	浜田市子ども読書活動推進計画委員会 委員	H28. 4. 22～H29. 3. 31
別枝 行夫	浜田市	浜田市図書館協議会 委員	H28. 4. 1～H30. 3. 31
豊田 知世	大田市	大田市公共施設適正化計画策定委員会	H28. 8. 1～H30. 3. 31

氏名	発令元	名称	期間
豊田 知世	日本海信用金庫	後継経営者育成塾「せがれ塾」セミナー講師	H28. 7. 21～H28. 7. 21
豊田 知世	人間文化研究機構	貧困削減のための小規模分散型システムにおける 水・エネルギー・ネクサスの社会最適化プロジェクト	H28. 5. 12～H29. 3. 31
豊田 知世	浜田市	浜田市環境清掃対策審議会 副会長	H28. 4. 1～H30. 3. 31
豊田 知世	浜田市	浜田市環境審議会委員	H28. 4. 1～H30. 3. 31
豊田 知世	浜田市	浜田城周辺整備検討会 検討委員	H28. 6. 1～H29. 3. 31
豊田 知世	公益財団法人ひろしま国際センター研修部	日本の省エネルギーの取り組み、国際協力	H28. 7. 15～H28. 8. 19
木村 秀史	日本海信用金庫	後継経営者育成塾「せがれ塾」セミナー講師	H29. 1. 19～H29. 1. 19
林 秀司	島根県	島根県中山間地域等振興対策検討会	H28. 12. 19～H30. 12. 18
林田 吉恵	島根県	島根県消費生活審議会委員	H28. 7. 27～H29. 7. 26
林田 吉恵	島根県	島根県固定資産評価審議会委員	H28. 12. 15～H30. 12. 14
林田 吉恵	島根県商工労働部商工政策課	島根県商工労働部指定管理者候補選定委員会委員	H26. 8. 27～H29. 3. 31
林田 吉恵	島根県税務課企画・市町村税グループ	島根県固定資産評価審議会委員	H26. 12. 15～H28. 12. 14
林田 吉恵	浜田市上下水道部	浜田市下水道審議会委員	H27. 1. 15～H29. 1. 14
齋藤 暁子	島根県	島根県営住宅浜田中央団地（仮称）福祉施設運営事業者選定委員会	H28. 12. 1～H29. 11. 30
齋藤 暁子	社会福祉法人 かなぎ福祉会	園内研修（高齢者虐待、身体的拘束）	H28. 7. 21～H28. 9. 8
齋藤 暁子	江津市中心市街地活性化協議会	江津市中心市街地活性化協議会 構成員	H28. 6. 24～H30. 3. 31

《出雲キャンパス》

**平成 28 年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター出雲キャンパス運営会議 名簿**

(任期：平成 28. 4. 1～平成 29. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	吉川 洋子	・しまね看護交流センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
准教授	高橋 恵美子	・地域連携推進委員会委員 (担当：生涯学習に関すること)
准教授	掛屋 純子	・地域連携推進委員会委員 (担当：教育機関との連携に関すること・ 産公学連携に関すること)
講 師	平井 由佳	・地域連携推進委員会委員 (担当：産公学連携に関すること、学生ボ ランティアに関すること)
講 師	川瀬 淑子	・地域連携推進委員会委員 (担当：広報・広聴活動に関すること)
講 師	阿川 啓子	・地域連携推進委員会委員 (担当：学生ボランティア・教育機関との 連携・産公学連携に関すること)
助 教	石岡 洋子	・地域連携推進委員会委員 (担当：生涯学習に関すること)
助 教	伊藤 奈美	・地域連携推進委員会委員 (担当：広報・広聴活動に関すること)
助 教	林 健司	・地域連携推進委員会委員 (担当：生涯学習に関すること)
管理課 主任主事	工藤 祐司	・地域連携推進委員会委員
管理課 地域コーディネーター	安食 里美	・地域連携推進委員会委員

出雲キャンパスの地域連携活動概要

しまね看護交流センター長

(地域連携推進センター副センター長) 吉川 洋子

しまね看護交流センターは、COC事業「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」の出雲キャンパスプラットフォームとしての取り組みを実施してきた。平成27年度は、「しまね地域共生学入門」の授業の実施を、遠隔講義システムを活用して3キャンパス共同で実施できた。また、平成28年度入学生から開講する「地域課題総合理解」について準備を進め、しまね地域マイスター認定制度について周知に務めた。

「しまね地域共育・共創研究助成金」による研究活動では、昨年の「9月連携会議」を経て、4件の島根県の特性を活かした研究に取り組み、「全域フォーラム」等において研究成果を地域に向けて報告した。地域からの直接の助言を得ることができ、今後の研究を深める手がかりを得た。

COC事業とともに、しまね看護交流センターでは、「キャリア・看護研究支援部」、「地域連携推進部」、「認定看護師養成部」の3部門をおき、専門職向け、一般向けの多くの事業を展開し、地域のニーズに応えてきた。特に、今年度から「認定看護師養成部」において、島根県の委託事業として認定看護師緩和ケア分野の教育課程がスタートし、約7か月間の研修を終え、1期生19名が課程を修了した。

また、「キャリア・看護研究支援部」においては、現場の看護職の実践力、教育力、研究力の向上に向けて、5つのプロジェクトを継続して展開してきた。シミュレーション研修、看護教員と実習指導者を対象とした研修事業、臨床看護研究研修、卒業生・修了生のフォローアップ等について実施し、参加者から今後への活用など高い評価を得ている。事業によっては島根県、島根県看護協会との連携を図って実施し、効果をあげている。

「地域連携推進部」でも5つのプロジェクトを展開した。出雲市との連携により、サテライトキャンパスでの「いずも健康市民大学」、小学生対象の「論語教室」、一般対象の「いきかたカフェ」もスタートし、今年度の公開講座の延べ人数は1,525人と昨年約2.4倍に増えた。また、学生の地域貢献としてボランティア活動を推進し、年々学生のボランティア活動の報告件数が増加している。在宅ボランティアサークルは、平成28年度県民いきいき活動奨励賞を受賞した。学生時代に自分の知らなかった社会について触れる経験は貴重であり、今後も積極的に推進していきたい。

事業の推進に向けて、学外の関係者との協議を行う「出雲キャンパスプラットフォーム会議」を2回開催した。さらに、年度末に外部委員会を開催し、センター事業に対する外部評価を受けた。今後とも、より適切な地域貢献に向けて、地域からの意見や評価をセンターの事業運営の改善に活かしていきたい。

地域連携活動報告

プロジェクト名：生涯学習

I. 公開講座

1. 目的

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供することを目的とした。

2. 事業内容

*担当教員：助教以上の教員 *講座内容：健康に関するもの、一般教養など

*受講対象：一般 *開催時期：原則平成 28 年 5 月～12 月

*開催場所：本学、その他県内の施設

*開催時間：本学の場合は 9:00～21:00。学外の場合は当該施設と要相談。

*開催方法：

- ① 原則として担当教員が運営するが、求めに応じて地域連携推進委員会(地域連携推進部)が支援する。
- ② 公開講座の参加申込みの受付は事務局が行う。応募を受け付けられない事態については担当教員が申込み者に通知する。
- ③ 客員教授に公開講座に参加していただくこともある。
- ④ 修了証書は講座の担当教員が発行の有無を決定し、準備する。
- ⑤ 手話通訳・託児の希望者の受け入れは担当教員の判断により決定し、手配は担当教員が行う。託児を行う場合、大学で傷害保険に加入する。
- ⑥ 担当教員は、「受講者入館証」を事前に管理課から受け取っておき、当日受付で受講者に配布する

3. 事業実施状況

平成 28 年度は、年度当初から計画していた 7 講座 17 回に加え、椿セラピー協会主催、日本統合医療学会山陰支部共催の講演会「て・あーての心とわざ」川嶋みどり氏を第 8 講座として実施した。各講座の詳細については表中に記載する。

広報としては、リーフレットを県内 110 施設に送付した。さらに昨年度に引き続き、5 講座を出雲市市民活動支援課生涯学習係と、1 講座を出雲市男女共同参画センターと、1 講座をしまね模擬患者の会と共催講座として開催した。公開講座実施後は速やかに講座の様子をホームページに掲載した。

4. 成果

学内の講師に加え、客員教授や川嶋みどり氏の講座など多彩な講座を開講することができた。受講者のアンケート調査からも、概ね高い評価を得ることができた。受講者人数は、延べ 565 名であり、昨年を上回る参加があった。公開講座の様子は、ホームページにて速やかに公開し、情報提供に努めた。

5. 課題

今年度から、公開講座はサテライトキャンパス公開講座との2本立てで実施することとなった。公開講座とサテライトキャンパス公開講座『いずも健康市民大学』のプログラムが、テーマにおいて偏りが無いよう若干の調整が必要であると考え。また今後も、客員教授の特別講演を一般公開するなど、参加者にとってより魅力的なプログラムとなるよう工夫する。

表1 平成28年度公開講座実施状況

講座番号	開催日時	講師	講座名	場所	受講者数
1	6月8日(水) 10:40～12:10	福島敦子 (客員教授)	心の健康は素敵なコミュニケーションから	出雲キャンパス 大講義室	253
2	7月2日(土) 10:00～11:30	石橋鮎美	笑いヨガでみんないきいき 第1回	ふあっと地域交流ホームつどい	23
	12月3日(土) 10:00～11:30	石橋鮎美 和田由佳	笑いヨガでみんないきいき 第2回		21
3	8月27日(土) 10:00～11:30	松本玄智江	アロマで心と身体のリフレッシュPart.11 ①	出雲キャンパス 215実習室	19
	9月10日(土) 10:00～12:00		アロマで心と身体のリフレッシュPart.11 ②		15
4	8月2日(火) 10:00～11:30	濱村美和子	ブレママと赤ちゃんのためのゆったりヨガ ～マタニティ&育児を楽しみましょう～ 第1回: ベビーマッサージとベビーヨガ	出雲キャンパス 107実習室	7
	8月9日(火) 13:30～15:00	嘉藤恵	ブレママと赤ちゃんのためのゆったりヨガ ～マタニティ&育児を楽しみましょう～ 第2回: マタニティ・ヨガ		6
5	11月23日(水) 10:00～12:00	長島玲子 井上千晶	ブレババ・ママ講座 ～体験者や赤ちゃんから学ぼう! 妊娠・出産・子育て～	川跡コミュニティーセンター	38
6	9月16日(金) 18:00～20:00	高橋恵美子 小田美紀子 小田香澄	前向き子育てのための親講座 (グループセッション)	出雲キャンパス 215実習室	5
	9月23日(金) 18:00～20:00				5
	9月30日(金) 18:00～20:00				5
	10月7日(金) 18:00～20:00				5
7	5月24日(火) 19:00～20:30	松本玄智江	模擬患者(SP)養成講座①	出雲キャンパス 215実習室 220～224 演習室	4
	6月21日(火) 19:00～20:30	吉川洋子	模擬患者(SP)養成講座②		2
	7月20日(水) 19:00～20:30	平井由佳	模擬患者(SP)養成講座③		6
	9月13日(火) 19:00～20:30	岡安誠子	模擬患者(SP)養成講座④		12
	10月25日(火) 19:00～20:30	梶谷麻由子	模擬患者(SP)養成講座⑤		7
8	10月2日(日) 10:00～12:00	川嶋みどり	「て・あーての心とわざ」	出雲キャンパス 大講義室	132
			合計		565

Ⅱ. サテライトキャンパス公開講座

【いずも健康市民大学】

1. 目的

市民の専門的な健康に関する学習要求に応え、学習機会を提供することにより豊かな市民生活に資するとともに、学習の成果を地域に還元し、出雲市民としての誇りを持って自立する市民を育てていくことを目的とする。

2. 事業内容（「いずも健康市民大学実施要綱」に基づき運営）

*講座内容：市民大学に複数の講座を置く。市民の要求と社会的要請を考慮し、運営委員会の意見を聴いて、いずも健康市民大学学長（出雲キャンパス副学長）が決定する。

*学習形態：1年を前期及び後期の2期に分け、各期内で継続した構成とする。

*受講対象：一般市民20名程度（受講者は一般公募）

*開催場所：島根県立大学出雲キャンパスサテライトキャンパス

*開催時期：前期課程〈平成28年5月～8月〉 後期課程〈平成28年9月～12月〉

*その他：各課程において、全開講回数のうち3分の2以上受講した者に修了証を授与する。

3. 事業実施状況

前期後期それぞれに全15回の講座を計画し、前期14回、後期12回の講座を実施した。

参加者は、前期課程21名、後期課程24名であり、うち6名は前期・後期の両課程を受講された。修了証は、前期12名、後期21名の参加者に授与した。実施状況の詳細については表に示す。

4. 成果

講座内容については、多くの参加者から「良かった」という声があり、満足度が高かった。特に関心が高かったのは、『インド仏跡巡拝と眼鏡寄贈事業』『楽しく食べて健康長寿・「いただきます」に込められた感謝の気持ち』『地域支援が地域活性に与える影響』『認知症講座』『免疫老化を防ぐ・油に関する最新常識』であり、文化的あるいは保健的内容が好評であった。いずも健康市民大学のねらいである、市民が多様な分野の専門的な内容を継続的に学習し、健康づくり等の自主的な活動や豊かな市民生活について考える機会となっていると評価できる。

5. 課題

今年度は、講師の都合等でプログラムを一部変更した。事前に講師との打合せを十分行い、変更がないよう努力する。次年度も文化的内容を盛り込みながら、島根県立大学出雲キャンパスの特徴である看護や保健の内容を組み合わせる講座を配置する。

要望として「15回は多い」「年末は多忙」「夏は暑く時間帯を考慮して欲しい」「駐車場があればもっとよい」などが聞かれた。次年度は、回数を減らし、真夏や年末の開催を控えることや、内容により会場を出雲キャンパスに変更するなどを検討し、暑さや駐車場の問題に対応できるよう考慮する。

表2 いずも健康市民大学実施状況

前期課程

回数	開催日	講座名	講師	参加人数
1回	5月17日	インド仏跡巡拝と眼鏡寄贈事業	飯塚大幸	20
2回	5月19日	認知症を知ろう	山下一也	16
3回	5月26日	認知症の予防と備えⅠ（回想法と脳トレ）	伊藤智子	18
4回	6月2日	認知症の予防と備えⅡ（食事と運動）	加藤真紀	14
5回	6月9日	直会とは何か？	錦田剛志	14
6回	6月23日	楽しく食べて健康長寿	秦幸吉	17
7回		「いただきます」に込められた感謝の気持ち		16
8回	6月30日	ワークライフバランス	藤原真砂	12
9回	7月7日	香道の紹介	大谷香代子	15
10回	7月12日	男性のがん：罹患率第2位～増えています！前立腺がん	掛屋純子	11
11回	7月26日	がん患者の家族の思い	掛橋千賀子	14
12回	8月2日	がん医療とサポート	坂井淳恵	9
13回	8月9日	早期発見!! がん検診を受けましょう	坂井淳恵	8
14回	8月25日	地域支援が地域活性に与える影響	佐藤忠吉	17

後期課程

回数	開催日	講座名	講師	参加人数
1回	9月8日	文化創造の喜び～ラフカディオ・ハーンを活かす世界の動き～	小泉凡	22
2回	9月13日	認知症の正しい理解	山下一也	23
3回		認知症予防最前線・認知症の症状や対応について		23
4回	9月29日	コミュニケーションに役立つカウンセラー（臨床心理士）の視点	川中淳子	22
5回	10月13日	免疫老化を防ぐ	秦幸吉	19
6回	10月20日	油に関する最新常識ーコレステロール性善説を中心にー	秦幸吉	21
7回	10月27日	真の健康は賜るもの	小松昭夫	23
8回	11月10日	コーチングを活用した人間関係づくりⅠ	小田美紀子	21
9回	11月17日	コーチングを活用した人間関係づくりⅡ	小田美紀子	20
10回	12月15日	気軽に薬膳～元気に冬を過ごすための知識～	藤田小矢香	18
11回	12月15日	中高年のヨガ ゆったりヨガで健康づくり	狩野鈴子	19
12回	12月22日	方言と文化	錦織雅紘	16

【いきかたカフェ】

1. 目的

生き方や逝き方について考える場を提供し、自分自身や大切な人のいのちについて考えることを目的とする。

2. 事業内容

- * 講座主催：出雲いのちをみつめる市民の会
- * 受講対象：一般市民
- * 開催場所：島根県立大学出雲キャンパスサテライトキャンパス
- * 開催時期：毎月第3土曜日 14:00～16:00

3. 事業実施状況

事業計画に沿って表の通り実施した。

表3 いきかたカフェ実施状況

月日	テーマ	ファシリテーター	参加人数	場所
4月16日	渡辺裕子著(元家族ケア研究所所長) “看取りに添える20の言葉”	加藤さゆり	6	サテライトキャンパス
5月21日	「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に	阿川啓子 園山純代	58	寿生病院
6月18日	お坊さんと話そう！	園山純代	9	サテライトキャンパス
7月16日	事例検討 末期がんであったにもかかわらず最後まで独居を貫き、ご自宅で最期を迎えられた症例	花田梢	7	サテライトキャンパス
8月20日	もし看取る立場になったとき、どうしますか？	吉松恵子	6	サテライトキャンパス
9月17日	認知症の介護	花田梢	3	サテライトキャンパス
10月15日	いのちの輝きを考える日	「いのちの輝きを考える日」実行委員会	300	出雲市役所 くにびき大ホール
11月19日	あったらいいなあ～こんなメッセージ	加藤さゆり	5	サテライトキャンパス
12月17日	家族と最期の時について語ったことがありますか？	阿川啓子	8	サテライトキャンパス
1月21日	大切な存在を亡くしたとき～グリーフケアについて～	阿川啓子	5	サテライトキャンパス
2月18日	自由テーマ	今田敏宏	5	サテライトキャンパス
3月14日	岡山大学学生との交流	阿川啓子	10	サテライトキャンパス
3月18日	家のない人の死を考える	吉松恵子	4	サテライトキャンパス

4. 成果

カフェでは、様々な角度から死を考えることのできるテーマで運営をした。参加者は決して多くはないが、毎月新しい人の参加があり、その都度自分の思いを語った。さらに、5月の講演会を契機に島根日日新聞社からコラムの依頼があり毎週金曜日に「いきかたカフェ」という連載コラムが開始となった。

5. 課題

参加者の中には、看取り経験の乏しい専門職の苦悩を語る人が多かった。そこで、看取りを経験している専門職業人向けの教育プログラムの構築の必要性が示唆された。

【論語教室】

1. 目的

論語の素読を中心に、古典に親しみ古典を学ぶことにより、これからの生き方を考えることを目的とする。

2. 事業内容

*講座内容：論語の素読を中心に、古典に親しみ古典を学ぶ。

*講師：小倉雅介氏（私塾「尚風館」講師・元出雲市立小学校長）

*受講対象：市内小学生 4年生以上 20名以内

*開催場所：島根県立大学出雲キャンパスサテライトキャンパス

*開催時期：平成28年4月～9月 土曜日 14:00～15:30 全12回

表4 論語教室開催日程

回	開催日程	回	開催日程
第1回 開校式	4月 9日 (土)	第7回	6月25日 (土)
第2回	4月23日 (土)	第8回	7月 2日 (土)
第3回	5月 7日 (土)	第9回	7月 9日 (土)
第4回	5月14日 (土)	第10回	9月 3日 (土)
第5回	5月28日 (土)	第11回	9月10日 (土)
第6回	6月 4日 (土)	第12回 閉校式	9月24日 (土)

3. 事業実施状況

全12回のうち、第10回は台風接近により講座を中止したため、全11回の開催であった。

参加児童は、市内小学校4年生から6年生までの男児7名、女児4名の計11名で、8回以上参加した児童は7名であった。

講座の内容は、論語の素読を中心とする論語学習の他に、コミュニケーションゲームや「気」を集中する呼吸法、偉人に学ぶ「永井隆」などを学習した。最終日は閉校式を行い、「この章句こそ」として、各自がこれまで学んだ章句の中で、一番心に残った章句とその理由を紹介した。

4. 成果

参加児童から、研修後に「3秒息を吸って6秒息を吐いて心を落ち着かせることを初めてやった。これをやったら心が落ち着いて物事を集中してやり遂げることができるので学校でも授業の前にやっている。」「ここで習ったことを家で復習している。この学習では、人の気持ちや自分の気持ちについて学習した。」などの意見がきかれた。論語学習を通して孔子の教えに触れ、人として大切な心を学び、自分を見つめる時間を持つ機会となっていることがわかる。事業の目的を達成していると考えられる。

5. 課題

論語は小学生にはなじみが薄く、参加希望者が少ないのが課題である。今後も広報活動に力を入れ講座の魅力を知り、参加児童の確保に努める。

Ⅲ. 地域、団体主催による出前講座

1. 目的

本学の専門的、総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開するため、地域や各種団体からの依頼に対応し、看護に関する知識・技術及び一般教養を身につける学習の機会を提供する。

2. 事業内容

しまね看護交流センター窓口への講師派遣依頼に対応し、希望テーマや教員、条件などを詳細に聞き取りした後で出雲キャンパス教員の中から適任者を選び、承諾を得た後、依頼者に紹介する。出前講座の実施状況について、講座担当教員に実施報告書の提出を求め、ホームページに出前講座の様子を掲載する。次年度に開講可能な一般向けテーマ登録の募集を行い、一覧をホームページに掲載する。

3. 事業実施状況

出雲キャンパスの教員が平成 28 年度に開催可能なテーマを一覧表にして、依頼方法の詳細とあわせてホームページに掲載した。また、テーマ一覧のチラシを作成しPRを行った。

講師派遣依頼は平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月まで継続的にあり、しまね看護交流センター地域連携推進部にて受け付けた依頼は 45 件であった。そのうち 1 件は平成 29 年度に開催、2 件は講師の調整困難のため断り、計 42 件の出前講座を実施した。

平成 29 年度の準備として、地域貢献登録カードにより教員から開催可能なテーマの事前登録を募り、提出されたテーマを一覧表にしてホームページに掲載し、チラシ原稿を作成した。

4. 成果

今年度、45 件の依頼に対し 43 件の受付、42 件の実施を行った。地域からの講師派遣依頼に対し 95%という高い割合で対応できている。依頼元は、地域のコミュニティーセンターや健康クラブからなどからが多く、内容は、認知症や介護予防、ロコモなど疾病予防に関する内容から、アロマセラピーや笑いヨガなどより健康で豊かな暮らしのための講座など多岐にわたった。出前講座が地域や各種団体の健康や看護に関する知識や技術、一般教養のニーズに応えるものとなっていると評価できる。

5. 課題

地域からの希望テーマに偏りがあり、一部の教員に負担がかかることが課題とされていたが、やはり今年度も実施教員に偏りがみられた。依頼元との話し合いの中で、他の講師や関連テーマを紹介するなど調整を行い、特定の教員に強い負担がかかることがないようにしていく必要がある。

また、出前講座の実施報告書の提出が徹底されておらず、ホームページに実施状況を十分反映させることが出来なかった。次年度は、教員に対し報告書の提出、写真の掲載などの協力を求め、ホームページ等で活動実績を広報することにも力を入れる。

表5 出前講座実施状況

番号	依頼元	実施日	実施教員	テーマ・内容
1	社会医療法人石州会	5月11日	吉川洋子教授	記念式典講演
2	ダイワボウOB借和会	5月22日	和田由佳助教	ダイワボウOB借和会 第55回総会 講演会 テーマ:「笑いヨガ」
3	沢谷交流センター	5月25日	松谷ひろみ助教	美郷町沢谷公民館 生涯学習講座「チャレンジ教室」 テーマ:「みんなで知ろう!防ごう!認知症~こころもからだも健やかに~」
4	志学保育園	5月28日	高橋恵美子准教授	保護者を対象とした研修会 テーマ:「子どもの病気について~知っておいてほしい基礎知識~」
5	社会福祉法人たいま山秀峰会 養護老人ホーム松風園	6月4日	山下一也教授	講演会 テーマ:「認知症予防の最前線」
6	大社コミュニティセンター	6月13日	伊藤智子教授	介護予防教室「白うさぎ」 テーマ:認知症予防等健康に関する講話・回想法
7	島根県職員退職者会 安来支部	6月18日	石橋鮎美助教	島根県職員退職者会安来支部 定期総会 講演会 テーマ:「笑いヨガ」
8	出雲市市民活動支援課	6月26日	長島玲子教授 井上千島講師 石岡洋子助教	出雲市男女共同参画センター講座 「ブレババ・ママ講座」
9	出雲市市民活動支援課	6月29日	落合のり子准教授	出雲市生涯学習講座「いきいき健康生活アカデミー」 第1回「良いこと探しでハッピーになろう!~学び合い、支え合う元気シニアを目指して~」
10	湖陵コミュニティセンター	7月3日	松本亥智江准教授	湖陵町民を対象としたアロマセラピー講座 第1回:「アロマセラピーの基礎知識~安全に香りを楽しむために~」
11	島根県教職員退職互助出雲地区会	7月7日	山下一也教授	島根県教職員退職互助出雲地区会総会時の「会員の集い」における講演
12	美郷町教育委員会	7月7日	林健司助教 松谷ひろみ助教	美郷大学での講義 テーマ:「ロコモ予防でいきいき生活」
13	湖陵コミュニティセンター	7月23日	松本亥智江准教授	湖陵町民を対象としたアロマセラピー講座 第2回:「アロマでリラックス~ハンドマッサージ講座~」
14	大社コミュニティセンター	8月8日	加藤真紀講師	介護予防教室「白うさぎ」での講義 テーマ:「認知症予防とコグニサイズ」
15	出雲医療生活協同組合	8月24日	加藤真紀講師	出雲市乙立地域「恵友会」・社会福祉協議会・出雲医療生活協同組合乙立支部共催の健康企画 テーマ:「認知症予防と運動(コグニサイズ)」
16	川跡長生会連合会	8月25日	伊藤智子教授	「もし『あなたは認知症』と言われたら」
17	出雲市市民活動支援課	9月6日	阿川啓子講師 吉松恵子助教	出雲市生涯学習講座「いきいき健康生活アカデミー」 第5回「介護する側、される側、両方を笑顔にするために知っておきたい基礎知識~制度、サービス、用具からリフォームまで~」
18	島根県社会福祉協議会	9月9日	石橋照子教授	シマネスクくにびき学園西部校での講義 テーマ:「心の危機とケア」
19	知夫村	9月12日	松本亥智江准教授	介護予防事業
20	出雲市立湖陵幼稚園	9月16日	高橋恵美子准教授	PTAを対象とした研修会 テーマ:「メディアとの上手な付き合い方」
21	島根県雲南保健所	10月11日	山下一也教授	難病ボランティア養成講座 テーマ:「難病の正しい理解と知識~基礎編」
22	島根県社会福祉協議会	10月18日	石橋照子教授	シマネスクくにびき学園東部校での講義 テーマ:「心の危機とケア」
23	大社コミュニティセンター	10月24日	松本亥智江准教授	介護予防教室「白うさぎ」での講義 テーマ:「音楽回想法」
24	川跡長生会連合会	10月25日	松本亥智江准教授	認知症予防講座
25	日御碕コミュニティセンター	10月26日	秦 幸吉教授	コミュニティセンター自主企画事業「健康学習」における講演会
26	知夫村	11月17日	松本亥智江准教授	健康づくり交流事業サポーター研修会
27	知夫村	11月18日	松本亥智江准教授	介護予防教室 「お達者教室」
28	隠岐の島町小・中学校PTA連合会	11月19日	小田美紀子講師	隠岐の島町小・中学校PTA連合会研修大会における講演講師
29	日御碕コミュニティセンター	11月22日	狩野鈴子准教授	コミュニティセンター自主企画事業「健康学習」での講演会 テーマ:「中高年のヨガ ゆったりヨガで健康づくり」
30	美郷町教育委員会	11月24日	松本亥智江准教授	美郷大学における講義 テーマ「自然治癒力を高めるアロマセラピー」
31	おおつ健康サークル	11月28日	伊藤智子教授 加藤真紀講師	おおつ健康サークル 講演会
32	大社コミュニティセンター	12月12日	小川智子助教	介護予防教室「白うさぎ」での指導 認知症予防に関する「童謡かるた」を使った回想法
33	川跡長生会連合会	1月25日	小田美紀子講師	川跡長生会理事会での講演 テーマ:「プラス思考・プラス発想法」
34	出雲市健康増進課 母子保健係	1月30日	小田美紀子講師	出雲市あかちゃん声かけ訪問員を対象とした研修会
35	上達堀健康クラブ	2月8日	小田美紀子講師	上達堀健康クラブ(サロン活動)での講座 テーマ「快適な眠りを得るために」
36	雑賀公民館	2月27日	山下一也教授	雑賀地区認知症見守りの会「ほっとさいか」研修会 テーマ:「認知症予防のための食事」

37	社会福祉法人 浜田市社会福祉協議会	3月11日	山下一也教授	テーマ：「認知症予防最前線」
38	知夫村	3月13日	松本玄智江准教授	介護予防教室 「お達者教室」
39	知夫村	3月13日	松本玄智江准教授	介護予防教室「いきいき体操教室」
40	出雲医療生活協同組合 組織課	3月16日	小田美紀子講師	出雲医療生活協同組合健康づくり委員会開催の健康教室 テーマ：「体とこころを温めて元気で長生きしよう！」
41	ICT出雲クラブ	3月27日	山下一也教授	ICTの山陰地区クラブ例会における講演会
42	川本町社会福祉協議会	3月28日	山下一也教授	認知症講演会 テーマ：「生活習慣病と認知症との関係」

IV. ぎんざんテレビ出前講座

1. 目的

石見銀山テレビが放映する出前講座を通して、地域住民に健やかな生活をおくるために役立つ幅広い知識を普及することにより、地域に貢献する。

2. 事業内容

石見銀山テレビ放送株式会社と共同し、ケーブルテレビ番組「ぎんざんテレビ出前講座」を制作し、放映する。

3. 事業実施状況

平成 28 年度の前期は、昨年度収録した 6 講座を放映した。

後期は、平成 28 年度サテライトキャンパス公開講座「いずも健康市民大学」の中から、講師の承諾が得られた 5 講座を収録し、「ぎんざんテレビ出前講座」で 10 月から放送している（表 6）。

4. 成果

今年度後期は、放映形態を変更し、サテライトキャンパス公開講座「いずも健康市民大学」の講座を収録し、放映するかたちをとった。これにより、1 回分の放送時間が 60 分程度に拡大され、専門性が高く内容の深い番組づくりが可能になるとともに、出雲キャンパス教員以外の講師による番組も放映できた。このことは、幅広い知識の普及に貢献したと評価する。

5. 課題

石見銀山テレビとの連携事業も、今年度で 8 年が経過し、これまでに作成した番組は 110 本を越えている。1 教員あたり複数本の番組を作成しており、徐々に教員が担当できるテーマにも限りが出てきている現状がある。今後は、これまで作成した 110 本の有効な活用や、特に地域で関心の高かった番組をリニューアルするなど、教員の負担を軽減することと、より地域のニーズに沿った番組作りを工夫していく必要がある。

表6 平成28年度ぎんざんテレビ出前講座リスト

	出演者	テーマ
1	出雲キャンパス 副学長 山下一也	認知症の正しい理解・予防最前線①
2	出雲キャンパス 副学長 山下一也	認知症の正しい理解・予防最前線②
3	浜田キャンパス 教授 藤原真砂	ワークライフバランス
4	松江キャンパス 教授 小泉 凡	文化創造の喜び ～ラフカディオ・ハーンを活かす世界の動き～
5	木次乳業有限会社 取締役 佐藤忠吉	地域支援が地域活性に与える影響

プロジェクト名：学生の地域交流・地域貢献

I-1. 学生ボランティア活動の促進：学生ボランティア研修会

1. 目的

研修を通して「ボランティアとは何か?」「学生がボランティア活動をする意義」について学ぶ。また、本学学生が実際に取り組んでいる活動を知り、「自分たちにできることは何か」「大学生活を通して何がしたいのか」について考える機会をもち、ボランティア活動への参加意欲を高める。

2. 事業内容

出雲キャンパスの学生を対象に以下の内容で研修会を計画した。同時に、遠隔テレビ会議システムを使い浜田キャンパスにも中継した。

3. 事業実施状況

1) 日時：平成 28 年 5 月 11 日（水） 10:40～12:10

2) 場所：島根県立大学出雲キャンパス 大講義室

3) 内容

(1) 学生によるボランティア活動の報告（がんを考える学生の会「てんしんはん」・いなたひめプロジェクト、東日本大震災災害復興支援ボランティア「いわて GINGA-NET プロジェクト」）

(2) 講演会「ボランティア活動の魅力」 講師：島根県立青少年の家 古澤俊司氏

(3) 地域の団体によるボランティア紹介（国立三瓶青少年交流の家、出雲市社会福祉協議会、島根県立青少年の家）

(4) ボランティアマイレージ制度の紹介、3 キャンパス合同学生ボランティア交流会の紹介等

4) 参加者：看護学部看護学科 82 名（1 年次生：78 名、3 年次生：4 名）

浜田キャンパス：2 名 合計 84 名

4. 成果

研修内容について、参加した学生の 8～9 割が「ボランティアに魅力を感じた」、「興味をもった」、「ボランティアをしたいと思った」とアンケートに回答しており、研修会の目的を達成できたと思われる。

5. 課題

研修会では、多くの学生がボランティアへの参加意識が高まったと回答し、実際のボランティア活動にもつながっていた。

しかし、研修会の開催方法に関しては、平成 28 年度から当研修会が授業化（キャリアセミナーとして実施）されたことで開催日時が固定化となり、各キャンパスの希望をもって調整することが困難となった。平成 28 年度は、浜田キャンパスのみの中継で実施したが、今後も他キャンパスからの参加は難しく、次年度からは 3 キャンパス合同での研修会の開



催はしない方向となった。

I-2. 学生ボランティア活動の促進：学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア活動保険の実施

1. 目的

学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア活動保険は、学生が地域でのボランティア活動等に積極的に参加するための、学生ボランティア活動促進の制度である。マイレージ制度およびボランティア活動保険への学生登録を促し、適切な運用を実施する。

2. 事業内容

- 1) 学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア活動保険の説明と加入
- 2) 学生のボランティア活動実績に対しての、適切なポイントの付与
- 3) ボランティア活動中の事故に対する保険の手続き

3. 事業実施状況

- 1) 平成 28 年 4 月 3 日の新入生オリエンテーション時に、学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア活動保険について説明し、登録を促した。
- 2) 学生ボランティア・マイレージ制度実績（平成 29 年 3 月 31 日現在）

(1) 学生ボランティア・マイレージ登録者数

看護学科 1 年：80 名、2 年：82 名、3 年：82 名、4 年：58 名、別科助産学専攻：18 名 合計 320 名（前年比：112%）

(2) ボランティア活動保険加入者数

看護学科 1 年：80 名、2 年：51 名、3 年：54 名、4 年：24 名、別科助産学専攻：18 名 合計 227 名（前年比：166%）

(3) ボランティア活動報告件数

看護学科 1 年：168 件、2 年：2 件、3 年：21 件、4 年：2 件、別科助産学専攻：3 件 合計 196 件（前年比：213%）

(4) ボランティア活動保険利用の実績 0 件

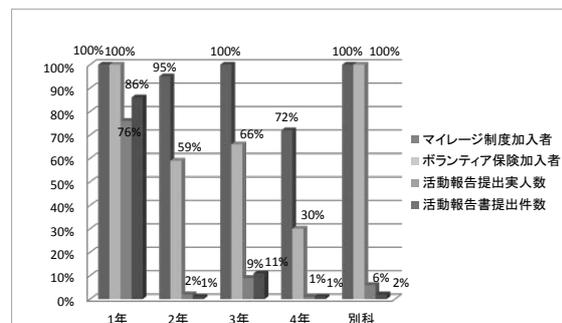


図1 学年別登録・活動状況

- 3) ボランティア活動報告書の提出件数が少ないことから、学生が提出しやすいよう様式を簡略化し、学生に周知した。

4. 成果

新入生に対しては、オリエンテーションを通じ、マイレージ制度、ボランティア活動保険について説明したことにより、ほとんどの学生が登録と加入をした。

5. 課題

学生の活動が活発となったことから、活動中の事故に備えた補償を充実させる必要があり、次年度からは、1、2年生は保険に全員加入することとした。

また、ボランティア保険加入の事務手続は、これまで浜田キャンパスに依頼していたが手続の簡略化・浜田キャンパスの負担軽減を考え、平成30年度からは、出雲キャンパスでの管理へと変更し、より学生がボランティア活動しやすい環境を整える。

I－3. 学生ボランティア活動の促進：学生へのボランティア情報提供

1. 目的

地域からのボランティア募集の情報を学生に周知しコーディネートすることで、学生ボランティア活動の推進をはかることを目的とする。

2. 事業内容

地域からの学生ボランティア募集に対し、しまね看護交流センターを窓口し、学生に対し情報を学内掲示およびメール等で発信し、ボランティア参加学生を募る。その結果を、地域の依頼団体へ連絡する。

3. 事業実施状況

地域からの学生募集の実績（平成28年4月1日～平成29年3月31日）：センター窓口を通じての依頼は、69件であった。学生に対し、ボランティア活動を支援する目的で、学生が取り組んだボランティア活動を紹介する報告書を作成した。

4. 成果

学生ボランティア研修会後、1年生の約80%の学生がボランティア活動へ参加している。また、学生自ら、しまね看護交流センターの窓口を訪れてボランティア活動について相談をするなどの主体的な行動も認めている。さらに、本学の在宅ボランティアサークルが「平成28年度県民いきいき活動奨励賞」を受賞した。また、同サークルは、NHKテレビの「きらりキャンパス」でボランティア活動報告も行った。

5. 課題

5月のボランティア研修会をきっかけに参加学生の人数は増加傾向にある。学生がボランティア活動の楽しさを伝えたことで効果をあげたと感じる。次年度では、ボランティア活動を経験した学生が、ボランティアで学ぶことができた内容を伝える場所の提供ができるような支援が必要と感じている。

表7 学生ボランティア活動状況

(H28. 4. 1~H29. 3. 31)

ボランティア募集依頼・参加件数（センター受付）

番号	内 容		募集依頼件数	参加者数
1	福 祉	福祉・・・高齢者・障がい者などさまざまな生活環境を抱える人たちへの支援 障がいのある子どもの支援 医療、保健・・・病院でのボランティア活動。心に病を持つ人への支援、相談援助	35	155
2	子 ども	子育て・・・乳幼児保育サービス、共同保育、育児サークル等 健全育成・・・青少年非行防止活動、子ども会等の育成活動等	10	37
3	環 境	自然環境保全・自然保護、森林保全、地域環境保全、河川のクリーン活動等 公害・エコロジー・リサイクル活動、ゴミの減量化、公害の防止等	1	0
4	地 域	まちづくり・・・都市計画や公共施設建設などでの市民参加、福祉まちづくり、 地域おこし、観光ボランティア 災害支援・・・防災活動、災害時の救護、支援活動	10	16
5	文 化	芸術文化・・・美術館、博物館での活動。地域文化の保全、育成 スポーツ・・・スポーツ活動への支援、障がい者スポーツへの参加協力 教育・・・学校教育や社会教育、生涯学習活動への協力	10	89
6	国 際	国際協力・・・海外協力、日本にいる外国人の支援、難民支援 国際交流・・・国際文化交流、通訳ボランティア、外国語講座、日本語講座等	3	8
7	その他	どれにも分類しがたいもの	0	0
合 計			69	305

I-4. 学生ボランティア活動の促進：3キャンパス合同学生ボランティア交流会

1. 目的

島根県立大学の松江、出雲、浜田の3つのキャンパスは、学部、学科が違うことからそれぞれのキャンパスに特色がある。継続的なキャンパス間の学生交流の一環として、3キャンパス合同でそれぞれのキャンパスの特色を活かしたボランティアを企画、実行することを目的とする。

2. 事業内容

3キャンパスの学生有志で構成されるメンバーが集い、平成28年度に実施する3キャンパスボランティア活動を企画して実施した。

3. 事業実施状況

【3キャンパス合同学生ボランティア交流会】

1) 日時：平成28年7月18日（日） 10:30～16:00

2) 場所：松江キャンパス

3) 参加者：学 生 出雲キャンパス：8名、浜田キャンパス：12名、松江キャンパス：11名 合計31名
教職員 3キャンパス合計8名



4) 内容：交流会&ボランティア企画

各キャンパスからボランティア活動の報告をする。

各班に分かれて、どのようなボランティア活動を行うか企画案を作成する。

各班に分かれて、どのようなボランティア活動を行うか企画案を作成する。

【3キャンパス合同学生ボランティア活動&交流会】

- 1) 日時：平成28年11月26日（土）・27日（日）
- 2) 場所：国立三瓶青少年交流の家
- 3) 参加者：学 生 出雲キャンパス：7名、浜田キャンパス：6名、松江キャンパス：7名 合計20名
教職員 3キャンパス合計7名
- 4) 主旨：3キャンパスの学生がボランティア活動によるつながりをつくることを目的とする。春の交流会で企画した案を基に実際にボランティア活動に取り組み、ボランティアの意義を考える。

4. 成果

学生はわさび農園でのボランティア活動を通して、自然豊かな環境の中で学生同士が共に作業をする楽しみを感じていた。また、2日目のワークショップでは本学の学生は、「自分自身で改善すべき自分の行動が見つかりました」などと話し、今後の学生生活に活用すると意欲を述べていた。

5. 課題

松江キャンパスが中心となって実施した。SNSなどを駆使して3キャンパスの連携を行っていたが、意見を集約することは難しかった。学部の特徴を考慮し連携のあり方の検討をする必要がある。

II. 受託事業および地域活動への学生参加促進

1. 目的

出雲保健所などの受託事業および地域活動への学生ボランティアの参加を促進する。

2. 事業内容

出雲保健所の実施する学生コミュニケーション・ボランティアの補助事業協賛により在宅ボランティアサークルの学生との連絡調整、学生の参加を促す。

また、地域からの依頼により、がんを考える学生の会「てんしんはん（いなたひめPJ）」などのがん撲滅のための啓発活動、その他学生が主体的に実施する活動を支援する。

3. 事業実施状況と成果および課題

平成26年度より在宅ボランティアサークルは出雲保健所と共同して「在宅療養重症難病患者と学生ボランティアのコミュニケーション事業」を行っている。本学の在宅ボランティアサークルの活動としては、島根大学の学生と共に勉強会や療養者の生活の場へ訪問をしている。また、その他地域活動への学生ボランティア活動の一部を以下に報告する。

表8 学生の活動状況と成果ならびに課題

	在宅ボランティアサークル	がんを考える学生の会 「てんしんはん」	水辺のビオトープ研究会
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ALS等により在宅療養されている方（6件）の自宅・施設に毎月訪問し、一緒に会話を楽しみ、ネイルや折り紙等、患者さんやご家族の希望する「楽しみ」「趣味」「リラクゼーション」の支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 乳がん・子宮頸がん検診受診率向上のための啓発活動を行った。 【活動の場】 本学大学祭、出雲市斐川町出西地区健康まつり、邑南町タウンミーティング、出雲市役所主催街頭啓発活動、松江市乳がん月間啓発活動、子宮頸がん啓発イベントトークセッション参加 活動の基礎となる学習会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 川跡地区の川跡ビオトープ友の会の方々と地元の小中学生とともに、ビオトープ補修整備作業やビオトープの生き物観察、春・秋ビオトープフェスタの活動ボランティアを行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> NHK テレビ「きらりキャンパス」で、ボランティア活動報告を行った。ボランティア活動の評価は高く、中四国地域での放送も計4回あった。 平成28年度 県民いきいき活動奨励賞を受賞した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での活動を通して、乳がんや子宮頸がん、がん検診に関心を持ってもらう機会を提供した。 専門家を招いた学習会や学生同士の自主的な勉強会を行い、がん検診啓発活動の基盤形成ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 四季折々の自然を身体いっぱいを感じながら、自然環境のしくみや自然・生命の尊さを学ぶことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 訪問先は保健所からの依頼で開始するようなシステムになっている。しかし、地域からは、独居老人の居宅への訪問などの依頼もあった。今後、学生の安全面などを配慮しながら支援をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での活動には連絡調整や事前学習が重要であり、計画的に展開していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域と連携をとりながら、学生が主体的に活動できるような支援をする必要がある。

プロジェクト名：教育機関との連携

I. 小中高校等出前講義

1. 目的

小中高校生のための保健医療福祉に関する講義の依頼に応じる。

2. 事業内容

センターあるいは教員に小中高等学校から講師依頼があった場合、講師を調整し講義を実施した。

3. 事業実施状況

表9 平成28年度 小中高校等出前講義実施一覧

実施日	テーマ・内容	実施教員	場所
9月15日	バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座 ～誕生日ってなあに！～	嘉藤恵助教	奥出雲町立布勢小学校
11月17日	「心と性に関する講演会」 テーマ：「性について一緒に考えてみましょう」	狩野鈴子准教授	島根県立三刀屋高等学校
11月30日	地域医療に関する授業の講師	林健司助教	大田市立鳥井小学校
12月9日	テーマ：「命の大切さ、自分を大切に」	狩野鈴子准教授	出雲市立第二中学校
1月12日	バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座 ～誕生日ってなあに！～	嘉藤恵助教	出雲市立大津小学校
1月18日	バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座 ～誕生日ってなあに！～	嘉藤恵助教	出雲市立四絡小学校
1月19日	バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座 ～誕生日ってなあに！～	嘉藤恵助教	出雲市立北陽小学校
1月21日	バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座 ～誕生日ってなあに！～	嘉藤恵助教	出雲市立大社小学校
1月26日	バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座 ～誕生日ってなあに！～	嘉藤恵助教	出雲市立中部小学校
1月27日	バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座 ～誕生日ってなあに！～	嘉藤恵助教	雲南市立加茂中学校
1月28日	テーマ：「思春期のこころと体」	狩野鈴子准教授	松江市立八雲中学校
2月10日	進路学習「プロに聞く」	阿川啓子講師	出雲市立斐川東中学校
2月15日	親子のきずなはぐくみ事業 思春期健康づくりいのちの尊さ「性・生」の学習	嘉藤恵助教	出雲市立荘原小学校
2月17日	バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座 ～誕生日ってなあに！～	嘉藤恵助教	出雲市立塩冶小学校
2月21日	親子のきずなはぐくみ事業 思春期健康づくりいのちの尊さ「性・生」の学習	狩野鈴子准教授	出雲市立乙立小学校

4. 成果

今年度は、バースディプロジェクト「いのちの楽習出前講座」、「親子のきずなはぐくみ事業」、進路学習「プロに聞く」等15講義に講師を派遣した。

講義を受講した児童や生徒からは、多くの質問や感想がでており、講座に関する関心の高さが伺えた。



5. 課題

多くの教員が出前講座のテーマを設定しているが、今年度も助産領域に関するテーマのニーズが多くみられ、担当教員に偏りが生じた。しかし一方では、進路指導としての出前講座もあり、現代の看護の楽し

さを伝える機会もあった。今後は、小中高校生の健康維持に関する課題を捉え、出前講座を計画していくことも必要と考える。

Ⅱ. 小中学校体験学習

1. 目的

小中学生のための保健医療福祉に関する体験学習の依頼に応じる。

2. 事業内容

小中学校からの依頼に対し、学内教員で体験学習の内容を調整・計画・準備を行い実施する。

3. 事業実施状況

1) 日程：平成 28 年 6 月 29 日（木）

対象：松江市立美保関中学校 3 年生 41 名

内容：講義「地域医療の現状と課題・看護の仕事について」

技術体験；新生児の人形を使っておむつ交換や更衣、抱っこ等

2) 日程：平成 28 年 11 月 16 日（水）

対象：出雲市立高松小学校 5 年生 90 名

内容：①ブラインドウォークとてびき ②高齢者の眼の見え方と指先の動き ③車椅子体験

3) 日程：平成 29 年 1 月 17 日（火）

対象：出雲市立西野小学校 3 年生 118 名

内容：①ブラインドウォークとてびき ②高齢者の眼の見え方と指先の動き ③車椅子体験

4. 成果

今年度は、3 件の依頼に対し体験学習を実施した。児童にとって、体験したことを生活の中で役立てるという気持ちが高まっている。



5. 課題

体験学習には複数の教員配置が必要となる。また、依頼が秋学期に偏っていることもあり、本学教員とのスケジュール調整が困難な場合があった。多くの教員で体験学習をサポートできるよう、依頼先には時間的余裕をもって開催希望日をお知らせいただくよう周知を図る。

プロジェクト名：産公学連携

I. 包括協定締結自治体との連携

1. 目的

自治体、関係団体、企業との連携を図ることにより、地域社会のニーズや課題に対応する事業を協働で企画・実施する。

2. 事業内容

包括連携協定を締結している松江市・出雲市・浜田市・益田市及び隠岐の島町との連携協定に基づく具体的事業について、個別に協議しながら取り組みを展開する。自治体との協力について、具現化のために学内調査を行い、合意に至った事業から順次実施する。

3. 事業実施状況

- 1) 出雲市と協働で児童虐待防止推進研修事業を行った。
- 2) 出雲市と協働で佐香地区介護予防教室事業を行った。
- 3) 3月15日に、独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校と包括的連携に関する協定を締結した。

4. 成果

今年度、新たに松江工業高等専門学校と協定の締結を行った。これを機に、教育、研究、地域貢献、産学連携、国際交流、学生及び教職員の交流において更なる連携・協力が可能となった。

※出雲市との協働事業については、P.100～P.102 参照。

5. 課題

協定を締結した自治体・団体等と連携を深め、具体的な取組につながるよう協力していく。

II - 1. 受託研究

1. 目的

自治体、関係団体、企業等からの受託研究についての依頼に対し、調整し、実施につなげる。

2. 事業実施状況

平成28年度は、島根県商工労働部産業振興課が取り組む「平成28年度島根発ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業」に採択された8件の事業のうち、3件に出雲キャンパスが参加した。

注)「島根発ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業」:「健康」をキーワードに地域資源を活用して、中小企業やNPO法人等が主体となり行政、医療・福祉団体、教育機関等と連携した島根県ならではの先進的なビジネスモデルとなりうる取り組みについて、その事業の実証を島根県(商工労働部産業振興課)が事業者へ委託して行われる事業。

1) 事業区分

(1) 広域型（複数市町村にまたがる取り組み）

代表事業者	参加団体	参加教員	事業名称
特定非営利活動法人 ふるさとつなぎ	<ul style="list-style-type: none"> 島根県立大学ヘルスツーリズム研究会 株式会社バイタルリード（トラベルクリエイト） 	山下 一也 石橋 照子 松本亥智江 小田美紀子 藤田小矢香 川瀬 淑子 林 健司 梶谷麻由子 松谷ひろみ	《島根県立大学発》多様なニーズに対応したヘルスケアプログラム構築・事業

(2) 地域型（単一市町村での取り組み・医学的検証を含む）

代表事業者	参加団体	参加教員	事業名称
合同会社 三和コミッション	<ul style="list-style-type: none"> 島根大学 島根県立大学 社会医療法人仁寿会 株式会社プロビズモ 	山下 一也	Web 会議システムによるエゴマ油を使用した地中海式和食遠隔料理教室の構築
株式会社 しちだ教育研究所	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社山陰中央新報社 島根えごま振興会 島根大学 島根県立大学 	山下 一也 伊藤 智子 加藤 真紀	コミュニティ形成支援『脳プレ+』プログラム開発検証事業

Ⅱ-2. 受託事業：出雲市 佐香地区介護予防教室事業（あじさいの会）

1. 目的

出雲市と島根県立大学出雲キャンパスの協働により、佐香地区の一般健常高齢者を対象とした回想法による認知症予防プログラムを軸にした介護予防教室を実施し、認知機能の維持改善、事業実施後の継続した取り組みへつなげること、そして活動を通して地域での活動に関わる人材の育成、地域のネットワークづくりを図ることである。

2. 事業内容

- 1) 期間 : 平成 28 年 5 月 23 日～平成 29 年 3 月 31 日
- 2) 事業受託料 : 653,400 円
- 3) 関連機関 : 出雲市医療介護連携課介護予防係、平田支所市民福祉課、佐香コミュニティセンター、平田高齢者あんしん支援センター、健康づくり推進委員
- 4) 出雲キャンパス事業担当者 : 4 名

山下一也、平松喜美子、小村智子、工藤祐司

3. 事業実施状況 (★詳細については、平成 28 年度「あじさいの会報告書」参照)



- 1) 参加者：21 名 延べ出席者は 302 名でありそのうち 80 歳代が 53%であった。
- 2) 介護予防教室：15 回開催した。10 月は台風のため中止とした。ストレッチ体操としてオロリン体操を行い、テーマを設定した「グループ回想法」と「ミニ講和+運動と脳トレ」を交互に月 2 回のペースで実施した。12 月からは教室終了時に唱歌を合唱した。

4. 成果

高血圧の人が多い地域であったが、今回参加者の 55%の方が血圧が低下した。また社会交流の変化では「社会の関心」「身近な社会参加」が強化された。うつ状態は 1 名に改善がみられた。長谷川式認知症機能評価は教室実施前後の変化はみられなかった。

5. 課題

参加者からの教室継続の希望が多く、次年度も内容を変更し教室を継続する運びとなった。しかし、交通が不便な地域であり後期高齢者が参加するためには会場までの交通手段の確保が問題である。継続するためには住民の共助・互助の意識が必要である。

II-3. 受託事業：出雲市 児童虐待防止推進研修事業

1. 目的

年々深刻化する児童虐待の現状を市民一人一人が理解し、適切に対応できる力量を高めること、また、児童虐待が複雑、多様化する中で当事者を支援する地域の支援ネットワークづくりの強化が必要とされている。今年度は、日常の親子関係のあり方や虐待を予防する日常の子育て支援について理解を深め、また、保健医療福祉のネットワークづくりの強化に向け、関係者の行動につながる研修会とする。

2. 事業内容

出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市子ども政策課）と出雲キャンパス（スタッフ 6 名）協働による、3 回の児童虐待防止と対応講座の企画・実施を行う。会場は、島根県立大学出雲キャンパスの大講義室および出雲市役所くにびき大ホールを利用した。

（事業受託料：400,000 円）

3. 事業実施状況

【プログラム概要と参加者数】

第1回 日時：平成28年6月19日（日） 13:20～16:30 ○参加者数：141名

テーマ：「居所不明児童の存在とその現状を知る」

講師：石川 結貴氏（作家/ジャーナリスト）

第2回 日時：平成28年8月21日（日） 13:20～16:30 ○参加者数：106名

テーマ：「妊娠前からの切れ目のない支援のために」

パネラー：皆本 敏子氏（島根大学医学部産婦人科医）

古屋 智英氏（島根大学医学部精神科医）

長谷川 有紀氏（島根大学医学部小児科医）

祝部 成子氏（島根県立出雲高等学校養護教諭）

第3回 日時：平成28年10月15日（土） 13:20～16:30 ○参加者数：131名

テーマ：「子ども虐待防止のために一人ひとり取り組む支援を考える」

講師：西澤 哲氏（山梨県立大学人間福祉学部 教授）

4. 成果

事業は6年目を迎えた。継続して実施していくなかで、繰り返し受講する参加者に加え新たな参加者もあり、市民に対し児童虐待予防を啓発する貴重な機会になっていると感じる。今年度からスタッフとして児童相談所所長も加わり、充実した研修会を企画できた。また、地域のネットワークづくりをテーマとするパネルディスカッションに、地元医療機関の医師をパネラーとして招いたことで、医療関係者の参加が多数あり、参加者の層の拡大につながった。

5. 課題

講座は、一般市民対象の講座、専門職対象の講座、ネットワーク作りをテーマとする講座で構成している。今後も、児童虐待に関して注目されている話題や専門的知識を深められる内容など、講師の選定や企画を吟味し、市民の児童虐待防止の意識が高まるとともに、専門職のスキル向上に寄与できる研修会の企画・運営を考えていく。

◆詳細については、「平成28年度児童虐待防止推進研修事業報告書第6巻」参照

Ⅲ. NPO法人・関係団体・企業との連携：出雲産業フェア2016への出展

1. 目的

NPO法人・関係団体・企業との連携を図る。

2. 事業内容

NPO法人21世紀出雲産業支援センター主催の「出雲産業フェア2016」に出展した。

3. 事業実施状況

1) 日時：平成28年11月5日（土）・6日（日） 10:00～16:00

2) 場所：出雲ドーム（出雲市矢野町999）

3) 参加者：5日（土）教員3名、学生8名、6日（日）教員3名、学生9名

- 4) 展示内容：「島根県立大学看護学部 しまね看護交流センター」として2ブース使用
- 島根県立大学紹介 大学案内フォト展示、大学のぼり、交流センター紹介ポスター
 - 地域貢献活動 小学校体験学習、公開講座、事業フォト展示
 - 本学の教育の紹介 看護物品の展示、実演、体験（赤ちゃんのモデル人形、一次救命・AED、採血モデル）
 - 研究 研究成果ポスター展示：阿川啓子、岡安誠子、平井由佳
藤田小矢香、松谷ひろみ
エゴマ化粧品展示：山下一也
オロリン体操映像放映：石橋鮎美
 - 学生の活動 各種イベント・サークル活動・ボランティア活動フォト展示
 - 子供のナース服の試着
 - 配布 大学オリジナルクッキー、広報誌オロリン、大学案内（大学入学生募集要項）、しまね看護交流センター・認定看護師教育課程リーフレット、ぎんざんテレビ冊子・DVD

4. 成果

- 1) 一次救命・AEDの体験、子どものナース服の試着が好評で、子どもの記念写真を撮る等親子共に喜んでもらえた。また、来場した卒業生の保護者から、「子どもの学生生活が理解できて嬉しかった」との感想をいただいた。
- 2) 本学を受験希望の高校生やオープンキャンパスに参加できなかった学生の来場が複数あり、運営に協力した在学生を通じて、進学を目指す高校生へ、キャンパスライフについて伝える機会になった。
- 3) フェアのイベント「あなたが選ぶNo.1ブース選挙」の「学校、行政・公的機関部門」において優秀賞を受賞した。副賞賞金を日本赤十字社を通じ、平成28年鳥取県中部地震の義援金として寄付した。

5. 課題

運営にあたり学生の協力を得ることで、来場者に大学の教育・研究を身近なものとして紹介することができた。協力する学生の確保が困難であったが、参加した学生からはよい体験となったという意見を聞くことができた。今後も効果的に大学の取り組みを紹介できる企画や学生が参加しやすい企画を検討していく。

IV. 各種審議会・委員会等への参加

1. 目的・事業内容

教職員が各種審議会・委員等の委員活動を通して地域に貢献する。

2. 事業実施状

平成28年度は57件の各種審議会、委員会へ所属し、活動を行った。

表 10 平成 28 年度に教員が参加した審議会・委員会

依頼元	名 称
文部科学省初等中等教育局	教科用図書検定調査審議会専門委員
国土交通省中国地方整備局	斐伊川水系河川整備アドバイザー会議委員
島根大学医学部	医の倫理委員会委員
	島根大学医学部等臨床研究利益相反マネジメント委員会委員
島根県環境生活部	島根県人権施策推進協議会委員
島根県健康福祉部	島根県障がい者自立支援協議会発達障害者支援部会委員
	島根県自死総合対策連絡協議会委員
	島根県障がい者自立支援協議会 退院支援部会委員
	島根県准看護師試験委員
	島根県福祉サービス第三者評価推進委員会委員
	介護職員の行う医療的ケア関係業務に関する検討委員会委員
	島根県緩和ケア総合推進委員会委員
	島根県社会福祉審議会委員
	島根県がん対策推進協議会委員
	島根県看護教員継続研修検討会委員
	出雲圏域健康長寿しまね推進会議委員
島根県商工労働部	島根県ヘルスケア産業推進協議会委員
島根県土木部	島根県河川整備計画検討委員会委員
	島根県建築審査会委員
	島根県都市計画審議会委員
	島根県営住宅（仮称）松江市大輪団地）高齢者支援施設設置委員会委員
	島根県営住宅浜田中央団地（仮称）福祉施設運営事業者選定委員会委員
	島根県水防協議会委員
島根県出雲県土整備事務所	出雲地区新型インフルエンザ等対策推進会議構成員
島根県企業局	島根県企業局経営計画評価委員会委員
島根県立中央病院	島根県立中央病院地域医療支援病院運営委員会委員
	島根県立中央病院臨床研究・治験審査委員会委員
島根県教育委員会	島根県立松江南高等学校学校評議員
島根県立青少年の家	島根県立青少年の家運営委員会委員
出雲市子ども未来部	出雲市子ども・子育て会議委員
出雲市市民文化部	出雲市男女共同参画推進委員会委員
出雲市経済環境部	出雲市環境審議会委員
出雲市都市建設部	出雲市建築審査会委員
出雲市教育委員会	出雲市特別支援教育推進委員会委員
大田市健康福祉部	大田市地域福祉計画策定委員

大田市健康福祉部	大田市障がい者自立支援協議会委員
雲南市健康福祉部	雲南市健康づくり推進協議会委員
(公社) 島根県看護協会	島根県看護協会 緩和ケア推進委員会委員
	助産師出向支援事業協議会委員
	島根県看護協会 教育事業委員会委員
	島根県看護協会 学会委員会委員
	島根県看護協会 看護師職能委員会 I 委員
	島根県看護協会 看護師職能委員会 II 委員
	島根県看護協会 保健師職能委員会委員
(公社) 鳥取県看護協会	鳥取県看護協会 看護研究学会委員会委員
(公社) 島根県看護協会出雲支部	島根県看護協会 出雲支部役員
日本産業看護学会	日本産業看護学会産業看護学体系化検討委員会中国地方ワーキンググループリーダー
(一社) 川本 6 次産業化ネットワーク	一般社団法人川本 6 次産業化ネットワーク理事
(公財) 島根県環境保健公社	健診データ活用委員会委員
(公財) ヘルスサイエンスセンター 島根	がん対策募金審査委員会委員
(一財) 島根県建築住宅センター	一般財団法人島根県建築住宅センター評議員会委員
(学) リハビリテーションカレッジ 島根	リハビリテーションカレッジ島根あり方検討委員会委員
島根県住宅供給公社	島根県住宅供給公社理事
島根県土地開発公社	島根県土地開発公社役員
島根県土地開発公社/島根県住宅供給公社	両公社職員採用試験委員
邑智郡食事栄養支援協議会	邑智郡食事栄養支援協議会役員(顧問)
(株) 海産物のきむらや	技術顧問

プロジェクト名：広報・広聴活動

I. ホームページ等を活用した最新情報発信

【ホームページによる情報発信】

1. 目的

しまね看護交流センター事業の全体を把握し、情報発信の方針に基づきタイムリーに情報の精選と発信を行う。

2. 事業内容

地域連携推進部の事業内容について適宜ホームページにアップするよう、各事業担当者に働きかける。

3. 成果

情報を速やかに、わかりやすく発信するためにフローチャートを作成し、周知した。各事業担当者が、事業実施内容についてタイムリーに情報発信するように心がけ、年間を通じてセンターの取り組みについて広く紹介することができた。

4. 課題

事業実施後の情報発信がタイムリーに行えないときがあったため、今後も定期的に事業担当者に成果報告についての情報発信を促していくことが課題である。

【ラジオ番組による情報発信】

1. 目的

島根県立大学出雲キャンパスの教員、学生達が、FMラジオを通じて、等身大の話題や「看護学部」としての活動、研究内容等の情報を広く届けることにより、地域住民の方々に出雲キャンパスをより理解していただく機会とする。さらに、学生が「社会に向けて発信する」ことの楽しさ、難しさを学ぶことにより、人材育成を図る。ラジオによる継続的な情報発信を実施している大学は、大手の大学に限定されている状況であり、今後も大学の広報活動の一環として関わっていく予定である。

2. 事業内容

出雲キャンパスの山下研究室において収録し、「FMいずも」(80.1MHz)で週1回、放送している。毎回、山下一也副学長と1～3名の学生が出演し、様々なテーマを取り上げ、学生の視点でメッセージを発信している。テーマは、時事問題から若者が日ごろ考えている世の中の悩みや疑問まで幅広く扱っている。

3. 事業実施状況

番組名：I Z UキャンLife (毎週金曜日 20:30～21:00 放送)

4. 成果

4月から1月まで、女子学生34名、男子学生1名に、学年も1年から4年、別科学生にも登場していただいた。今年度については、学生生活、異文化理解研修など多岐にわたり、大学祭の宣伝のために自治会にも出演してもらった。リスナーからも時々肯定的なご意見をいただいた。

5. 課題

定期試験期間中などは学生に登場していただくことが難しく、確保が課題である。今後、本番組を通じてさらに本学の広報ができたらと思う。

II. キャンパスモニター会議

1. 目的

地域近隣の出雲キャンパスモニターの方々へ、本キャンパスの運営や事業、地域貢献活動について説明し、理解を深めていただくと同時に、出された意見を本学の今後の活動に反映させることを目的とする。

2. 事業内容

本キャンパスの教育内容及び入試、就職・進学、国家試験状況に関する説明、並びに年間行事、地域貢献活動の説明、本学に関する意見交換、モニターへの委嘱状交付。

3. 事業実施状況

1) 第1回キャンパスモニター会議

(1)日時：平成28年6月15日(水) 13:10~14:40

(2)場所：島根県立大学出雲キャンパス 217 講義室

(3)参加者：キャンパスモニター6名、副学長、しまね看護交流センター長

看護学部長、別科長、地域連携推進委員会委員、事務室長、管理課長
教務学生課長(合計23名)

2) 第2回キャンパスモニター会議

(1)日時：平成29年2月21日(火) 10:30~12:00

(2)場所：島根県立大学出雲キャンパス 217 講義室

(3)参加者：キャンパスモニター4名、副学長、しまね看護交流センター長

看護学部長、別科長、地域連携推進委員会委員、事務室長、管理課長
教務学生課長(合計16名)

4. 成果

今年度から地域近隣の方にモニターの対象を絞った。意見交換会ではモニターの方々から、学生の教育環境や卒業後の地域の受け入れ体制、臨地実習に関する質問があり、本学に関心を持って参加していただいた。本学の公開講座やモニターの果たす役割等について活発な意見交換が行われ、貴重な意見をいただいた。

5. 課題

会議後は公開講座などの大学行事の参加があり、メール等で意見をいただいた。今後も意見や感想をいただき、さらに地域に開かれた大学を目指していく。



Ⅲ. 第6回島根県立大学出雲キャンパス タウンミーティング in 邑南町

1. 目的

邑南町と、教育機関との連携の取り組みと大学が果たす役割について住民の人々と意見交換を行う。大学は出された意見を今後の大学運営に反映する。

2. 事業内容

第一部は話題提供として邑南町役場定住促進課主任 湯浅康平氏より「教育機関との連携について」という題で話され、大学側からは「地域に貢献するこれからの看護教育」として梶谷看護学部長より、「地域とつながる学習を通して」として大島萌々果さん（3年）・八田紗希さん（3年）より話題提供をした。

第二部はコメンテーターとして国立社会保障・人口問題研究所所長森田朗氏を交え、参加者それぞれの立場から、地域医療を担う人材育成や地域と大学の連携のありかたについて意見交換が行われた。

3. 事業実施状況

- 1) 日時：平成28年9月10日（土） 13:30～16:00
- 2) 場所：田所公民館
- 3) 参加者：96名（邑南町民、保健・医療・福祉・行政・教育関係者22名、高校生、山下副学長、梶谷学部長、吉川しまね看護交流センター長、加納アドミッション委員会委員長、松村事務室長、地域連携推進委員7名、看護学部生5名）

4. 成果

意見交換では高校生から「県立大学が地域を大切にしておられることを知り、興味がわいた。看護師志望だが、いずれは地元で働きたいという思いが強まった」などの意見が出された。アンケート結果では「大変よかった」「よかった」の肯定的な評価が90%以上であった。



自由記載では「これからも邑南町と県立大学出雲キャンパスとの関わりが持てたらと思う。」「今後は地域をあげていろいろな所が連携をとりながら地元を守っていく必要があることを痛感した。」などの感想があった。

5. 課題

本大学との連携への要望もあり、今後地域とどう継続した関わりを構築していくか考える必要がある。アンケートにおいてタウンミーティングの目的が不明といった意見もみられたため、今後は地域の特性にあったテーマの検討や、地域の方が自主的に参加し、議論ができるような内容を検討していく必要がある。

IV. シニア・ジュニアキャンパスツアー

1. 目的

ツアーをとおしてキャンパスの広報活動を行うとともにシニア・ジュニアの健康学習の場とする。

2. 事業内容

看護職および出雲キャンパスの概要説明、施設見学を行い、本学の理解を深める。

3. 事業実施状況

【シニアキャンパスツアー】

実施依頼はなかった。

【ジュニアキャンパスツアー】

- 1) 日時：平成 28 年 6 月 29 日（水） 11:00～14:00
- 2) 場所：島根県立大学出雲キャンパス内
- 3) 参加者：出雲市立北陽小学校 2 年生 56 名、引率者 7 名、地域連携推進委員担当者
- 4) 実施内容：小学 2 年生の学習「まち探検」の一環で来学。看護職および出雲キャンパスの概要説明、施設見学（実習室・図書館・学生食堂）。

4. 成果

「将来の夢がありますか。どんな仕事がしたいですか。」などの質問や、実習室や図書館、食堂、大学生の授業風景を熱心に見学し、積極的に参加された。参加者からは、「大学でどんな勉強をしているのかわかった。」「いろいろな施設が見学できてよかった。」等の感想があり、本学への理解を深めていただく機会となった。



5. 課題

ジュニア・シニアキャンパスツアーの応募は1件のみであった。今後、多くの方に本キャンパスについて知っていただき、あるいは健康学習や社会学習として活用していただくためにも、ホームページ等の広報活動で広くPRしていく必要がある。

《松江キャンパス》

**平成 28 年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿**

(任期：平成 28. 4. 1～平成 29. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	山下 由紀恵	・しまね地域共生センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
准教授	籠橋 有紀子	地域連携推進委員会委員（研究連携協議会・COC 研究紀要発行を含む地域志向研究の推進）
准教授	飯塚 由美	地域連携推進委員会委員（公開講座・学生ボランティアの推進）
講師	渡部 周子	地域連携推進委員会委員（教育連携協議会・連携協定機関を含む教育機関、並びにその他高大連携及び地域志向教育の推進）
地域連携課長	的場 好信	事務局委員
主事	錦織 彩	事務局委員
嘱託員	藤原 香緒里	事務局委員
ソーシャルラーニング・ コーディネーター	赤名 文	事務局委員 (学生ボランティア推進担当)
コーディネーター	小倉 佳代子	しまね地域共生センター コーディネーター
嘱託員	鳴尾 朋子	しまね地域共生センター事務局委員
嘱託員	藤本 茉穂	しまね地域共生センター事務局委員

平成28年度 松江キャンパスの地域連携活動概要

平成 28 年度の松江キャンパス地域連携推進センターでは、(1) 地域自治体との共同研究を含む地域志向研究事業、(2) 新たな「社会人の学び」体制構築に向けた「履修証明プログラム」開設および公開講座推進、(3) 学生地域ボランティア活動を含む地域教育連携事業の 3 つを軸に活動した。正課授業・卒業プロジェクト・サークル活動を通して、あるいは学科、グループ・個人の単位でも、活発な地域貢献活動が行われた。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の推進にむけて、キャンパス・プラットフォームとして設置された「しまね地域共生センター」により、地域連携活動の窓口の一本化をはかり、地域志向の研究と教育活動の推進につとめた。以下の目次に従って、松江キャンパスの地域貢献活動をまとめることにする。

1. 地域に関する教育・研究活動
2. 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催
3. 地域活性化支援
4. 教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携
5. 教育課程のための地域の施設・機関との連携
6. 学生による地域貢献活動
7. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

平成 28 年度の特筆すべき活動は、「しまね地域共生センター」による「履修証明プログラム」の体制構築であった。本学では、地域志向の研究や授業の進展に伴い、地域で学ぶ姿勢が学科を越えて浸透しつつある。これらの地域志向教育と研究の成果を基盤として、地域社会人向けの 120 時間以上の「履修証明プログラム」コースを 8 コース開設するよう、3 学科で取り組んだ。20 年以上続く公開講座「椿の道アカデミー」、ならびに科目等履修生制度とあわせて、本学が地域社会人の新たな学びの拠り所となるよう、平成 29 年度事業完成年度を目指して鋭意構築を推進している。

学生サークルの自主活動にも、大きな進展があった。本学のボランティアサークル「volcano (火山)」をはじめとして、学生と地域の連携による学生ボランティアの発展が見られた。また、大学間連携を進めるサークル「学生交流ネットワーク」は、松江市観光振興公社と連携して堀川の活性化を目指す「みんなの堀川委員会」を立ち上げるなど、地域と密接に関わりつつ貢献している。ほかにもさまざまな地域連携事業で活躍する学生の姿があり、これらの学生活動を支えた教職員の真摯な地域貢献の姿勢も、学生の活動とあわせて特筆すべきと考える。

今後とも、「地域をキャンパスに」「キャンパスを地域に」の精神を念頭に置き、地域のニーズにこたえる地域貢献活動を継続していきたい。

しまね地域共生センター センター長 山下 由紀恵

1) 地域に関する教育・研究活動

(1) 地域志向科目の位置づけ

平成 28 年度授業計画書には以下の授業を「地（知）の拠点整備事業における地域に関する学修を行う授業科目一覧」と位置付け授業計画書に掲載し、地域志向教育の推進を図った。前期末・後期末に、FDセンターの授業評価とあわせて学生に授業アンケートを行い、実際に学修した地域の範囲と、今後希望する地域について意見をもとめた。ほぼ山陰地域を網羅した本学の地域志向教育の状況が浮かび上がっている。

平成 28 年度「地（知）の拠点整備事業」における地域に関する学修を行う授業科目一覧

健康栄養学科

分野区分		科目名
専門科目	専門基礎	栄養士スキルⅠ
		栄養士スキルⅡ
	食品と衛生	食品機能論
	地域と食生活	地域の特性と食材利用
	卒業研究	卒業研究

保育学科

分野区分		科目名
専門科目	福祉・保育	地域福祉論
		社会的養護
		障害児保育Ⅰ
		障害児保育Ⅱ
	卒業研究	卒業研究

総合文化学科

分野区分		科目名
共通専門科目	世界を知る	アジア文化交流
		アジア文化演習 A
		アジア文化演習 B
	山陰を知る	小泉八雲入門
		へるん探求
		へるん作品鑑賞
		島根の祭りと芸能
		山陰の民話とわらべ歌
		出雲古代史
		卒業プロジェクト
	基幹科目	卒業プロジェクト
文化資源学系	地域を「知る」「考える」	地域文化研究
		地域探検学
		ミュージアム論
		しまねツーリズム論
		住生活学
		観光資源学

総合文化学科

分野区分	科目名	分野区分
文化資源学系	地域を「歩く」「書く」	文化情報誌制作
		歴史的建造物の検証
		地域デザイン論
		観光まちづくり学
英語文化系	英語とコミュニケーション	文化とガイド
	英語コミュニケーションの実践	観光フィールド・トリップ
日本語文化系	日本のことばと文学	日本古典文学入門
		日本古典文学を歩く
		社会言語学
	日本の文化と歴史	松江の文化と歴史
		しまね歴史探訪

(2) 『しまね地域共生センター紀要』刊行

平成 25 年度の研究協議会での発表を掲載した創刊準備 0 号、平成 26 年度 Vol. 1 につづいて、平成 28 年 9 月に「しまね地域共生センター紀要」Vol. 3 を刊行した。本学教員の地域志向研究にあわせて、第 1 執筆者に一般の地域専門職が 2 名加わり、地域志向研究の発表のためのセンター機関紙としてさらに充実した。



(3) 『地域研究と教育』の作成

今年度も、本学の過去 5 年間の地域と共同した研究や地域とつながる授業の取り組みをセンターが取りまとめ、紹介した。巻末に、平成 24 年度からの 5 カ年間の本学の地域志向研究と教育のリストをまとめ、連携先の地域や団体を明示した。

(4) 研究連携協議会

平成 29 年 3 月 3 日に、しまね地域共育・共創助成金採択研究をはじめとして、平成 28 年度中にさまざまな学内研究費を獲得して実施された地域志向研究を発表した。このうち、3 件の発表において、共同研究を実施した学外者が発表に参加した。講評者として松江市観光協会観光文化プロデューサーの高橋一清氏、本田雄一学長を迎え、地域志向研究の継続と進展について講評を受けた。



今年度発表研究の発表者、研究題目は以下のとおりであった。

平成 28 年度 研究連携協議会（発表内容 | 発表者）

- 1 「島根県内農畜産物の機能性を活かした地域振興への取り組み」
健康栄養学科准教授 籠橋 有紀子
- 2 「加熱がカキ葉粉末のビタミンC含量に及ぼす影響」
健康栄養学科教授 赤浦 和之
- 3 「雲南市幼児期運動プログラムについて」
雲南市子ども政策局子ども政策課 藤原 洋子
保育学科教授 岸本 強
- 4 「島根県における障がい者アートの現状と展望」
島根県社会福祉協議会地域福祉部 佐々木 祐子
保育学科准教授 福井 一尊
- 5 「川本町における保育・教育の連携の取り組み」
川本小学校通級指導教室 大山 英子
川本町教育委員会教育課 坂根 尚美
保育学科教授 山下 由紀恵
- 6 「『出雲神話』の英訳研究」
総合文化学科教授 松浦 雄二
- 7 「島根県の民話資料の保存と整理－石見地方の民話・語り手について－」
総合文化学科 教授 岩田英作
島根大学名誉教授 田中瑩一

2) 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催

(1) 履修証明プログラム

拠点となるキャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」は、地域研究に関しては「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目指すことを掲げた大学憲章に合わせ、「健康・保育・文化・観光」の専門分野を活かした共同研究を推進している。平成25年度以降、その成果を活かした社会人向け「履修証明プログラム」の開発に着手していたが、平成28年度は、2年間のコースの開講が行われた。

健康栄養学科は、「ライフステージを通じた食育」「地域特産品と食品開発」の2つのコースを開発した。「ライフステージを通じた食育」は、栄養管理を実践してライフステージ別の栄養・食生活に関する課題や食育に関する施策について学び、管理栄養士・栄養士が専門職として食育を実践するための力を育成することを目的としている。「地域特産品と食品開発」は、食品学の基礎から食品加工の理論と実践、島根県内の特色ある農産品および加工食品について事例を交えながら学ぶことを通して、地域の資源とその活用についての理解を深めることを目的としている。

保育学科は、「障害児保育・相談支援体制」「地域子育て支援人材養成」の2つのコースを開発した。「障害児保育・相談支援体制」は、就学までの子どもの発達の違い・遅れについて、どのように理解し、どのように支援・指導すればよいのか、保育・教育現場で悩んでいる専門職のためのコースである。「地域子育て支援人材養成」は、乳幼児から小学生までの子どもにかかわる子育て支援の理論や実践を中心に学び、地域の人材を活かした子育て支援や地域の子ども活動をリードしていくことができる人材を養成するコースである。



総合文化学科は、「地域で支える生涯学習・教育基盤」「地域文化資源の掘り起こし・評価・活用」「豊かな自然・歴史や文化を活用した観光」「地域情報の発信」の4つのコースを開発した。「地域で支える生涯学習・教育基盤」は、学校司書のための学校図書館基礎講座、および日本の古典・近現代文学、英文学等の解釈、子ども向けの読み聞かせ実践を通して、地域の教育基盤に関わる人材育成の講習を行う。「地域文化資源の掘り起こし・評価・活用」は、多様な文化の学習、子ども塾の活動を通して、地域のさまざまな文化資源をみつめなおし、それらを社会で活用、発信できる人材の育成をめざす。「豊かな自然・歴史や文化を活用した観光」は、地域の歴史、文化、観光に関する理解を深める学習や実地研修、ならびに英語による観光ガイドの実践を通して、新たにボランティア活動などを始めようとする人向けの講習を行う。「地域情報の発信」は、eラーニングを使った英語での伝統文化の表現方法の学習や、伝えるためのツールとしてのパソコンの実習、専門的なソフトを利用した「まち歩きマップ」の作成などを通して、地域情報発信に関わる人材向けの講習を行う。

これらの8つのコースは平成28年6月開講し、平成29年度まで2カ年間のスケジュールで公開中である。

(2) 公開講座の開催

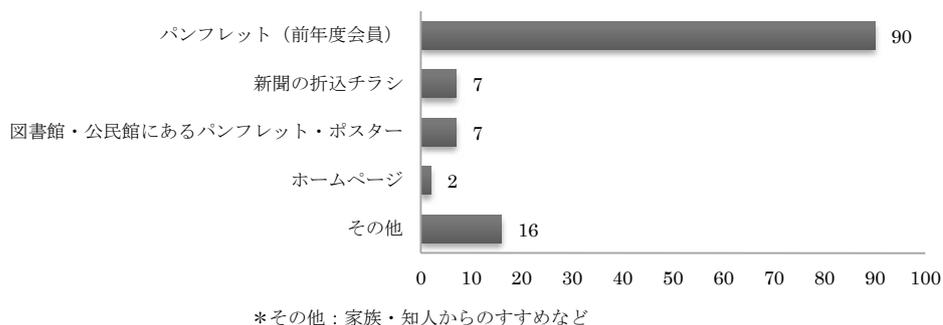
松江キャンパスでは、生涯教育、地域教育の拠点として公開講座を実施している。受講者は「椿の道アカデミー」会員に登録することで、



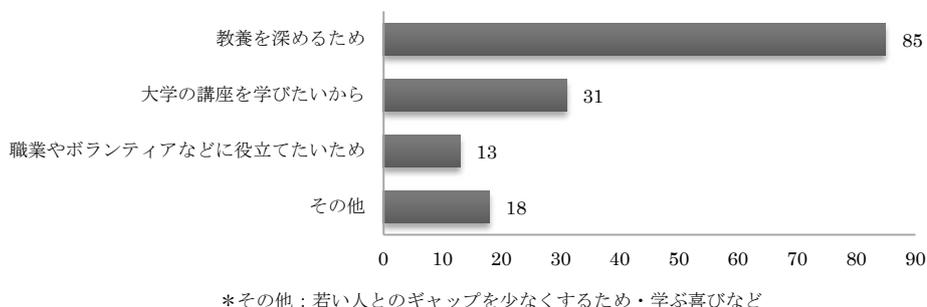
公開講座のほか松江キャンパス図書館の利用、学内公開授業等への参加が出来る。平成28年度は241名が会員登録をし、全13講座80回を開講した。延べ受講者数は1,622名で昨年度より増加した。(参照：平成28年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況)また、一部を履修証明プログラム連携講座として開講した。

また、今回受講者の多い講座を対象に申込み理由などに関するアンケートを行った。一部の結果については以下のとおりであった。

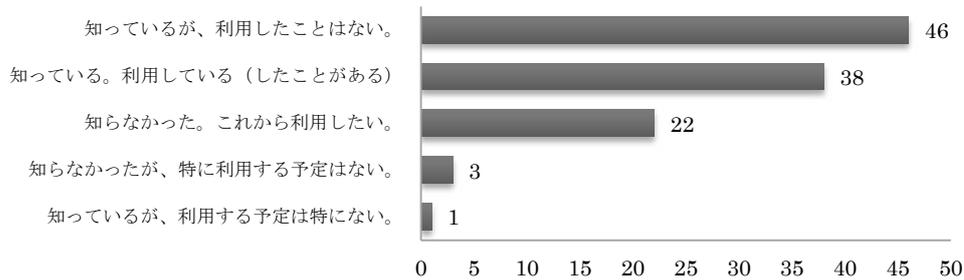
【受講者募集を知ったきっかけについて】(単位：人)



【椿の道アカデミーへの申込み理由について】(単位：人)



【松江キャンパスの図書館利用について】(単位：人)



この結果から、多くの受講者が「教養を深めたい」「大学の授業を学びたい」等という理由で公開講座を継続受講していることがわかる。しかし、松江キャンパス図書館の利用については、周知がまだ不十分であることと、知っていながら実際に利用していない受講者に対する会員サービスについて、今後検討工夫する必要があると思われる。

(3) 客員教授による講演会

平成28年度も各学科で客員教授による講演会を実施し、椿の道アカデミー会員や一般に公開した。各学科の客員教授講演会の概要は以下のとおりである。

①健康栄養学科

テーマ：「食と栄養に関する基本知識」「栄養ケアプロセス」

講師：京都府立大学生命環境学部教授、公益社団法人日本栄養士会常任理事学術研究事業部長 木戸康博氏

日時：平成28年11月5日（土） 参加者：約115名

②保育学科

テーマ：「保育における遊びとは何か？」

講師：東京学芸大学名誉教授、元日本保育学会会長 小川博久氏

日時：平成28年11月26日（土） 参加者：約170名

③総合文化学科

テーマⅠ「私の英語学習法」

講師：関西大学外国語学部教授 田尻悟郎氏

日時：平成28年6月24日（金） 参加者：約190名

テーマⅡ「景観の作法—殺風景の日本：松江に育って」

講師：日本大学生産工学部特任教授 布野修二氏

日時：平成28年10月19日（水） 参加者：約150名

3) 地域活性化支援

(1) 企業・団体・NPO法人等との連携

松江キャンパスでは、平成 28 年度も NPO 法人等、学外団体との協力を継続的に推進した。今年度は、健康栄養学科による食育推進での連携活動、島根県特産品の振興を図る取り組み、総合文化学科の「おはなしゼミ」による県内各地での読み聞かせ活動等、多彩な連携事業を実施した。

平成 28 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
食育の情報発信に関する研究	名和田 清子(健康栄養学科教授) 川谷 真由美(健康栄養学科助手)	平成 28 年 6 月～ 平成 29 年 3 月	松江キャンパス健康栄養学科教員及び学生 21 人が参加
第 42 回小児糖尿病大山サマーキャンプ	名和田 清子(健康栄養学科教授)	平成 28 年 8 月 7 日～ 14 日	松江キャンパス健康栄養学科 2 年生 6 名がボランティアとして参加
こっころ 10 周年記念フェスタ(島根県)	名和田 清子(健康栄養学科教授) 川谷 真由美(健康栄養学科助手)	平成 28 年 10 月 30 日	松江キャンパス健康栄養学科教員 2 名及び学生 9 名が参加。食育コーナー(食育ボードゲーム)出展及び着ぐるみボランティア
どすこいフェスタ(NHK 松江放送局)	名和田 清子(健康栄養学科教授) 川谷 真由美(健康栄養学科助手)	平成 29 年 2 月 12 日	松江キャンパス健康栄養学科教員 3 名及び学生 8 名、地域連携課 2 名、浜田キャンパス地域連携課 1 名参加。学生作成オリジナルちゃんこ 300 食を提供
小さなブランド化の可能性調査：棚田米を事例にして	酒元 誠治(健康栄養学科教授) 豊田 知世(浜田キャンパス総合政策学部講師)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 1 月	両キャンパスで開催された大学祭参加者から 522 名分のアンケートを回収。酒元・豊田両研究室の卒論生 20 名が参加。また、食事サービス論実習時に、坂本米の天日干し vs 非天日干しの食味テストを実施
上記関連「坂本米食味調査報告会」	酒元 誠治(健康栄養学科教授) 豊田 知世(浜田キャンパス総合政策学部講師)	平成 28 年 12 月 18 日	於：坂本構造改善センター(豊田研究室から学生が 13 名参加)
産学官連携企画ジビエガンボスープ試食会実施(まつえ農水商工連携推進協議会、松江市八雲猪肉生産組合、カレー工房ダーニャとの連携企画)	小泉 凡(総合文化学科教授) 籠橋有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 7 月 25 日	松江市長を訪問し、しまね三味ジビエ・ガンボスーププレット化を記念しての試食会実施。松浦正敬松江市長をはじめ松江市職員、その他報道関係機関など多数出席
産学官連携によるしまね三味ジビエ・ガンボスープの商品化	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 7 月 26 日～	産学官連携によるしまね三味ジビエ・ガンボスープの商品化・発売(7/26～小泉八雲記念館・カレー工房ダーニャ・11/7～島根県観光物産館{学校から生まれた商品フェア})まつえ農水商工連携推進協議会との連携
全国つや姫フォーラムへの参画	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 7 月 29 日	全国つや姫フォーラムでのシンポジスト 研究発表およびパネルディスカッション参加

平成 28 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
島根県農業技術センター 有機農業グループ	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	有機米の特性分析 健康栄養学科 2 年生 2 名参加
島根県農業協同組合石見銀山地区本部 共同研究	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 6 月～ 平成 29 年 3 月	「石見銀山和牛」の特性を生かす加工食品開発の研究 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 2 名参加
島根県畜産技術センター 受託研究	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 5 月～ 平成 29 年 3 月	新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価健康栄養学科卒業研究ゼミ生 2 名参加島根県畜産技術センターとの受託研究
島根県畜産技術センター ふれあいまつりへの参画	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 10 月 29 日	「しまね和牛肉」を活用したしまね三昧カレーの販売 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 5 名参加
松江市農林水産祭への参画	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 10 月 30 日	まつえ農水商工連携推進協議会との連携により、しまね三昧ジビエ・ガンボスープの販売・まつえ宝刀鍋の販売 健康栄養学科卒業研究生 6 名の参加
島根県産業技術センター 浜田技術センターとの共同研究	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	食肉の特性を生かした調理加工方法の検討 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 3 名参加
株式会社ローソンとの連携によるパンとスイーツの開発・発売 島根県産米粉を使用した「ぜんざい風デニッシュパン」および島根県産いちじくの「豆乳ホイップエクレア」	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 28 年 11 月	島根県産米粉を使用した「ぜんざい風デニッシュパン」および島根県産いちじくの「豆乳ホイップエクレア」を(株)ローソンと共同開発健康栄養学科卒業研究ゼミ生 9 名参加
株式会社ローソンとの連携によるパンとスイーツの島根県知事試食会	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 10 月 5 日	島根県産米粉を使用した「ぜんざい風デニッシュパン」および島根県産いちじくの「豆乳ホイップエクレア」を島根県知事試食会へ。健康栄養学科卒業研究ゼミ生 9 名参加株式会社ローソン上部執行役員、島根県職員、その他報道関係機関など多数出席
H28 年産米の食味ランキング (日本穀物検定協会主催) 出品材選定のための最終選抜審査会	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 12 月 12 日	H28 年産米の食味ランキング(日本穀物検定協会主催) 出品材選定のための最終選抜審査会への参加協力(島根県農業協同組合斐川地区本部)
島根県農産園芸課、島根県農業技術センター 受託研究	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 12 月 13 日	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性及びテクスチャーを中心とした官能評価試験 健康栄養学科 2 年生 3 名参加
COC+しまね大交流会への参画	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 12 月 14 日	しまね三昧食品科学研究所での食品開発について健康栄養学科卒業研究ゼミ生との研究発表 卒業研究ゼミ生 3 名参加
鳥獣対策研究を活用した食品開発	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 27 年 5 月～	卒業研究ゼミ生による鳥獣の機能性研究を実施、しまね三昧食品科学研究所での食品開発へつなげる健康栄養学科卒業研究ゼミ生(籠橋

平成 28 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
			研究室) 参加 まつえ農水商工連携推進協議会との連携
まつえ食まつり 2017 への参画	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 29 年 2 月 5 日	まつえ農水商工連携推進協議会との連携による「まつえ宝刀鍋」の作成・販売 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 3 名参加
安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携	藤原 映久(保育学科准教授)	平成 27 年 4 月～ 必要な期間	児童養護施設安来学園及び島根県中央児童相談所との協働の下、児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実践を行う。
「第 43 回ほいくまつり」開催	福井 一尊(保育学科准教授) 矢島 毅昌(保育学科准教授) 梶間 奈保(保育学科講師)	平成 28 年 6 月 25 日	島根県民会館と共催事業 参加学生：106 名 出雲市民会館にて「第 43 回ほいくまつり」を開催
松江市産業観光部観光施設課への協力	小泉 凡(総合文化学科教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	32 年ぶりの小泉八雲記念館増床・リニューアルに際し、同館館長として展示計画策定・展示解説執筆・図録の執筆および監修にあたる。また、8 月 3 日には本学と連携協定を結ぶ。
NPO 法人松江ツーリズム研究会への協力	小泉 凡(総合文化学科教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	同 NPO 法人が管理・運営する小泉八雲記念館の館長として、企画展「怪談—再話文学の永遠性—」の展示解説作成・監修、館長のトークショー(8 月 13 日)を行う。また、ミステリーツアー(9 月 10 日)の講師をつとめる。
焼津小泉八雲記念館(焼津市教育委員会)への協力	小泉 凡(総合文化学科教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	焼津小泉八雲記念館の名誉館長として、焼津ゴーストツアー(7 月 30 日)、講演会講師(7 月 31 日)、文芸作品コンクールへのメッセージ執筆、29 年度の 10 周年記念事業への助言等を行う。
「子ども塾—スーパーヘルンさん講座—」(松江市産業観光部観光文化課主管・子ども塾実行委員会主催)への参画	小泉 凡(総合文化学科教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	子どもの五感力を育む教育実践第 13 回「子ども塾」の塾長をつとめる。テーマは「ヘルンまちぶらマップを作ろう」。島根大学付属小学校の教員らと連携して実施。7 月 28 日、8 月 2 日、8 日に実施。
アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2017(松江市産業観光部国際観光課主管、アイリッシュ・フェスティバル実行委員会主催)への参画	小泉 凡(総合文化学科教授) 小倉 佳代子(コーディネーター)	平成 28 年 10 月～ 平成 29 年 3 月	3 月 12 日開催の同事業の実行委員長・委員として企画・運営にあたる。本学のティン・ホイッスル・サークル学生約 10 名もボランティアとして活動を支える。
JR 西日本「山陰みらいドラフト会議」	藤居 由香(総合文化学科准教授)	平成 28 年 4 月～11 月	実習科目「歴史的建造物の検証」受講者 11 名が参加

①健康栄養学科の地域活性化支援

健康栄養学科では、食育に関する情報発信や教育媒体等の開発、食文化の継承に係る研究等を積極的に行い、ライフステージを通じた食育に取り組んでいる。また、難病患者会

の活動支援や各種コンクール等への協力を行っている。さらに、島根県産品の振興を図る継続的な取り組みとして、松江市や島根県などの自治体と連携して共同開発および共同・受託研究を実施している。今年度は、松江市と連携して西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発、西条柿冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿の開発および西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発、しまね和牛や猪肉の機能性分析とその成果を活かした食品加工への提案、出西生姜などのコラボレーションによる食品開発を行った。また、今年度は、島根県産米「つや姫」や、有機栽培米「きぬむすめ」の分析を行い、品種や栽培方法の違いによる特性について検討した。

【食育の情報発信に関する研究】

島根県では、「若い世代への食育の推進」を重点課題として食育の取り組みを進めている。健康栄養学科の学生による“島短食レポ隊”が県内各地を取材し、「おいしい・たのしい・ためになる」食育体験を教員と学生が2年間にわたり島根県内10か所以上を巡り、情報発信した。シジミ漁師さんなど食に携わる人たちの取材や、味噌作り、ジャム作りなどを体験し、若者が伝えたい島根の食について記事にした。食を通して島根の魅力を再発見してくれることを目的として、今後もその効果を検証する。



【食育ボードゲームの開発】

食と健康に興味・関心を持つ子が増えるようにと、学生が願いと学びを込めて「食育ボードゲーム」(すごろく)を制作した。島根県を旅しながら、特産品を探していくストーリー。家庭用・学校用と2種類制作し、対象や用途に応じて使い分けできるようにした。実際に学校や家庭、イベントで子どもたちや家族で遊んでもらいながら効果を検証している。



【患者会への参加】

難病患者会の活動支援のため、健康栄養学科教員および学生がボランティアとして活動

した。今年度は、小児糖尿病患者会「第43回小児糖尿病大山サマーキャンプ（主催：日本糖尿病協会島根県支部「大山家族）」にて教員1名、学生6名（8月15日～8月20日）がボランティアとして参加した。

【「伝え継ぐ日本の家庭料理」島根県調査研究】

日本調理科学会活動の一環として伝え継ぐ日本の家庭料理を全国一斉に発信する取り組みを石田千津恵助教が行っている。島根県栄養士会、島根県食生活改善推進協議会と共に「食つくり」や島根県HP掲載のレシピを参考に、東部、西部、隠岐地域に分けて伝え継ぐべき家庭料理40品を選定した。今後現地で実際に調理、撮影を行い、出版物の完成を目指す。

【小さなブランド化の可能性調査】

浜田市旭町坂本地区は、地域の高齢化および人口減少が問題となっている。若い定住者を呼び込みたいが、新規の定住者が一定の収入を得るビジネスモデルを構築しないままでは、安定的な定住は望めないため、浜田キャンパスの豊田研究室と酒元誠治教授が共同で、浜田市旭町坂本地区で栽培される米の高付加価値化の可能性をさぐる研究を行った。



【西条ガキを使った商品開発】

西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発では、松江市東出雲町の柿農家と赤浦和之教授および学生3名が協力し、松江市商工企画課の支援も受けて秋鹿ごぼうと熟柿ピューレ入りレトルトカレー「美肌の国 キーマカレー」の商品名で商品化し、好評を博している。次年度も引き続き、地域の活性化の観点から、様々な軟らかさの西条ガキ干し柿の生産技術の開発と干し柿や熟柿ピューレを用いた加工食品の開発を行う。



▲熟柿ピューレを用いた「美肌の国キーマカレー」



【あんぽ柿の食味協力】

島根県農業技術センターからの依頼で、赤浦和之教授および教員1名、学生12名が協力

し、あんぼ柿の官能評価を行った。

【「しまね和牛肉」の食味研究と商品開発】

新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価について、籠橋有紀子准教授および学生 2 名が島根県畜産技術センターとの受託研究において協力し、官能試験および理化学分析を用いて「しまね和牛肉」の食味を科学的に評価し、データの提供を行った。

【鳥獣対策研究の一環としてのジビエ商品開発】

猪肉について、その加工方法の提案を籠橋有紀子准教授および学生 3 名が行った。松江市八雲産の猪肉の特性を活かしたガンボスープ(小泉八雲が愛したニューオリンズのソウルフード)を、籠橋有紀子准教授および学生 2 名で、小泉凡総合文化学科教授の協力のもと作成した。食の機能性と文化の融合による島根県立大学のオリジナリティあふれる調理加工品の提案となった。平成 28 年 7 月には島根大学教育学部附属小学校との連携により学校給食への展開が実現した。また、同時期にカレー工房ダーニヤとの連携でレトルト食品化を実現し、小泉八雲記念館や島根県観光物産館等で発売された。



【(株) ローソンとの産学官連携によるスイーツ&ベーカリー商品化】

コンビニエンスストアでの販売を前提として島根の農産物を使ってスイーツとベーカリーを考案した。籠橋有紀子准教授および籠橋研究室ゼミ生が卒業研究の一環で(株)ローソンへの発案・試作の依頼、連携して試作品を絞り込んだ。ぜんざい風デニッシュパン(島根県産米粉を使用)&豆乳ホイップエクレア(島根県産いちじくを使用)が平成 28 年 10 月に中四国全域のローソンで発売された。



【島根米の品質評価】

島根大学生物資源科学部と籠橋有紀子准教授および学生 2 名との連携により、有機農産物の中でも今年度より有機米に着目し、食味について官能評価、理化学分析を行い、試食

販売等にその成果を活用した。島根県農業技術センターにおいて栽培された有機米の官能評価および理化学分析も合わせて行った。また、島根県産米「つや姫」の科学分析では、温暖化により品質の低下している平坦地域の「コシヒカリ」に替わる米として、「つや姫」の普及拡大を目的に、島根県、島根県農業技術センターと共同で官能試験、理化学分析（電子顕微鏡で炊飯米断面の構造を観察、テンシプレッサーで炊飯米物性（粘りと硬さ）を機械的に測定）を行った。品種や栽培地域の違いによる品質特性について検討した。また、現代のライフスタイルに合った島根米活用方法の提案を行った。

【知的財産権の活用】

籠橋有紀子准教授は、平成 24 年度に糖尿病予防及び治療に寄与する 2 件の発明に対する特許を取得した。今年度は産学官の連携による糖尿病予防のための基礎研究および結果を活かした栄養価計算ソフトウェアを教育への展開を試みた。

②保育学科の地域活性化支援

【島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展】

福井一尊准教授が、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問として県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成 28 年 11 月 25 日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成 29 年 1 月 12 日から 16 日まで「第 12 回島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展」として展示・公開された。

【島根県障がい者アート作品展】

福井一尊准教授は、平成 28 年 11 月 30 日に社会福祉法人島根県社会福祉協議会主催の「平成 28 年度島根県障がい者アート作品展」において、審査委員長として絵画・書・写真・デザイン・工芸等作品の公開審査を行った。本展覧会は 12 月 2 日から 4 日まで島根県立美術館で開催された。

【NPO 法人あしづえとの連携】

平成 23 年度に山下由紀恵教授・森山秀俊教授・福井一尊准教授が、NPO 法人あしづえ・松江市健康福祉部子育て課との共同研究を通じて開発した「松江発一保育専門職のための『表現とコミュニケーション』ワークショップ・プログラム」の効果を土台として、本年度も保育学科の正課「児童文化」に NPO 法人あしづえによるワークショップを組み込み、一部連携した授業を実施した。

③総合文化学科の地域活性化支援

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークとの共催による「医療英語勉強会」（ラング・クリス准教授）の開催、英語絵本の読み聞かせ（小玉容子教授）、卒業プロジェクトおはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施（岩田英作教授）、NPO 松江ツーリズム研究会と連携した文化資源をツーリズムに生かす実践活動（小泉凡教授）、（一社）鉄の歴

史村地域文化研究所と連携した観光教育の実践および NPO 松江ツーリズム研究会の協力による松江興雲閣訪問客の実態調査など（工藤泰子准教授）、昨年引き続き、活発な活動が行われた。

【「キッズ・イングリッシュ」の英語絵本読み聞かせ活動】

平成 28 年度の「キッズ・イングリッシュ」（担当は小玉容子教授、ダスティン・キッド講師、総合文化学科 2 年前期）受講生 5 名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせ」を行った。5 月から 6 月にかけて、絵本や紙芝居の読み聞かせと歌や手遊びなどを組み合わせ、20 分程度の時間で計 3 回実施した。また、10 月には大学祭企画の一つとして、同様の内容で「読み聞かせ」を実施した。



▲キッズ・イングリッシュでの活動

学生たちは、出版されている絵本だけでなく、授業で作成した教材なども用いて、児童英語教育実践活動を行うことができた。子どもたちだけでなく保護者も一緒になったの活動となった。また、学生の実践力向上にとって貴重な体験となった。

【医療英語勉強会】

「医療英語勉強会」（担当はラング・クリス准教授）は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワークと連携し、平成 20 年 4 月から月に一度、金曜日の午後 2 時間ほど勉強会を実施している。勉強会参加者は、10 名程度である。勉強会では、実際の医療場面を想定したテキストの日本語から英語への翻訳学習を行い、診療科ごとの通訳会話役割練習を行う他、医療に関する研究報告をビデオで見てからディスカッションすることで、医療用語を身につけることを目的とした。

【ミステリー・ツアーの企画・実施】

昨年度に引き続き、山陰地方の文化資源をツーリズムに活用する実践としてミステリー・ツアーを企画・実施した。実施日は 9 月 10 日（土）で、訪問先は参加者に事前に明かさない。小泉凡教授が NPO 法人松江ツーリズム研究会旅行事業部と連携して企画・運営・当日の講師をつとめた。平成 28 年度は、「小泉八雲」をテーマとし、32 年ぶりにリニューアル・オープンした松江市の小泉八雲記念館での講演と見学、一畑薬師、同寺門前の商店での「八雲が愛したスペシャル御膳」の昼食、八雲が神在祭を見学した佐太神社などを訪問した。

【雲南市吉田町における観光教育の実践】

工藤泰子准教授は、平成 25 年度から（一社）鉄の歴史村地域文化研究所をはじめとする

吉田町の人々と連携した観光教育を実践している。「観光資源学」（総合文化学科 1 年後期選択科目）において、履修生 52 名が、たたら製鉄の歴史と文化を観光に活かすことをテーマに、鉄の歴史博物館、菅谷たたら山内、生活伝承館などを訪問した。

【松江城興雲閣訪問客の実態調査】

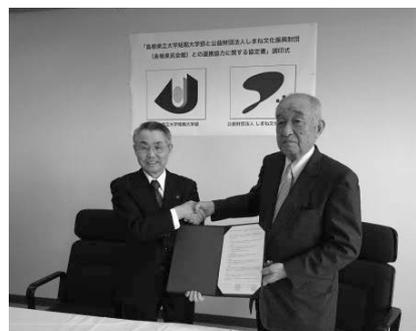
「観光まちづくり学」（総合文化学科 2 年後期選択科目、担当は工藤泰子准教授・竹田茉莉非常勤講師）の履修生 20 名と有志学生 1 名（計 21 名）は、NPO 法人松江ツーリズム研究会の協力のもと、松江城山興雲閣にて訪問客にヒアリング調査を実施した。10 月 9 日（土）、10 日（日）に 271 名を対象に調査した後、グループに分かれてデータの入力・分析を行い、12 月 20 日に報告会を実施した。調査結果は報告書にまとめ、関係機関に配布した。



▲興雲閣にて訪問客にアンケート調査

④連携協定

島根県における文化芸術・教育の発展に寄与することを目的に、公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）と連携協定を締結した。両者は、保育学科の総合表現活動「ほいくまつり」などを通し、これまで 40 数年にわたり学生の実践研修や乳幼児への芸術鑑賞の提供等を共同して行っている。



▲しまね文化振興財団との連携協定調印式

また、公益財団法人しまね産業振興財団、一般社団法人島根県発明協会との三者で、産業振興に関する包括的連携協力協定を締結した。

(2) 自治体等との連携

①松江市との教育連携協議会

松江キャンパスは、平成 19 年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、教育連携協議会の開催や「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成 29 年 2 月 7 日に松江市と教育連携協議会を開催し、実習協力や講師派遣について実務的な連携について協議した。

【平成 28 年度 松江市・島根県立大学短期大学部松江キャンパス教育連携協議会】

- 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室
- 日時 平成 29 年 2 月 7 日（火） 13 時 30 分～14 時 30 分
- 議事
 - 1 松江キャンパス新学部・学科の特色及び育成する人材像の概要
 - 2 松江キャンパス 4 大化に係る課題解決に向けた連携体制について
 - 3 実習（栄養士・保育士・幼稚園教諭）受け入れ協力について
 - 4 講師の相互派遣についての実績と計画
 - 5 松江市の諸団体との連携・協力状況について
- 出席者
松江市：政策部次長、政策企画課副主任（包括協定担当）、教育委員会次長、健康福祉部子育て課長、産業観光部次長、発達・教育相談支援センター特別支援教育係長
松江キャンパス：副学長、教務学生生活部長、健康栄養学科長、総合文化学科長、しまね地域共生センター長（保育学科長兼）、地域連携推進委員、事務室長、地域連携課長

②松江市主催文化教育行事への協力

【「第 13 回子ども塾—スーパーヘルンさん講座」への協力】

松江市観光文化課および「子ども塾実行委員会」主催による、子どもの五感力育成の教育実践である標記事業に、総合文化学科の小泉凡教授（塾長）、小倉佳代子コーディネーター（実行委員）が企画・運営・実施に協力した。実施日は、平成 28 年 7 月 28 日、8 月 4 日、8 月 8 日。会場はおもに小泉八雲記念館・カラコロ工房周辺。テーマは「へるんまちブラマップ」。



▲第 13 回子ども塾—スーパーヘルンさん講

【「小泉八雲 朗読の夕べ」への協力】

松江市観光文化課主催により平成 28 年 11 月 26 日にプラバホールで開催。テーマは「転生：絶望の淵から蘇る輪廻のしらべ」。総合文化学科の小泉凡教授が、佐野史郎氏・山本恭

司氏出演による上記イベントの企画、実施、脚本監修、パンフレット執筆、レクチャーを担当する。本学ティンホイッスル・サークル学生 5 名もボランティア・スタッフとして参加した。

なお、同行事は 11 月 26 日には、ホテル一畑で本学松苑会創立 70 周年の記念事業においても「望郷：失われることのない永遠の魂の故郷」のテーマで実施され、小泉凡教授が「八雲が見た神々の国」と題したレクチャーを行った。

【「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2017」への協力】

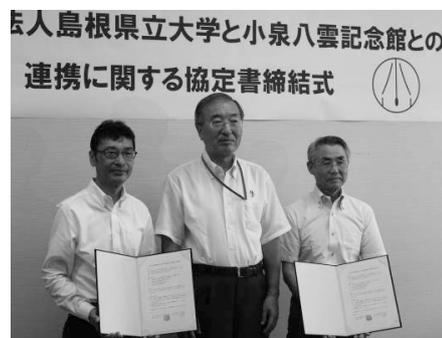
松江市国際観光課・山陰日本アイルランド協会・南殿町商店会・松江京店商店街協同組合等を実行委員会とするアイルランドと松江の文化交流・松江の文化振興および中心市街地活性化の目的で実施する行事で、平成 29 年 3 月 12 日に開催。総合文化学科の小泉凡教授が実行委員として、松江キャンパスのティンホイッスル・サークル、総合文化学科 1・2 年生約 10 名の学生がボランティア・スタッフとして参加した。

【「共創・協働マーケット」への参画】

松江をよくする提案を共有し事業につなげる場として、昨年につき、松江市主催「2016 松江共創・協働マーケット」が平成 28 年 7 月 3 日に開かれた。学外からは、大学への求めを知る機会となり、大学からは、しまね地域共生センターおよび学生ボランティア活動などの紹介を中心に、大学にできることの可能性を広報した。

③小泉八雲記念館との連携協定

教育・研究・広報等の分野における相互協力を目的に、小泉八雲記念館との連携協定を締結した。今後は小泉八雲に関する授業等での記念館の利用、企画展に伴うイベントへの協力等を行う。平成 28 年 8 月と 10 月には、学生が小泉八雲記念館で怪談の読み聞かせを行った。



▲小泉八雲記念館との連携協定調印式

④松江市立女子高等学校との連携

平成 28 年 10 月 31 日、松江市立女子高等学校 1 年生のキャリア教育推進に協力して、1 年生全員（120 名）のキャンパス見学と模擬授業、および卒業生交流会を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から渡部周子講師により「女学生文化を考える」というテーマで行われた。講義後は、松江市立女子高等学校出身の本学学生（5 名）との交流会を行った。

⑤正課授業における連携協力

【保育学科専門科目における学外の専門職現任者および経験者による講義】

保育学科専門科目「障害児保育 I」（1 年後期必修科目・1 単位）の非常勤講師として、

松江市立発達・教育相談支援センター所長の小脇洋講師、同指導主事の金山由美子講師、武藤裕子講師により、支援の必要な子どもの実態や松江市の取り組み・関係機関との連携等についての講義が行われた。保育学科専門科目「地域福祉論」（2年後期選択科目・2単位）の非常勤講師として、元松江市社会福祉協議会常務理事の須田敬一講師により、松江市における地域福祉の実践例を通じた講義が行われた。

【総合文化学科専門科目における学外の専門職現任者および経験者による講義】

「しまねツーリズム論」（文化資源学系2年後期選択科目・1単位）の学外講師として、松江市産業観光部観光文化課文化係長の高田俊哉氏が授業を担当した。また現地研修において、「地域探検学」（文化資源学系1年生前期選択科目・1単位）では奥出雲町地域振興課、「へるん探求」では鳥取県大山町教育委員会および日野町（景山町長）、「ミュージアム論」（文化資源学系1年生後期選択科目）では島根県立美術館と松江歴史館の全面的な協力を得て授業を実施した。

【松江市立施設・学校における実習協力】

健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立保育所、松江市立幼保園のぎ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている（実習欄に別掲）。

4）教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校・松江商業高校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、教育的成果をあげている。

(1) 連携校協議

平成28年7月8日に、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校と松江キャンパスの三者連携会議を松江キャンパスで行った。また、平成28年5月17日と平成29年2月20日に松江市立湖南中学校、島根県立松江商業高等学校、松江キャンパスの三者連携会議が松江市立湖南中学校で行われた。

また、まつえ湖南学園地域推進協議会の主催による、ふるさと研修会が平成28年8月23日に開催され、本学と松江商業高校も連携校として湖南地区の各学校ともに参加した。

平成 28 年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名	担当者	内容	期間	参加者他
松江市立乃木小学校	直良 博之（健康栄養学科教授） 川谷 真由美（健康栄養学科助手）	食育授業	平成 28 年 11 月 25 日	5 年生 172 名を対象 教員 2 名及び健康栄養学科 2 年生 5 名が参加
松江市立大谷小学校	福井 一尊（保育学科准教授）	文化庁「芸術家学校派遣事業」 松江市立大谷小学校 図画工作科特別講師	平成 28 年 10 月 11 日	全児童、全教員、隣接する大谷幼稚園の園児
松江市立湖南中学校	小泉 凡（総合文化学科教授）	総合的学習の時間「地域探検の魅力」	平成 28 年 6 月 2 日	湖南中 1 年生 175 名教員 4 名参加
松江市立乃木小学校		総合的学習の時間「小泉八雲について」	平成 28 年 10 月 26 日	乃木小学校 3 年生 35 名教員 1 名参加
松江市立幼保園のぎ	岡本 千佳子・岩田裕子（総合文化学科非常勤講師） 尾崎 智子・内田 絢子（司書）	3 学科共通科目「読み聞かせの実践」	平成 28 年 5 月～平成 29 年 1 月	健康栄養 3 名 保育 24 名 総文 48 名
松江市立乃木小学校		3 学科共通科目「読み聞かせの実践」	平成 28 年 5 月～平成 29 年 1 月	健康栄養 3 名 保育 24 名 総文 48 名
松江市立忌部小学校	マユー あき（総合文化学科教授） 岩田 英作（総合文化学科教授）	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」	平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月	総文 10 名
松江市立湖南中学校	高橋 純（総合文化学科教授）	発表の仕方について（総合的な学習）	平成 28 年 9 月 21 日	湖南中 1 年生 175 名教員 4 名参加
島根大学教育学部附属小学校	小泉 凡（総合文化学科教授） 籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	しまね三昧ジビエ・ガンボスープの学校給食への展開	平成 28 年 7 月 12 日	島根大学教育学部附属小学校全校生徒および教員参加 まつえ農水商工連携推進協議会職員参加

出張講座(高大連携) の状況

(大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合)

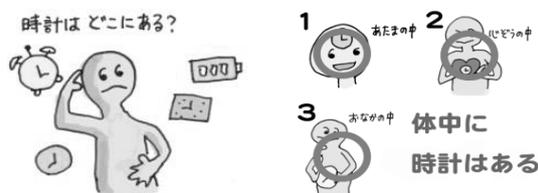
依頼先	担当者		講義テーマ	参加者数
島根県立松江北高等学校	名和田 清子 (健康栄養 学科教授)	平成 28 年 7 月 13 日	平成 28 年度 2 年普通科「グロー バル課題研究 領域別講演会「医 療・福祉・健康領域における現状 と課題」	47
島根県立松江北高等学校		平成 29 年 2 月 7 日	平成 28 年度 2 年普通科「グロー バル課題研究 領域別領域別成果 発表会」審査及び発表評価	5 グループ
松江市立女子高等学校	小泉 凡 (総 合文化学科 教授)	平成 28 年 5 月 27 日	国際文化観光科 1 年郷土学習講師 「五感でとらえた明治の松江～小 泉八雲の世界～」	30
学校法人大多和学園 開星高等学校	小泉 凡 (総 合文化学科 教授)	平成 28 年 12 月 19 日	生活教養 教科融合型授業 国 語・英語「小泉八雲～『開かれた 精神』の航跡を辿る～」	25

(2) 健康栄養学科の教育機関連携

【小学校での食育授業】

松江市立乃木小学校での食育授業は、湖南
中学校、乃木小学校との三者連携推進事業を
きっかけに今年度で 10 年目を迎えた。平成
28 年度には、乃木小学校の 5 年生 172 人を対
象に「朝ごはんの大切さ」について食育授業

を行った。直良博之教授、川谷真由美助手と学生 5 名が取り組み、生物リズムと食事につ
いて、朝ごはんを食べることの重要性を児童と一緒に考えながら実施した。



▲松江市立乃木小学校での食育授業

【島根大学教育学部附属小学校との連携】

籠橋有紀子准教授は小泉八雲が残した文献をもとに、しまね三昧ジビエガンボスープを作成し、まつえ農水商工連携推進協議会および島根大学教育学部附属小学校との連携により、学校給食への展開を行った。給食時間の前に総合文化学科の小泉凡教授による授業を行い、小泉八雲の世界観を学び、ガンボスープができるまでを籠橋有紀子准教授が話した。その後、全校生徒が給食でガンボスープを食べ、好評であった。



▲島根大学教育学部附属小学校での給食および授業の様子

(3) 保育学科の教育機関連携

保育学科の正課「児童文化」では、1年生と2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」の開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成28年度「第43回ほいくまつり」は、平成28年6月25日（土）に出雲市民会館で開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。



「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様に楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的に行われ、各パートの要望や意見が交流されるときともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うこととなります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんなで悩みながら進めていくこととなります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知ることができます。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



(4) 総合文化学科の教育機関連携

総合文化学科では、岩田英作教授・マユアキ教授とともに、「読み聞かせの実践」を履修する学生（全学科）、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生が、松江市乃木小学校、忌部小学校、幼保園のぎなどで、絵本の読み聞かせ活動を行った。（「7. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動」参照）

また、松江市立湖南中学校における総合的な学習の時間への協力事業として、総合文化学科の2名の教員が、専門分野や総合文化学科の担当授業の内容を生かして、昨年に引き続き協力授業を行った。小泉凡教授の授業は平成28年6月2日「地域探検の魅力」、高橋純教授の授業は9月21日「発表の仕方」であった。

5) 教育課程のための地域の施設・機関との連携

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っ

ている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

(1) 健康栄養学科の実習施設・機関との連携

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成 28 年度に実施した県内施設を下表に示した。実習終了後は、評価票の提出を求め、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付し連携を図った。また、実習先の管理栄養士を本学非常勤講師として招聘したり、学生を島根県栄養士会の研修会に参加させる等して連携強化を図っている。

平成 28 年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
島根	松江赤十字病院	2	9/12～9/16
		2	9/5～9/9
	松江市立病院	2	8/22～8/26
	独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター	2	9/5～9/9
	社会福祉法人 隠岐共生学園 介護老人保健施設 もちだの郷	1	8/22～8/26
		2	8/29～9/2
	松江市立北学校給食センター	2	9/12～9/16
	松江市立南学校給食センター	3	9/5～9/9
	松江市立八雲学校給食センター	1	9/5～9/9
	松江市立東出雲学校給食センター	1	9/12～9/16
	島根県立中央病院	3	8/29～9/2
	社会福祉法人 隠岐共生学園 特別養護老人ホーム 静和園	1	8/29～9/2
	出雲市立出雲学校給食センター	3	9/12～9/16
	出雲市立平田学校給食センター	3	9/5～9/9
益田赤十字病院	2	9/12～9/16	
鳥取	鳥取赤十字病院	1	8/22～8/26
	米子市立学校給食センター	3	9/5～9/9
広島	社会医療法人 社団 沼南会 沼隈病院	1	8/29～9/2
山口	山口大学教育学部附属光小学校	1	9/12～9/16
	山口大学教育学部附属山口小学校	1	9/26～9/30
	社会福祉法人 うちうみ会 養護老人ホーム 寿海苑	1	8/22～8/26

(2) 保育学科の実習施設・機関との連携

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第 1209001 号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成 28 年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立城東保育所、松江市立白潟保育所、しらとり保育所、しらゆり保育園、つわぶき保育園、つわぶきこども園、なかよし保育園、みどり保育所、愛恵保育園、ふたば古志原保育所、松江ナザレン保育園、松江保育所、松尾保育所、嵩見保育所、袖師保育所、虹の子保育園、法吉保育所、あおぞら保育園、ふたば第三保育所、なのはな保育園、錦新町保育園、わかたけ保育園、みのり黒田保育園、しらゆり千鳥保育園、みずうみ保育園	1 年前期・保育実習 I (保育所) 2 年前期・保育実習 II (保育所)
	島根県出雲市	出雲市立直江保育園、東部保育園、中部保育園、ハマナス保育園、神門保育園、荘原保育園、ひかり保育園、出東保育園、出西保育園、たちばな保育園、おおつか保育園、あすなる保育園、わにぶち保育所、出雲聖園マリア園、	
	島根県雲南市	雲南市立大東保育園、雲南市立かもめ保育園、雲南市立木次こども園、たちばら保育園	
	島根県安来市	安来市立安来保育所	
	島根県出雲町	阿井保育所	
	島根県大田市	大田市立温泉津保育所、サンチャイルド長久さわらび園、あゆみ保育園、相愛保育園	
	島根県益田市	神田保育園	
	島根県隠岐の島町	隠岐の島町立原田認定こども園、隠岐の島町立ごか保育園、隠岐共生学園第二保育所	
	鳥取県米子市	米子市立小鳩保育園、福米保育園、福生保育園	
	鳥取県境港市	境港市立あがりみち保育園	
	鳥取県鳥取市	鳥取市立富桑保育園	
	鳥取県琴浦町	みどり保育園	
	山口県岩国市	あさひ保育園	
	広島県三次市	三次市立三良坂保育所	
	香川県高松市	若葉保育園	
	徳島県阿南市	阿南市立桑野保育所	
	京都府京丹後市	京丹後市立久美浜保育所	
三重県上浜島	上浜保育園		
長崎県壱岐市	壱岐市立武生水保育所		
鹿児島県霧島市	霧島市立高千穂保育園		
児童福祉施設等	島根県松江市	島根県中央児童相談所、松江赤十字乳児院、双樹学院、島根東光学園、松江学園、東部島根医療福祉センター、国立病院機構松江医療センター、島根県立わかたけ学園、しのめ寮、授産センターよつば	2 年前期・保育実習 I (施設)
	島根県出雲市	さざなみ学園、児童心理療育センターみらい	
	島根県安来市	安来学園	
	島根県浜田市	聖喙寮、こくぶ学園	
	島根県隠岐の島町	仁万の里児童部	
鳥取県米子市	米子聖園天使園		
幼稚園	島根県松江市	松江市立幼保園のぞ、松江市立しんじ幼保園、松江市立城西幼保園、松江市立古志原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立母衣幼稚園、松江市立中央幼稚園、松江市立大庭幼稚園、松江市立城北幼稚園、松江市立佐太幼稚園、松江市立講武幼稚園、松江市立忌部幼稚園、松江市立八雲幼稚園、松江市立玉湯幼稚園、育英幼稚園	2 年前期・後期・教育実習
	島根県安来市	安来市立島田幼稚園、安来市立認定こども園荒島	
	島根県出雲市	出雲市立出東幼稚園、出雲市立東幼稚園、出雲市立荘原幼稚園、出雲市立中部幼稚園、出雲市立大津幼稚園、出雲市立高松幼稚園、出雲市立神門幼稚園	
	島根県雲南市	雲南市立大東幼稚園、雲南市立木次こども園、雲南市立加茂こども園	
	島根県大田市	大田市立大田幼稚園、大田市立久手幼稚園	
	島根県益田市	益田天使幼稚園	

平成 28 年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
	鳥取県米子市	米子みどり幼稚園、東みずほ幼稚園	
	鳥取県北栄町	北栄町立大誠こども園	
	鳥取県鳥取市	小さき花園幼稚園	
	山口県岩国市	認定こども園岩国東幼稚園	
	広島県三次市	三次中央幼稚園	
	香川県高松市	高松市立栗山幼稚園	
	徳島県阿南市	阿南市立富岡幼稚園	
	京都府舞鶴市	シオン幼稚園	
	京都府京丹後市	京丹後市立峰山幼稚園	
	鹿児島県霧島市	高千穂幼稚園	

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

また、実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成 28 年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は上の表のとおりであった。

6) 学生による地域貢献活動

(1) 学生の自主的なボランティア活動

平成 22 年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援している。28 年度の学生のボランティア保険加入は、499 名。また学生の主な活動先は、以下のとおりであった。

- 災害ボランティア
くまもと G I N G A - N E T プロジェクト（熊本県益城町）
- 障がい者・高齢者支援ボランティア
「東部島根医療福祉センター」「松江医療センター」「島根県障がい者スポーツ大会」
「まるべりーパンまつり」「泉の園」「かんの里」「久米の家」「彩りテラス」ほか
- 障がい児支援ボランティア
「島根大学教育学部たんぼまつり」ほか
- 保育所・幼稚園・学童保育ボランティア
幼保園のぎ、みのり保育園、北陵幼稚園、比津ヶ丘保育園、市立乃木小学校ほか
- 松江市立湖南中学校 学習支援、図書館整備、環境整備
- 松江市国尾自治会

- 「夏祭り」「芋煮会」「秋のハゼ釣り大会」「くにっ子昔あそび会」「乃木文化祭」等
- 島根県立青少年の家 サン・レイク
 - 国立三瓶青少年交流の家
 - 第 93 回あしなが学生募金
 - 島根県赤十字血液センター 献血啓発運動ボランティア
 - 島根県立水泳プール「夏だ！遊ぼう！プール祭り」運営ボランティア
 - 大田市山村留学センター「2016 夏の山村留学」学生リーダー
 - 鳥取県「大山サマーキャンプ」「大山スキーキャンプ」学生リーダー
 - 松江市保育所保護者連合会「子ども美術展」準備スタッフ
 - 「第 23 回えびす・だいこく 100 km マラソン大会」運営スタッフ
 - 「第 59 回松江玉造ハーフマラソン大会」運営スタッフ
 - 「第 9 回ひらた 100 km 徒歩の旅」運営スタッフ
 - 「松江シティフットボールクラブ」試合運営スタッフ
 - 「2016 松江市環境フェスティバル スポーツ清掃大会」運営補助
 - 「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」設立 10 周年記念イベント運営補助
 - 「平成 29 年松江市成人式」運営ボランティア

この他、島根県内外の多くの地域イベントや保育園（所）・幼稚園、小学校、公民館などにおいて、個人でボランティア活動を行った。

【ボランティアサークル volcano の活動】

volcano のサークルとしての特徴は、卒業生との交流である。H28 年度のはじめに先立って、卒業生の呼びかけにより 3 月に大山合宿を行った。サークルの創設メンバーや二代目の部長らが、新たな部長と一緒にまちづくりに関わる場の見学や牧場での作業を行い、一年間サークルを運営するためのアドバイスなどを行った。



▲ボランティア報告会「あったかれっじ」の様子

そうして始まった平成 28 年度のボランティアサークル volcano（ぼるけーの）は、“人の想いや心に寄り添う”をテーマに、北野りんご園の作業と、浜乃木七丁目国尾自治会との連携活動を中心に行った。自治会との交流は 3 年目であり、夏祭りやとんど祭などの地域の交流行事への参加が定着してきた。

ボランティア報告会「あったかれっじ」は二度実施し、6 月には、東日本大震災および熊本大震災の復興活動に参加した学生らの報告、飛鳥祭には、国尾自治会の皆様を招き、volcano の活動について報告を行った。

平成 28 年度は、3 キャンパス合同学生ボランティア交流会のホスト校として松江キャン

パスの学生が企画運営を行い、volcano の部員も参加した。また、7月に林紗羅部長が「ボランティアサークル volcano 活動報告」として日頃の活動を報告し、11月には島根県大田市のわさび農家において苗を植える作業のお手伝いをした。

H29年1月には新部長である品川祐衣が卒業生との交流を行った。今後は卒業生も加えた活動を積極的に行っていく予定である。
(総合文化学科講師：山村桃子)

*** 平成 28 年度 volcano の主な活動**

H28年4月	「チェコ生ピアノ NOVY 記念式典」 しまね多文化共生ネットワーク「山菜の会」
5月	奥出雲町北野リンゴ園（袋がけ）
6月	平成 28 年度 第 1 回あったかれっじ（学内報告会） 「全国丸型ポストサミット」 国尾自治会「スポーツ大会」
7月	国尾自治会「ゲートボール大会」
8月	国尾自治会「国尾夏祭り」・「防災訓練」
9月	平成 28 年度 第 2 回あったかれっじ
10月	国尾自治会「芋煮会」・「乃木文化祭」・「秋のハゼ釣り大会」
11月	奥出雲町北野リンゴ園（摘果）
H29年1月	国尾自治会「とんど祭」

【ティンホイッスル・サークルの活動】

平成 28 年 7 月 7 日（木）オープンキャンパスでの演奏を行った。8 月 7 日（日）出雲市で開催された「国際にぎわい市」ではアイルランドのクリスプスサンドと紅茶の屋台を出店し、演奏も行った。10 月 9 日（日）松江ニューオーリンズ・フェスティバル 2016 実行委員会主催の「リトルマルディグラ」のパレードとステージでの演奏に参加。10 月 30 日（日）「松江ハロウィン」のパレードに参加。11 月 13 日（日）出雲市で開催された「多文化にぎわい交流広場」では屋台を出店し、ステージで演奏も行った。12 月 3 日（土）鳥取県琴浦町のカウベルホールで行われた「小泉八雲とアイルランド音楽の夕べ」で、山陰日本アイルランド協会のアイリッシュバンド「Ceol agus Craic」の演奏に参加した。

平成 29 年 3 月 11 日（土）・12 日（日）に開催されたアイリッシュ・フェスティバル in 松江 2017 のセント・パトリックス・デイ・パレードで演奏を披露しながらパレードに参加するとともに、アイリッシュ・パブ「シャムロック」で手伝いや演奏、屋台村で設営等、イベントのボランティア・スタッフとして協力した。

音楽の演奏や屋台での参加をすることで、イベントを楽しみながら国際交流やアイルランド文化の紹介を行っている。

(2) キラキラドリームプロジェクト

キラキラドリームプロジェクトは、学生が企画する独創的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助し学生の夢の実現を応援している。学生の自主性・積極性・創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、好きになれるものを見つける機会となり、より充実した学生生活を送ってもらうことを目的として平成 25 年度から始めた。今年度は 2 組の団体が公開審査会でプレゼンテーションを行い、全事業が採択された。



5 月に行う募集説明会后、エントリーを希望する学生は、企画の発想法、商品化のプロセス、顧客ターゲットと商品コンセプト、企画書の作り方等を勉強会で学ぶ。また、各グループには指導教員が付き、企画立案と実行のサポートを行う。学生だけの力で実現できない場合、行政、地域の団体、民間企業とマッチングを行い、支援をいただきながら活動を行っている。企画の多くが、地域問題を解決したり、地域活性化を目指したりする企画で、学生のヒラメキが地域のキラメキになっている。1 年間の活動の後、この事業をきっかけにサークル化し活動を継続する団体が多くみられる。

(地域連携課 キャリアアドバイザー：中村和可子)

● 公開審査会の様子



プレゼンテーションに向けて、入念な準備をして挑みます。会場は熱気に包まれ、真剣そのもの。



プレゼンテーションの方法は自由。自分たちの想いを伝えるために工夫をこらす。動画をつくって PR したチームも。



審査委員からは鋭い指摘と温かいアドバイスを頂く。



自分たちの夢を語り、全てを出し切った後の安ど感で思わず笑みがこぼれる。

● 平成 28 年度採択プロジェクト (2 団体)

✓ ドリーム枠 (採択額 22.5 万円)

TYD スクール「Learning from war ～戦争について知ろう～」

～他国の人と交流しながら戦争について語り合おう～



この企画の目的は、自分の国ではない他国から見た戦争観について様々な国の人に知ってもらうことです。内容は外国の方と戦争について話し合うというものです。5 カ国それぞれ 3 人ぐらいでグループになってもらい、何度か集会や学習などをして、それぞれの国でどんなふうに関争が語られてきたかを話し合ってもらいます。授業の一環として広島に行き、平和記念資料館や平和公園

などを見て回り、被爆された方のお話を聞きます。その後、広島に行った感想や、何か考えが変わったなどを話し合う事後学習の機会を何度か設けます。そして、その感想や学んだ内容をまとめたものを発表し、この企画に参加していない人にも知ってもらう機会を設けます。

活動紹介 (ドリプロ報告書より)

■ プロジェクト発案の理由

昔からずっと、みんな戦争の悲惨さを知っているはずなのになぜ戦争はなくなるのかと疑問に思っていました。この疑問を解消するには、みんなが戦争についてもう一度きちんと考えなくてはならないと考えました。戦争について考えるといっても、一つの国で語られている戦争についてだけを学んでも意味がありません。そこで、国際化が進んできた今だからこそ、様々な国の人と一緒に、それぞれの国で語られている戦争について勉強していったらどうかと考えました。そうすることで初めて戦争について本当に理解したといえるのではないかと考えたのです。そこで私たちは、戦争について様々な国の方と一緒に勉強していく、このプロジェクトを発案しました。

■ プロジェクトの目的

いろいろな国の方々と戦争について学び考え、意見交換をすることで、多様な角度からの戦争の捉え方を知り、自国だけの戦争学習より多様な考えを身に着けること。そしてそれにより自国では学べない戦争の悲惨さを知り、相手の立場に立って戦争を考えられるようになること。そしてそこから、戦争をなくすにはどうすればよいかを考えること。

■ 活動内容

日付	活動	場所・会場
8月10日	宣伝のためのチラシ作り	島根県立大学短期大学部
9月	広報のお願い	島根大学・松江市の国際観光課・しまね国際センター・島根県立大学浜田キャンパス・高専
10月	協力者募集	島根大学
26日	協力者と打ち合わせ	島根県立大学短期大学部
11月17日	第一回勉強会〔準備〕	島根県立大学短期大学部
23日	第一回勉強会	島根県立大学短期大学部
12月6日	第二回勉強会〔準備〕	島根県立大学短期大学部
11日	しまね大交流会参加	松江くびきメッセ 大展示場
17日	第二回勉強会	島根県立大学短期大学部
2月19日	広島訪問	広島平和記念資料館・平和記念公園

島根大学、松江市の国際観光課、しまね国際センターへ直接訪問し、参加者募集にあたり広報のお願いをしたり、アドバイスをいただいたりしました。

島根大学、松江市の国際観光課、しまね国際センターへ直接訪問し、募集のためのチラシの広報をお願いに行きました。

いただいたアドバイスをもとに、勉強会を全10回から全5回と変更し、それぞれの内容を、続けて参加しなくても一回だけの参加でも内容が分かるようなものに変更しました。そして、島根大学の国際交流サークルの協力を得て、準備の段階から留学生の方に加わっていただきました。

上記の活動実績のように勉強会や広島訪問を行いました。開催にあたっては、島根県立大学浜田キャンパス、島根大学、松江高専の留学生をはじめ、県短生、そして12月のしまね大交流会で知り合った企業の方なども参加してくださり、多様な視点や意見をいただくことができました。



▲参加者募集チラシ第一版

■ 活動を通して分かったこと

＜第一回勉強会(教科書を比べてみて)＞

各国の教科書は、自国の汚点は子どもへ伝えたくないという思いや、戦争の被害による敵国への恨みなどを持ちながら作られたので、それぞれの国によって同じ出来事でも伝え方が違う。いわれたことをそのままのみにするのではなく、自分できちんと調べてから判断をしなくてはならない。

＜第二回勉強会(ドキュメンタリーを比べてみて)＞

- ・ 第一回の教科書と同様に、国自体が伝えたいこと伝えたくないことを思って、ドキュメンタリーを作っている。
- ・ 原爆についての考えが国ごとで違うこと。
- ・ この国はこう考えると思わず、実際にその国の人と話してみて、メディアが伝えていない部分も自分の目で見ることが大切だということ。

＜広島研修＞

- ・ 戦争をなくすためには、法律や平和条約を作り、兵器を持ったり作ったり準備することを全人類が一丸となって注意しやめさせるべき。

- ・戦争の多くの原因はリーダーの力関係にある。そのため、力のある国がまず持っている核を処分することで世界から核がなくなる。
- ・平和のためにはもめごとが出てくるたびに、争いではなく話し合いをすべき。
- ・戦争では、人類だけでなく自然やほかの生物にも被害が出てしまう。平和は全人類の責任である。
- ・自分のほしいもののために戦争をしてもよいと思う人はどの時代にもいる。そのため、どの国も高いセキュリティを持ち、高い生活水準で生活しなくてはならない。

■ 感想

この活動を通して自分自身も戦争についての考えが大変深まり、この活動をする前より、戦争についてもっと学ばなければならない、もっと多くの人と戦争について考えていかなければならないと思うようになりました。活動を進めていく中で、準備や進行を考えすぎて、なぜこの活動をしようと思ったのかという目的を忘れそうになることがありました。教科書の違いを知ってもらうのが目的ではなく、そこからなぜ違いが生まれるのかを考え、どうすれば世界中が戦争をしなくなるのかを考えるのが本来の目的です。準備をしていく中で、本来の目的が分からなくなることがありましたが、その時は、お互い相談しあい本来の目的は何かを思い出しながら活動を進めてきました。

内容を一から考え、それをもとにチラシを作り協力者や参加者を集め、勉強会の内容や進行を考え実行していくのは、今まで経験したことがなく、うまくいかないこと、反省することが多くありました。そのたびに多くの方に助けていただき、多くのアドバイスをいただきました。ありがとうございました。そしてこれらの経験やアドバイスが、私たちの来年度からの活動をよりよくするための材料になると思います。

今回この活動に参加してくださった方々には、その時の学習で満足せず、これをきっかけに戦争について考え行動して行ってほしいと思います。

■ 今後について

今年度限りの活動では、また戦争のことが忘れられていってしまうと思っています。継続して戦争について考えることが大切です。そのため今回の活動のまとめを作り配布し、来年度以降もこの活動をサークルという形をとり、続けていきたいと思っています。今回の活動では、準備不足や期間が足りなかったために、実現できなかった計画がいくつもあり、悔いが残った面もあります。来年度からはそれらを実際に行っていき、今年度よりもさらに深く多くの方と一緒に戦争について学んでいきたいと思っています。

✓ ドリーム枠（採択額 22.5 万円）

MPV 制作委員会「プロジェクトD」

～松江のPVは意外と少ない？ なら作っちゃえ！！～



松江をアピールする映像（MPV）。企画、構成から撮影、編集まで全てを短大生が実行？！私たちにしかできないPVを作り、松江をもっとよくしたい！松江市の観光に貢献します。

活動紹介（ドリプロ報告書より）

■ プロジェクトの目的

松江市には、たくさんの観光地が存在しているのに、それらを宣伝するための観光プロモーションビデオ（以降「PV」と表記）がないと気づいた。そこで私たちがPVを作成し、松江の魅力を知ってもらい、観光を盛り上げようと思った。

■ 活動内容

8～9月にかけて、松江市産業観光部長 矢野さんや、玉作り温泉まちデコ社長 角さんから、行政の立場からの意見や、PVの方向性についてアドバイスを受けた。また、動画作成にあたり企画のポイントや、撮影の仕方、カメラワークなどをシネマトグラファー荒木さん教わるところから開始。そのほか各方面からのアドバイスも参考にしながら、松江城周辺をアピールすることに決め、チームメンバーで動画作成の目標、対象、役割分担等を決めた。

10月に撮影開始。堀川小町、へるんの小径、松江城、堀川遊覧船、レイクラインの撮影を4日間に分けて撮影した。撮影にあたっては松江市の担当課にもご協力をいただいた。

12月に開催されたオールしまね大交流会（COG+）に4名参加。大人の方の意見を頂き、大変参考になった。また、松江市の観光イメージや、島根県に関するアンケートも収集し、今後の動画作りの参考にした。下記はアンケートの回答結果の一部である。

島根県の観光地として認知度が高いものは出雲大社であるという結果になった。
松江といえば、という質問に対しては宍道湖という回答が多くみられた。
面白い回答では、駅の近くにイオンがあるのが珍しいというものがあった。

2月に動画が完成し、YouTubeなどに動画をアップした。

■ 実績

YouTubeに「松江女子旅！」2017年2月15日に動画を公開（41秒）

動画のコンセプト：県外に住む女子大学生

再生回数101回を獲得（2017年2月28日現在）

・広報活動 Facebook <https://www.facebook.com/mpv.doripuro/> Twitter アカウント@mpvkentan

■ 成果および感想

（K）失敗と成功から収穫を得た。

「松江の魅力のアピールする動画を自分たちで作りたい」この目標に納得できるものを形にすることができなかつたです。地域の魅力、文化を知ること、ここから始めなければなりませんでした。なぜなら、僕は松江のことを知った気になっていたからです。短い動画に自分たちがアピールしたいところを盛り込むには、なぜ、そこに価値があって、魅力があると思うのか、本質から理解していなければなりませんでした。そのために実際に自分たちで松江めぐりをすることはもちろん、大人の方の考えもヒアリングをしました。本プロジェクト採択前に立てたスケジュール計画は何の役も立たず、多くの意見が聞けるよ

うにと多く集まってもらったメンバーには、全員を活かす方法を考えることに頭のメモリを使っていた気がします。自分の無力さを実感しました。

しかし、前向きな収穫もたくさんあり、とくにこの活動をしたという後輩が現れた事がうれしく感じます。もとは「松江にPVが少ないから自分たちで増やそう」と始まったプロジェクトにとって、継続して増やし続けられる環境に足が掛かったという事だけでも、やってよかったと感じました。卒業したあともこの活動を続けてくれる後輩を応援し、松江と一緒に盛り上げていきたいと思います。

(K) みんなで創り上げる楽しさと難しさを知った。

ドリプロに参加するのは2回目でしたが、前は商品開発の2弾で先輩たちのものを引き継ぐ形でドリプロに参加しました。今回はゼロから自分たちで作る、形にするのということで試行錯誤しました。とくに、人数が多く全員が協力することが難しかったです。

今回のドリプロでは、松江の良さを広められたというよりは人を動かす大変さを思い知りました。自分の、未熟さがわかったドリプロでした。動画は正直納得のいくものにできなかったのですが、この動画を後輩たちが少しでも後に続いてくれればいいなと思いました。

(I) 松江の人と文化の良さを知ることができた。

今回このプロジェクトに参加したことで、松江の良さに気付くことができました。撮影で松江の観光地をめぐる中で、松江にも着物を借りて城下町を歩くことができる場所があることを初めて知りました。また、撮影の中で着物を着ていた私たちの姿を見て、ほかの観光客の方を着物を借りに来られたことを知り、とても嬉しく感じました。今回の動画を作るにあたり、観光地をはじめとする地元の方々と触れ合う中で、私たちの撮影がしやすいようにサポートしていただき、松江の人の温かさを改めて実感することができました。

(K) たくさんの方の協力で撮影を楽しむことができた。

私は出雲出身ということもあり、松江の魅力を新鮮に感じることができました。普段着ない着物を着て、普段なかなか歩かない松江城周辺を散策し、観光客気分楽しく撮影することができました。動画1つ作成するのにも、たくさんの人の協力が必要になるということも学ぶことができました。

(K) 松江が大好き！

私は松江が好きなので、今回ドリプロに参加できてとても良かったと思っています。いざ松江のPVの候補地を考えると、松江は自分が思っているよりも紹介したいところがあって改めて松江の魅力を感じました。PVの撮影は松江城周辺でしたが、松江城は本当に絵になるなと思いました。着物を着ての撮影中、私たちを見て、堀川小町で着物をレンタルした観光客がいて小さなことかも知れませんが、自分たちが松江観光の楽しみ方を伝えることができてよかったと思います。

(K) 貴重な経験ができたのがよかった。

私は短大入学後、約一年間松江に住んでいました。しかし、普段何気なく暮らしているだけでは、松江の魅力に十分に気付いていなかったと思います。外部の人に魅力を伝えるために、改めて自分達で松江について知ることができてよかったです。地域のために活動している人と話す機会があったり、着物を着て城下町を歩いたり楽しく貴重な経験ができました。

(S) この事業に関われてよかった。

今回ドリプロに参加してとても勉強になりました。PVを作る上で、松江の観光に携わる人の意見を聞きました。そのおかげで松江の良さのアピールの仕方を勉強することができました。みんなで意見を共有しながら一つのものを作っていくことの良さを知ることができてよかったと思います。迷惑ばかりかけましたが、少しでもこのPV制作に携わることができて良かったです。

(S) 松江の新しい魅力を発見できた。

松江の観光地は大分知っているつもりでしたが、今回のプロジェクトに参加して知らなかった松江の魅力が、次々に出てきて驚いています。松江の観光地は、女子旅に、デートに、家族旅行に、老夫婦のちよい旅に、若い人からお年寄りまで楽しめる最高の場所です。新しく松江の魅力を発見することができ、とても楽しかったです！就職で私は県外に出ますが、歳を取ったときに、そういえばこんな所に行ったな、と思いたしてまた松江を訪れたいと思います！

(D) 普段できない経験が勉強になった。

私は20年間松江に住んでいますが、松江の魅力について考えたことはありませんでした。しかし、このプロジェクトで心を惹かれる場所を再確認できました。

松江市の観光を短時間で動画にすることは難しかったですが、仲間と協力して話し合ったり、撮影したり普段できないことを経験できました。撮影するにあたって大人の方と話す機会が増え、撮影のテクニックや松江の観光をどうやって伝えていくのかを勉強することができました。動画を1つ作るのも大変でしたが、新しい発見もあり楽しく活動することができました。

(M) 松江を元気にしたいというみんなの気持ちに触れられた。

キラキラドリームプロジェクトを通して学んだことがたくさんありました。私はこういうことをするのが初めてだったので、最初は不安もありました。でも、みんなで何かを創り上げるという楽しみもありました。半々の気持ちで始めた活動は、苦勞したこともありましたが、プロジェクトの仲間や地域の方と話すことができ、最後は達成感を味わうことができました。また、松江を元気にし、有名にしたい、という気持ちは皆一緒なのだと感じました。この活動は私の学生生活の中でとても思い出に残る、良い経験となりました。

(Y) 自分の知らない魅力を知れた。

松江のことはだいたいわかっているつもりでしたが、案外、自分の知らないことや、場所がたくさんありました。活動の中では松江の魅力やその地の人の温かさを改めて実感することができ、とても良かったです。

です。

また企画、撮影にととても大変でしたが、みんなと同じ目標に向かって一つのことをやり遂げたことで達成感を感じました。このプロジェクトに参加して本当によかったです。

■ 今後について

現在、松江の和菓子をテーマにした第二弾も作成中。

松江の魅力を発信したい、松江を元気にしたい！という学生が継続して活動していけるために、サークル化を考えている。学生が地域の魅力を考え、地域の人と関わることで、松江市の観光やまちづくりに興味を持ってもらいたい。

PVも数が多くなってくると、県外の人がしぜんと情報に触れる機会が増えると期待している。

7) おはなしレストランライブラリーの地域連携活動



▲小泉八雲記念館で怪談絵本の読み聞かせ

「読み聞かせの実践」は、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の学生計 75 名が受講し、幼稚園のぎ、乃木小学校で読み聞かせの活動を活発に行った。地域の要望に応じて行う「出前シェフ」の活動では、小泉八雲記念館との初の共同企画として、八雲記念館において怪談絵本の読み聞かせを行った。八雲の代表作『雪女』をはじめとして、八雲にちなんだクイズなども取り入れながら、観光客の方々と怪談絵本を満喫した。



▲わらべうた「ゆりかご」の風景

おはなしレストランライブラリーでの取り組みが多様化したのも本年度の特徴である。これまで続けてきた学生による読み聞かせのほか、絵本と音楽を融合した催し「音のレストラン」（本学保育学科梶間講師）、わらべうたを中心とした取り組み「ゆりかご」（本学非常勤岡本・岩田講師）の時間など、親子で楽しむ機会が増えた。

ライブラリーの利用も学外からの来館者を中心に年々増え続けている。

平成 28 年度 おはなしレストランの 読み聞かせ活動

- ◆松江市立幼稚園のぎ：参加学生 75 名
- ◆松江市立乃木小学校：参加学生 75 名
- ◆松江市立忌部小学校：参加学生 10 名
- ◆ライブラリー：参加学生 10 名
- ◆出前シェフ：参加学生 10 名

おはなしレストランライブラリー
月平均の来館者人数・貸出冊数
(平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月)
学内：来館者 316 人、貸出 376 冊
学外：来館者 1,337 人、貸出 5,553 冊

平成28年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況

No.	講座名	開催日	講師	受講者数	
1	総合文化講座（全8回）	言葉に関するちょっとした面白い話—似ているようで異なる日本語と韓国語のことばくらべ—	6月1日	鄭 世桓（浜田キャンパス講師）	64
		変質したのか？日本人の“普遍的な価値観”と社会動向—TVドラマ「下町ロケット」に見る常識感—	6月8日	瓜生 忠久（浜田キャンパス教授）	54
		ハンナ・アーレントとアメリカ	6月22日	村井 洋（浜田キャンパス教授）	47
		インドネシアの今を衣服から知る	7月13日	塩谷 もも	40
		小泉八雲の文化資源的変遷	7月27日	工藤 泰子	46
		天変の文化史—江戸時代の天文学とフォークロア—	9月28日	杉 岳志	40
		明治のことば	10月12日	高橋 純	40
2	大人のための源氏物語—夕霧の恋を読む—（全6回）	地域資源としての怪談文学—「勝五郎再生譚」「幽霊滝」「雪女」をめぐって—	10月26日	小泉 凡	50
3	—出雲国風土記の語—古代出雲人（びと）の信仰世界—（全5回）	出雲の神社と特徴的な神社の解説その1（意宇・嶋根・秋鹿の3郡）	6月17日	藤岡 大拙（元本学学長）	64
		出雲の神社と特徴的な神社の解説その2（楯縫・出雲の2郡）	7月29日		81
		出雲の神社と特徴的な神社の解説その3（神門・飯石・仁多・大原の4郡）	8月19日		53
		出雲の聖地「杵築埼」について	9月16日		70
		出雲の寺院、霊山等（新造院。神名火山など）	9月30日		70
4	椿の道読書会（全9回）	5月16日～1月16日	北井 由香	121	
5	インターネットを使った効果的な英語学習（全3回）	6月17日～7月1日	ラング クリス	24	
6	学校を卒業した人のための「保育と教育の社会学」（全4回）	「保育と教育の社会学」への招待	10月4日	矢島 毅昌	2
		心と身体「学校的社会化」	10月11日		2
		「学校化社会」における保育と教育	10月18日		3
		今だからわかる「文化としての学校」	10月25日		3
7	英語絵本の音読と「英語多読」に挑戦（全4回）	7月20日～8月31日	小玉 容子	18	
8	健康栄養講座：健康とアンチエイジング～華麗な人生をおくるため～（全5回）	寿命に影響する要因	8月9日	直良 博之	7
		加齢とからだの老化	8月23日	安藤 彰朗	8
		お口とアンチエイジング	9月2日	佐藤 公子（出雲キャンパス教授）	7
		食とアンチエイジング	9月12日	名和田 清子	4
		運動とアンチエイジング	9月27日	酒元 誠治	8
9	栄養士のためのステップアップ講座（全12回）	7月13日～12月21日	健康栄養学科教員	55	
10	山陰民俗学会連携講座：民俗の行方～山陰のフィールドから考える～Part4（全4回）	伝染病の流行と民間信仰	7月23日	喜多村 理子（鳥取短期大学非常勤講師）	11
		豊作を祈り、収穫を祝う祭りの現状と伝承～大田市周辺地域の事例から～	7月30日	多田 房明（大田市鳥井小学校長）	11
		島根におけるオコナイ行事の特色と現在—関西との比較から—	8月20日	中野 洋平（島根大学地域未来戦略センター助教）	12
		出雲地方の祭祀習俗	8月27日	浅沼 政誌（島根県教育庁文化財課企画幹）	14
11	民族音楽の楽しみ：ガムラン教室（全12回）	5月7日～11月5日	瀬古 康雄（本学名誉教授）	93	
12	案外知っているようで知らない「人」の話3—社会・応用編（全3回）	8月20日～9月10日	飯塚 由美	39	
13	文化資源探求講座	新小泉八雲記念館探訪ツアー	8月19日	小泉 凡	23
		「石見銀山と縄文の埋没林」を訪ねる	11月3日	岡部 康幸（NPO法人出雲学研究所会員）・小泉 凡	30
14	島根県産農畜産物を用いた食品の生産および加工の実践（全3回）	島根県産農畜産物の生産とそれを用いた食品開発の現状	2月23日	赤浦 和之・籠橋 有紀子	1
		島根県産西条ガキを用いた食品開発と実践	3月2日	赤浦 和之	2
		島根県産出西生姜およびしまね和牛を用いた食品開発と実践	3月9日	籠橋 有紀子	1
				延（人）	1622

平成28年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容（テーマ等）	日付	
1	名和田 清子（健康栄養学科教授）	奥出雲町	平成28年度第1回奥出雲町食育推進委員会 研修 「朝食の必要性と今年度の奥出雲町の食育推進について」 参加者：食育推進委員会委員15名及び事務局8名、他3名	平成28年6月29日	
2		公益社団法人島根県栄養士会	平成28年度島根県栄養士会生涯教育 基本研修 「栄養ケアプロセスと地域連携」参加者：島根県栄養士会会員50名	平成28年7月10日	
3		雲南保健所	平成28年度炎症性腸炎患者・家族学習会（雲南地区「ほたるの会」講演 「外食のポイント」及び調理実習「一簡単！おいしい！楽しい！秋の食材を使ったやさしい料理」 参加者：患者家族4名、保健師等4名	平成28年10月2日	
4		松江市	いきいき健康コース 第12回（全14回） 「骨と血管のための食事」参加者：60名	平成28年12月8日	
5		公益社団法人島根県栄養士会及び松江地区会	平成28年度島根県栄養士会生涯教育 実務研修 「骨粗鬆症について」参加者：島根県栄養士会会員30名	平成28年12月10日	
6		飛び出せ!!出雲糖尿病療養指導フォーラム実行委員会	飛び出せ!!出雲糖尿病療養指導フォーラム 講演 「知って納得！食事療法」参加者：糖尿病療養指導に関わる専門職30名	平成28年12月14日	
7		公益社団法人日本栄養士会	平成28年度研究教育事業部中国・四国ブロック研修会 「平成27年度研究教育事業部全国リーダー研修会報告および研究教育事業部事業について」 参加者29名	平成28年12月18日	
8		出雲保健所	平成28年度炎症性腸炎患者・家族学習会（出雲地区）講演 「体調不良時の食事の工夫」及び調理実習「ひなまつり」参加者：患者家族27名、保健師等6名	平成28年2月26日	
9	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	島根県農産園芸課	全国つや姫フォーラム シンポジウム「島根県産米の特性分析」	平成28年7月29日	
10	山下 由紀恵（保育学科教授）	川本町保育研究会	平成28年度川本町保育研究会研修講師「川本町の子どもの発達について」	平成28年5月14日	
11		島根県健康福祉部	平成28年度市町村職員等専門研修（児童福祉司任用資格認定講習会）講師 「母子関係理論と発達心理学」	平成28年8月8日 平成28年8月30日	
12		ソニー幼児教育支援プログラム「科学する心」島根自主研修会	平成28年度研修講師「科学する心を育てる生活と遊び」	平成28年9月3日	
13		福井 一尊（保育学科准教授）	松江市小学校図画工作部会	小学校教諭対象研修会「図画工作科における造形あそびの意義と評価」	平成28年8月3日
14			松江市保育研究会	子どもと造形表現	平成28年9月6日
15			大田市民営保育所協議会	子どもが表現すること	平成28年9月9日
16			島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会	望ましい子どもの描画作品について（作品審査会）	平成28年11月25日
17			島根県社会福祉協議会	「島根県障がい者アート作品展」審査委員長（職員研修会を含む）	平成28年11月30日
18	松江市保育研究会		立体作品・壁面作品の展示方法について	平成28年12月9日	
19	藤原 映久（保育学科准教授）	邑智郡保育研究会	主任保育士研修会 講師 演題：主任保育士として求められる役割	平成28年6月9日	
20		島根CAP	2016年島根CAP連絡会 講演 演題：アタッチメント形成の視点からCAPの役割を考える	平成28年9月4日	
21		島根県社会福祉協議会	平成28年度放課後児童支援員認定資格研修 講師 演題：子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ	平成28年9月6日 平成28年10月23日 平成28年11月9日	
22		松江市赤十字乳児院	第61回中国・四国地区乳児院研究協議会 講師 演題：子どもの応援団を作ろう～連携に基づくよりよい支援をめざして～	平成28年9月8日	
23		松江地区里親会	平成28年度松江地区・出雲地区里親会合同研修会及び里親交流会 講師 演題：子育ての知恵について～H-MPOを使って知恵集め～	平成28年9月14日	
24		島根県健康福祉部	平成28年度 島根県市町村職員等専門研修会（児童福祉司任用資格認定講習会）講師 演題：児童福祉論～児童をとりまく今日的動向～	平成28年9月16日 平成28年10月21日	
25		島根県社会福祉協議会	平成28年度放課後児童支援員認定資格研修 講師 演題：特に配慮を必要とする子どもの理解	平成28年9月20日 平成28年10月16日 平成28年11月1日	
26		松江赤十字乳児院	養育を考える会 助言者	平成28年5月31日 平成28年11月30日	
27		鳥取県児童館連絡協議会	2016年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会 講師 演題：児童館の機能と役割	平成28年12月9日	
28		島根県児童福祉施設児童処遇研究協議会	平成28年度島根県児童福祉施設職員合同研修会 講師 演題：児童養護施設における「参加者中心型プログラム」の試み～安心・安全な施設環境の構築を目指して～	平成28年12月12日	
29		鳥取県児童館連絡協議会	2016年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会 講師 演題：集団援助活動	平成29年1月26日	
30		島根県中央児童相談所	平成28年度児童虐待対応職員専門性向上研修会 講師 及び シンポジウムのコーディネーター 演題：児童養護施設における児童間暴力の予防への取り組み	平成29年2月27日	
31		邑南町	邑南町「子どもの心を考える会」研修会 講師 演題：子どもの育ちを支える～子どもの応援団をめざして～	平成29年3月3日	
32		矢島 毅昌（保育学科准教授）	子どもの心育てる造形の会	春期研修会講師 講演タイトル：子どもの「できる」をどう見るか？～能力・成果とは何かを考える～	平成28年5月28日
33		岩田 英作（総合文化学科教授）	独立行政法人国立病院機構全国保育士協議会	平成28年度第1回中・四国支部研修・学習会「絵本の読み聞かせについて」	平成28年9月11日
34			社会福祉法人島根県社会福祉協議会	平成28年度子育て支援担当者研修「絵本の選び方・読み方」	平成28年9月29日
35			兵庫県教育委員会	ひょうご子ども読書活動推進フォーラム阪神・丹波地区フォーラム「読み聞かせについて」	平成28年10月2日
36	大阪府教育庁市町村教育室		平成28年度大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラム事業地区別研修「読みメンになろう！家族で本を楽しもう！」	平成28年11月3日	
37	小泉 凡（総合文化学科教授）	山陰中央新報社「山陰ぶらんち会」	山陰ぶらんち会平成28年度第1回例会 「未来に生かす小泉八雲～小泉八雲記念館リニューアル・オープンを前にして～」	平成28年5月24日	
38		一般財団法人島根県松江地区建設業協会	平成28年度安全大会 「小泉八雲を未来に生かす」	平成28年7月8日	
39		朝日カルチャーセンター湘南	「小泉八雲と水木しげるの世界～響きあう妖怪観をめぐって～」	平成28年7月9日	
40		焼津小泉八雲記念館	怪談談義Part2 「水木しげると小泉八雲の響きあう世界」	平成28年7月31日	
41		全国商業教育研究大会実行委員会	第64回全国商業教育研究大会（島根大会）記念講演 「地域資源の創造的活用を考える～小泉八雲と怪談を活かす試み～」	平成28年8月4日	
42		全国神社保育団体連合会	設立65周年大会記念講演 「『小泉八雲』を現代に活かす」	平成28年8月20日	
43		第23回BeSeTo演劇祭実行委員会	シンポジウム基調講演 「異界と人間を考える～水木しげると小泉八雲の世界から～」	平成28年8月27日	
44		NPO法人全日本語リネットワ	第13回全日本語リネットワの祭り 「小泉八雲と語りの世界」	平成28年9月4日	
45		松江怪談実業委員会	松江怪談談義「怪談のふるさと松江で語る小泉八雲」における講演	平成28年10月7日	

平成28年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容（テーマ等）	日付	
46	小泉 凡（総合文化学科教授）	横浜ロータリークラブ	横浜ロータリークラブ例会卓話 「小泉八雲から現代を考えるーオープン・マインドと五感カー」	平成28年10月11日	
47		山陰網膜色素変性症協会	山陰網膜色素変性症協会で四国リーダー研修会講演 「ラフカディオ・ハーンと語りの世界」	平成28年10月21日	
48		株式会社グローバルユース ビューロー	文化講演会 「小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）と彼を魅了した日本」	平成28年10月21日	
49		十文字学園女子大学	桐華祭講演会・シンポジウム 「小泉八雲と地域づくり・人づくり」	平成28年10月22日	
50		名古屋工業大学	「名古屋の八雲、八雲の名古屋」記念講演 「小泉八雲を現代に活かす」	平成28年11月5日	
51		愛知県田原市教育委員会	田原市図書館ふしぎ文学半島プロジェクト2016 トークライブ 「怪談とまちづくり～ふしぎな言い伝えのチカラ～」	平成28年11月5日	
52		松江市立中央図書館	松江市立中央図書館開館30周年記念トーク 「小泉八雲と図書館」	平成28年11月19日	
53		京都造形芸術大学	公開講座「小泉八雲、民話をめぐる旅」 「松江からみる、世界のラフカディオ・ハーン」	平成28年11月20日	
54		島根大学	島大ミュージアム学 講師 「文化資源としての小泉八雲とハーン・ミュージアム」	平成28年11月25日	
55		神在月まつえ文化・観光月間 実行委員会	小泉八雲朗読の夕べ「転生」における講演	平成28年11月26日	
56		NPO法人松江音楽協会	プラバホール開館30周年記念オルガン・リサイタル 小泉八雲作品朗読『神々の国の首都より『東えいの夢』』	平成28年12月17日	
57		松江市立中央図書館	平成28年度「小泉八雲に学び・親しむ」講師 「小泉八雲と輪廻転生の物語～「勝五郎の再生」をめぐって～」	平成28年12月24日	
58		まつえ観光アカデミー	松江のスキルアップ講座 「小泉八雲と現代ー松江からみる世界のハーンー」	平成29年1月17日	
59		神戸学院大学	神戸学院大学図書館書籍テーマ講演会 「小泉八雲ーオープン・マインドでみた日本ー」	平成29年1月20日	
60		空の旅人舎（滋賀大学・彦根 観光協会）	彦根ゴーストツアー講演 「怪談と結界」	平成29年1月28日	
61		松江観光協会	平成28年度松江市観光ボランティアガイド養成講座講師 「松江からみる世界の小泉八雲」	平成29年2月14日	
62		まつえ市民大学	平成28年度まつえ市民大学修了式記念講演 「小泉八雲を現代に活かすー「オープン・マインド」の発信と小泉八雲記念館の役割ー」	平成29年2月18日	
63		鳥取県大山町教育委員会	いさい語り保存会20周年記念講演会 「地域資源としての作家と文学ー小泉八雲といさい語りをめぐってー」	平成29年2月25日	
64		鳥取県立図書館	平成28年度国際交流ライブラリー講演会 「小泉八雲ー開かれた精神の航跡を迎えるー」	平成29年2月26日	
65		彦根商工会議所	小泉八雲朗読の夕べ「望郷」におけるトーク	平成29年3月4日	
66		愛知大学	愛知大学総合郷土研究所シンポジウム基調講演 「地域資源としてのふしぎ文学ー小泉八雲と怪談の活用をめぐって」	平成29年3月18日	
67		マユー あき（総合文化学科教授）	社会福祉法人鳥根県社会福祉 協議会	平成28年度子育て支援担当者研修会 「絵本の選び方・読み方」講義・演習	平成28年9月13日
68		工藤 泰子（総合文化学科准教授）	松江市立女子高等学校	PTA総会講演会講師 「松江市観光の活性化に向けてー教育の現場から」	平成28年5月14日
69			松江市史料編集室	松江市史講座講師「戦後復興期における松江の観光振興」	平成28年9月17日
70			松江市立図書館	講座「小泉八雲に学び・親しむ」講師 「国際文化観光都市と小泉八雲」	平成28年3月25日

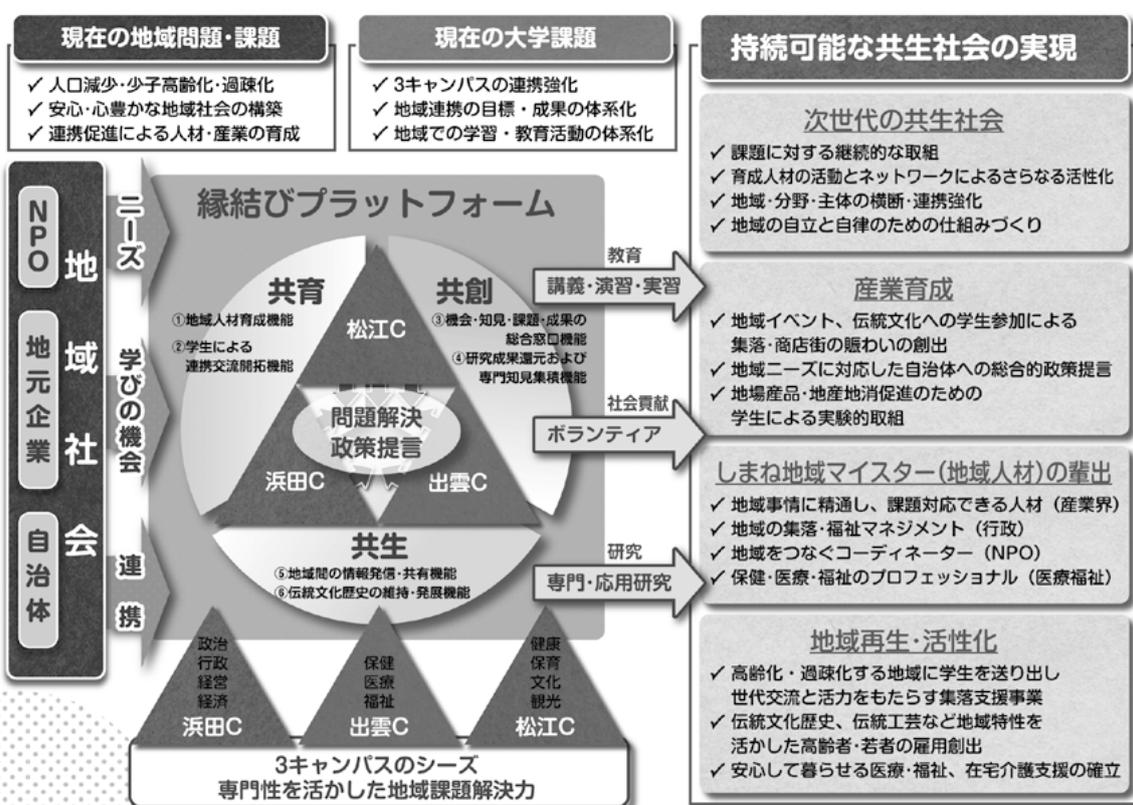
Ⅲ. 縁結びプラットフォーム事業

1.事業概要

3キャンパス共通の事業概要

公立大学法人島根県立大学は、総合政策学部(浜田市)、看護学部(出雲市)、短期大学部(松江市)の3キャンパスを有し、各キャンパスの専門分野を活かした地域貢献に取り組んでいます。本事業では、島根県の人口減少、少子高齢化、過疎化という地域共通問題へ対応するため、地域ニーズと大学シーズのマッチングを図る「縁結びプラットフォーム」という「場」を構築します。

地域と大学の共育・共創・共生に向けた 縁結びプラットフォーム



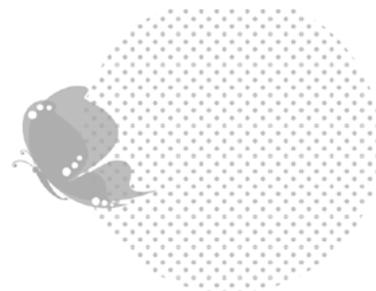
「共育・共創・共生」とは

- 「共育」…地域とともに人材を育む
- 「共創」…知見を集積し、住みよい地域の姿を創造する
- 「共生」…地域の良さを活かし、持続的・自律的に発展する

教育・研究・社会貢献活動での3キャンパスの連携事業を発展強化させ、全学の専門性と総合力を存分に活かした効果的な課題対応等を展開していきます。

地域課題に接近しつつ教育では、過疎先進地島根県で高い専門性と実践力を有する人材を育成するために「しまね地域マイスター」認定制度(島根県立大学)、「履修証明プログラム」(島根県立大学短期大学部)を新設します。各学部で実施されてきた教育・研究・社会貢献活動を段階的に整理し、その目標・成果を全学で体系化するとともに、共通問題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を支援して、地域に開かれた大学として、地域社会へ貢献しています。

2.事業の主な具体的取組



島根県立大学

1 共育 (教育)

人材育成の目標:島根県における地域問題に対して様々な取組を通じて、

- ①地域事情に精通し、
- ②地域主体を繋げるコーディネート力のある人材を育成し、
- ③熱意をもち課題解決に取り組める実践力を持った人材を育成する。

○「しまね地域マイスター」認定制度の創設

本制度は、島根地域のあらゆる分野へ精通した学生を認定する、本学独自の制度です。卒業時には、自ら課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会に飛び出すことができるとを目標にしています。

2 共創 (研究等)

本事業では、研究等について以下に掲げる内容を目標として取り組みます。

- ①「縁結びプラットフォーム」を通じて、学内の教員同士、地域と大学との連携を強化する。
- ②広域的、分野横断的な地域研究の実施を促進する。
- ③域内での研究成果の共有化を図る。

○地域研究費の拡充

- ・「しまね地域共生・共創研究助成金」

3 共生 (社会貢献)

本事業では、島根県内に分散立地する各キャンパスを拠点とし、社会貢献の目標を以下のとおり掲げています。

- ①生涯学習機能の拡充に取り組む。
- ②ボランティアの広域的対応に取り組む。

○生涯学習機能の拡充

- ・COC²-Netを活用した遠隔講義の実施を通じた市民の受講機会の拡大

カリキュラムマップ

CURRICULUM MAP

学年	1年	2年	3年	4年
演習科目				地域共生卒業研究
		地域共生演習		
専門科目	選択専門科目			
		地域課題総合理解		
基礎科目	しまね地域共生学入門		ステップアップ!!	

島根県立大学短期大学部

1 共育 (教育)

学生に対する「地域志向」教育改善は、

- ①「しまね地域共生学入門」と「地域志向」科目による地域課題への基礎教育構築。
- ②「地域共生専門コース」履修証明プログラムの選択履修による問題意識の深化。
- ③卒業研究における学域共同研究への一部参加による課題解決への展望。

○現場専門職者向け「地域共生専門コース」新設

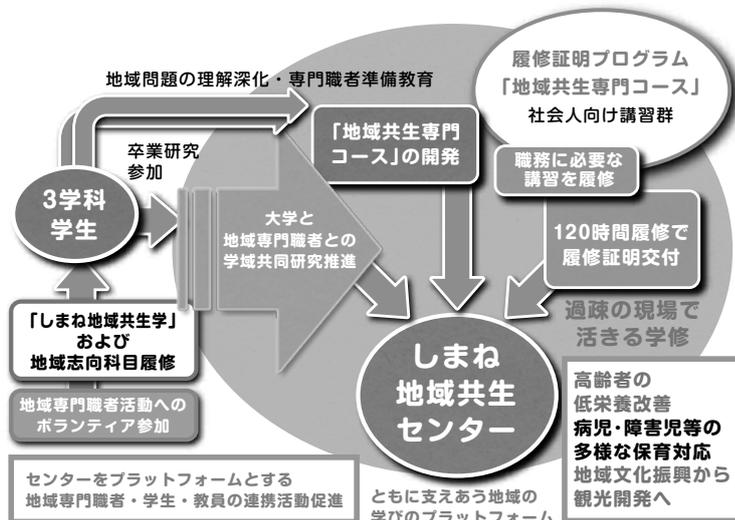
現場専門職の社会人向けの、極めて実践的かつ具体的な個別的課題の解決に結びつく知見と技術の集積としてのプログラムです。少子高齢化集落の職務に必要な講習の履修、ならびに120時間コース履修による履修証明の交付（履修証明プログラム）をおこないます。

2 共創 (研究等)

- 「しまね地域共生センター」における共同研究の推進
- 「しまね地域共生センター紀要」の発行

3 共生 (社会貢献)

- 社会人向け「地域共生専門コース」での人材育成
- 生涯学習機能の拡充
- ボランティアの広域的対応



IV. その他の地域活動

1. 地域貢献プロジェクト助成事業

本学では、中期目標に掲げる「地域活性化に対する支援」を推進するため、平成20年度から北東アジア地域学術交流研究助成金に「地域貢献プロジェクト助成事業」を創設している。

包括協力協定を締結した浜田市、松江市、出雲市及び益田市との共同事業のほか、本学教員が地域協力者（自治体、NPO、自治会、郷土研究者等）とともに行う、大学の地域貢献活動（調査・研究等）に対して助成するものである。年間2～6件程度のプロジェクトを採択し、各種事業の実施や成果の還元等を通じて、地域振興への取組を支援している。

平成28年度の地域貢献プロジェクト助成事業 交付決定状況

代表者氏名 (所属キャンパス)	研究組織の概要	研究課題名	交付金額
赤浦 和之 (松江)	福岡 博義	西条ガキ熟柿ピューレを用いた ドレッシングの開発	553千円
山下 由紀恵 (松江)	鹿野 一厚 矢島 毅昌 福井 一尊 村川 修 大畑 伸幸 檜谷 邦茂 吉村 理恵 河野 利文 塩満 恭子	地域資源と協同的体験を保育 教育課程に生かす「ふるさと 教育」の研究 一島根県益田市モデルWebシー ズマップの修正開発ー	800千円

2. 島根県との連携

島根県立大学と島根県は、地域の振興に貢献するため、これまでも様々な分野で連携事業を実施してきたが、情報の共有化を図り連携をより一層推進するため、平成24年度から連携企画会議及び連携調整会議を開催し、定期的に意見交換を行っている。

平成 27 年度からは、本学が主催する大学COC事業における地域課題の把握と研究テーマの検討内容も踏まえた上で、次年度の連携事業計画に反映できるように、年度前半での連携調整会議において、連携事項の進捗状況を確認し、連携の可能性のある事項と連携を期待する事項について意見交換を行っている。

1. 第7回島根県・島根県立大学連携調整会議

(1) 日時 平成 28 年 6 月 20 日(月)10:00～11:30

(2) 場所 島根県職員会館 多目的ホール

(3) 概要

- ① 連携状況の報告
- ② 県立大学の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」実施状況の報告
- ③ 連携の可能性のある事項についての意見交換
 - ・大学の企画運営する「子ども・子育て新制度」関係研修会への連携協力
 - ・安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携
- ④ 連携を期待する事項についての意見交換
 - ・ライフプラン設計講座の実施
 - ・特殊詐欺被害防止にかかる研究及び効果的な抑止対策の検討
 - ・市町村消防団が行う消防・防災体験イベントへの参画

3. 松江工業高等専門学校との連携

平成 29 年 3 月 15 日に、公立大学法人島根県立大学は、独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校との連携協定に関する協定書を締結しました。

この協定締結により、今後、教育、研究、地域貢献、産学連携、学生及び教職員の交流において、相互に協力し、地域社会の発展及び人材育成に寄与する活動を推進していきます。



4. 島根県立大学短期大学部・公益財団法人しまね文化振興財団(島根県民会館)との連携

島根県立大学短期大学部と公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）は、島根県における文化芸術・教育の発展に寄与することを目的に、連携協定を締結し、平成 28 年 4 月 6 日、松江キャンパスにて調印式をおこないました。

両者は、保育学科の総合表現活動「ほいくまつり」などを通し、これまで 40 数年にわたり学生の実践研修や乳幼児への芸術鑑賞の提供等を協働して行ってまいりました。平成 30 年度（2018 年度）に短期大学部の四年制化を控える中、地域での学びの場を増やすことで更に専門性を高め、活力ある地域づくりの貢献を目指してまいります。



左：本田雄一学長（島根県立大学短期大学部）

右：藤岡大拙理事長（公益財団法人しまね文化振興財団）

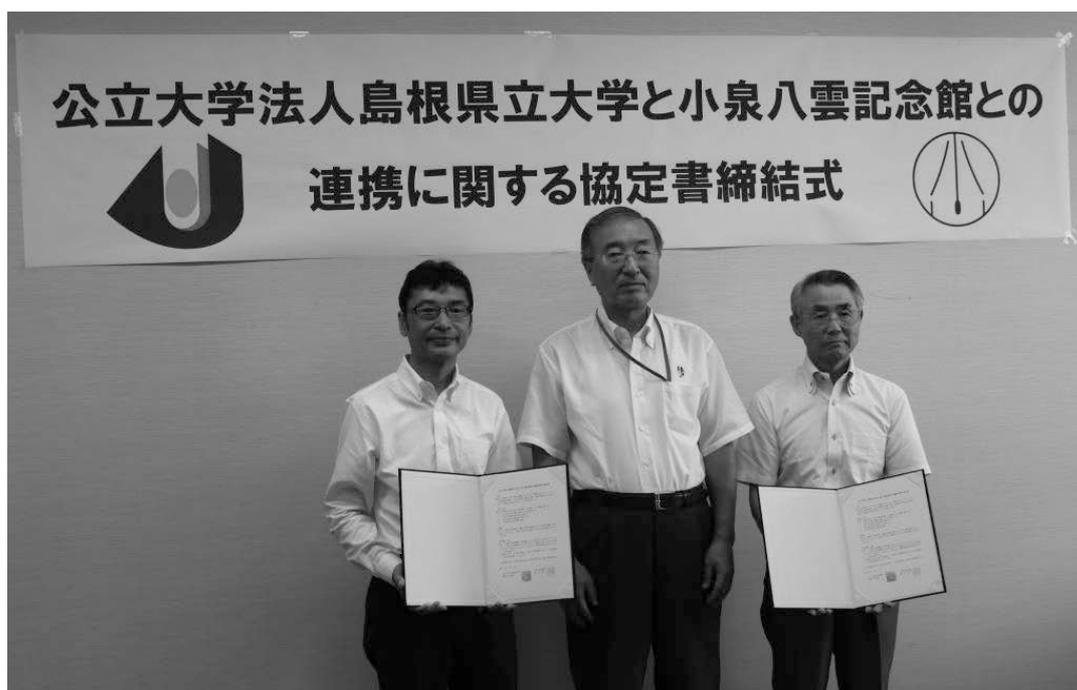


5. 小泉八雲記念館との連携

公立大学法人島根県立大学と小泉八雲記念館は、教育・研究・広報等の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的として、連携に関する協定書の締結式を平成28年8月3日（木）に松江市役所において行いました。



今後、小泉八雲に関する様々な取り組みについて両者が連携・協力してまいります。



写真左から 小泉 凡 館長、松浦 正敬 松江市長、本田 雄一 理事長

6. しまね産業振興財団・島根県発明協会との連携

平成 28 年 11 月 2 日（水）、公立大学法人島根県立大学、公益財団法人しまね産業振興財団、一般社団法人島根県発明協会との三者で、産業振興に関する包括的連携協力協定を締結しました。大学と発明協会が協定を締結するのは中国地方では初めてのことです。

協定調印式は平成 28 年度中国地方発明表彰式に先立ち、特許庁今村審査第三部長様、中国経済産業局大谷特許室長様をご来賓に迎えてサンラポーむらくもにて行われました。

島根県の産業振興、地域課題の解決を目指し、これまで以上に三者が連携・協力してまいります。



おわりに

平成 28 年度も例年通り、本学の地域連携活動は多様なものが行われた。幼小中高との教育連携、公開講座を中心とする生涯教育の取組、地元地域の課題解決に資する研究、学生のボランティア活動、教職員の地元地域の審議会等委員としての活動、大学の施設開放などがあり、これらは本文中に十分に記されているものと思う。

本報告書は、平成 25 年に採択された文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」による「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」事業の報告書と従前から行われてきた地域連携活動の報告書を兼ねているが、ここでは、以下に大学 COC 事業について少し述べておきたい。

大学 COC 事業の教育改革に関していえば、前年度に浜田キャンパスで先行して開講した「しまね地域共生学入門」が全学の 1 年次必修の科目としてスタートした。講義中継システムを用いての授業運営は困難もありながら、3 キャンパスの協力があって、予定通りの実施ができた。浜田キャンパスでは、「しまね地域マイスター」を志す学生たちの学習・研究活動が始まった。指導教員の手助けを受けながらも、彼らの熱心な取組姿勢は頼もしいかぎりである。松江キャンパスでは履修証明プログラムが本格開講になり、受講者の拡大が期待される。

地元地域の地域課題研究では、研究の深まりもさることながら、地域のニーズと大学のシーズのマッチングの仕方に成熟がみられた。具体的に言うと、「9 月連携会議」と「全域フォーラム」にポスターセッションを大幅に導入したことで、自治体等の連携団体をはじめとする地元地域のみなさまと本学の教職員・学生とがより近づいて意見交換できるようになった。マッチングし、研究活動を実践し、成果を共有するという流れが定まってきたように思われる。

本学の社会貢献の一翼を担っているといえる学生ボランティア活動でも、3 キャンパスの連携が深まった。ボランティア活動に取り組んでいる 3 キャンパスの学生が集まったの合同学生ボランティア交流会は、春学期に自主的な企画を考え、秋学期にそれを実践するというかたちが定まって 2 年目になるということもあり、充実した活動がみられるようになった。

総じて、順調に進行していると考えているが、大学 COC 事業も次年度で補助期間が終了する。これを真に本学の取組として定着させていくことが、今後の課題であろう。大学 COC 事業における連携団体のみなさまはもとより、地元、島根県の多くのみなさまには、これまで多大なご支援をいただいた。ひき続き本学の地域連携活動にご理解いただき、お力添え賜りますよう、お願いいたします。

地域連携推進センター

センター長 林 秀 司

参 考

島根県立大学は、21世紀をになうべき創造性豊かで実践力ある人材を育成し、教育研究を通して地域の発展に資するため、2007年4月、既存の島根県立大学（浜田）、島根県立島根女子短期大学（松江）、島根県立看護短期大学（出雲）の3つの大学を統合して開学した。

ここに島根県立大学は、従来3キャンパスがそれぞれ歴史的に蓄積してきた成果を継承し、21世紀における新たな飛翔をめざす大学の姿勢を内外に示すため、島根県立大学憲章を定めることとした。

島根県立大学憲章

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とする。

1. 市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する

島根県立大学は、幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有し、主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる人材を養成する教育の府となることをめざす。

2. 現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する

島根県立大学は、複雑化する現代社会の諸課題に対処するため、人間と社会に関する専門諸科学を総合的に研究する学問の府となることをめざす。

3. 地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する

島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

4. 北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する

島根県立大学は、今後ますます重要度を増す北東アジア地域、および世界の諸地域との教育的・学術的ネットワークの展開を通じ、国際的視野と豊かな研究蓄積を集約した北東アジアの知の拠点となることをめざす。

5. 自律と協同、透明性が高く機能性に優れた大学運営を行う

島根県立大学は、3キャンパスがそれぞれ学生と教職員一体となって独自性を発揮し、かつ、有機的結合を図り、たえず自己検証と改善に努めながら、情報を積極的に公開し、社会や時代の変化に即応できる大学運営を行う。

公立大学法人島根県立大学と浜田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と浜田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成20年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成19年5月18日

公立大学法人島根県立大学
理事長

宇野重昭



浜田市
浜田市長

宇津徹男



松江市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、松江市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成21年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成19年10月30日

松江市

松江市長

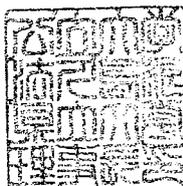
松浦正敬



公立大学法人島根県立大学

理事長

宇野重昭



出雲市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、出雲市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

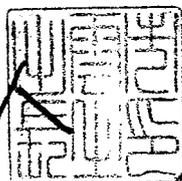
平成21年10月8日

出雲市

公立大学法人島根県立大学

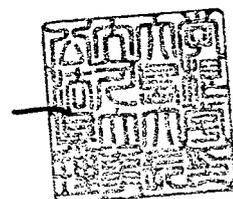
出雲市長

長岡秀人



理事長

本田 雄



公立大学法人島根県立大学と益田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と益田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

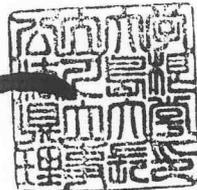
第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成25年5月27日

公立大学法人島根県立大学
理事長

本田雄一



益田市
益田市長

山本浩



公立大学法人島根県立大学と隠岐の島町との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、隠岐の島町と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成27年7月14日

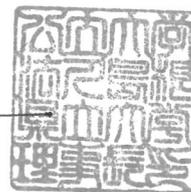
隠岐の島町
町長

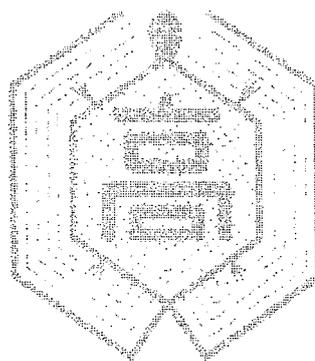
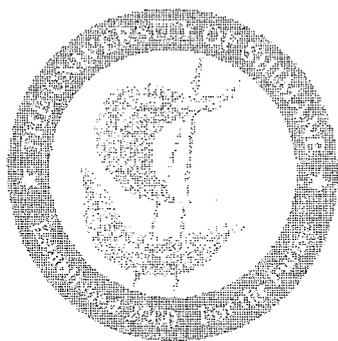
松田和久



公立大学法人島根県立大学
理事長

本田雄一





島根県立大学と島根県立浜田高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、相互の教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立浜田高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立浜田高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期間を持つものとする。本協定は、有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立浜田高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成16年11月18日

島根県立大学

学 長

宇野重昭

宇 野 重 昭

島根県立浜田高等学校

校 長

三浦正樹

三 浦 正 樹

島根県立大学と島根県立江津高等学校との高大連携に関する協定

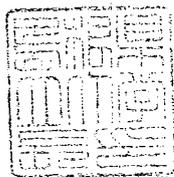
島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、相互教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立江津高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立江津高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期限を持つものとする。本協定は有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立江津高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成19年6月1日

島根県立大学

学長 宇野重昭



島根県立江津高等学校

校長 尾村幸行



島根女子短期大学・松江商業高等学校・湖南中学校の 三者連携に関する協定書

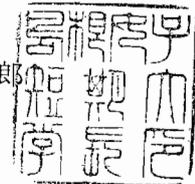
島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校の三者は、次のとおり合意する。

- 第1 島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携し、「より魅力あるキャンパスづくり」を推進することを目的とする三者連携事業を実施する。
- 第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。
- 第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、島根県立松江商業高等学校長及び松江市立湖南中学校長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。
- 2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成18年11月 1日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



島根県立松江商業高等学校

校 長 月 森



松江市立湖南中学校

校 長 曾 田 秀 雄



島根女子短期大学・乃木小学校・幼保園のぎの 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎの三者は、次のとおり合意する。

第1 島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎは、相互の教員・職員・学生・児童・園児が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的として、三者連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。

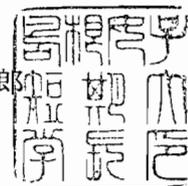
第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、松江市立乃木小学校長及び松江市立幼保園のぎ園長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成19年 3月 7日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



松江市立乃木小学校

校 長 山 崎



松江市立幼保園のぎ

園 長 狩 野 由 美 子



島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）出前講座の

収録・放送に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と石見銀山テレビ放送株式会社（以下「乙」という。）とは、乙が島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）の出前講座の収録、放送を実施するにあたり、次のとおり覚書を締結するものとする。

（事業内容の分担）

第1条 事業内容の分担は以下のとおりとする。

- （1）甲に所属する職員は、出前講座の台本及び資料を作成する。
- （2）乙は甲に所属する職員が作成した台本をもとに番組を収録し放送する。
- （3）乙は番組収録に係る著作権使用許可等の必要な諸手続をすべて行う。
- （4）乙は作成した番組をDVDに出力し、甲へ受け渡す。

（本覚書における出前講座の定義）

第2条 本覚書における出前講座とは、甲乙協議の上で定めた主題について、甲に所属する職員が企画構成する講座とする。

（事業に関する経費）

第3条 事業に関する経費については以下のとおりとする。

- （1）出前講座経費 出前講座に関する経費はすべて甲が負担する。
- （2）収録放送経費 収録・放送に関する経費はすべて乙が負担する。

（著作権の取扱い）

第4条 作成した番組に関する著作権は甲乙が共有する。

- 2 作成した番組を甲乙が非営利目的で使用する場合は相互の許可は不要とする。

（協議）

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成22年2月4日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄



乙 島根県大田市大田町大田口1089-4
石見銀山テレビ放送株式会社

代表取締役

杉谷 雅禎



看護連携型ユニフィケーション事業 基本協定書

島根県病院局（以下「甲」という。）と公立大学法人島根県立大学（以下「乙」という。）とは、看護連携型ユニフィケーション事業（以下「ユニフィケーション事業」という。）の実施に関し、次のとおり基本協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この基本協定書は、甲及び乙が協働で実施するユニフィケーション事業に関して、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 ユニフィケーション事業は、甲が設置運営する臨床の場である「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」と、乙が設置運営する教育の場である「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」が協働して実施することにより、看護ケアの質の向上及び看護教育の向上並びに両施設の機能を向上させることを目的とする。

（事業の範囲）

第3条 ユニフィケーション事業の範囲は以下のとおりとする。

- 1) 看護の学習会に関する事
- 2) 患者や家族のケアに関する事
- 3) 看護教育に関する事
- 4) 看護研究に関する事

（実施場所）

第4条 ユニフィケーション事業の実施場所は、甲が設置運営する「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」及び乙が設置運営する「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」とする。

（協議会の設置）

第5条 ユニフィケーション事業を運営する機関として、甲及び乙の職員を構成員とする「看護連携型ユニフィケーション事業協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

（実施要領）

第6条 ユニフィケーション事業の実施および協議会の構成、運営に係る細目等は、「実施要領」として別に定めるものとする。

(実施計画の策定)

第7条 ユニフィケーション事業の実施に当たっては、協議会においてユニフィケーション事業に係る事項を明記した「看護連携型ユニフィケーション事業実施計画」を策定し、事業実施2か月前に甲及び乙に提出し、承認を得るものとする。

(活動企画書の作成)

第8条 主担当者は、前条の実施計画に基づき、活動内容、実施場所、従事者、日時等を記載する「看護連携型ユニフィケーション活動企画書」を協議会に提出し、承認を得るものとする。

(個人情報の保護)

第9条 ユニフィケーション事業の実施に当たっての個人情報の取り扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守するものとする。

(基本協定の変更)

第10条 この基本協定書及び第6条の実施要領に関して、疑義又は定めのない事項が生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

(有効期限)

第11条 この協定は、締結の日からその効力を発揮するものとし、甲又は乙が文書を持って協定の終了を通知しない限りその効力を持続するものとする。

本協定の証として本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成23年1月6日

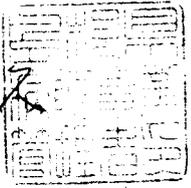
甲 島根県出雲市姫原4-1-1

島根県病院事業管理者

乙 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人島根県立大学理事長

中川正
本田雄一



公立大学法人島根県立大学と学校法人大多和学園との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と学校法人大多和学園（以下「学園」という。）が連携し、生徒・学生の科学的思考と発表力の段階的育成を行い、もって創造性豊かな国際的に通用する人材の育成を図ることを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) 学園の実施するスーパーサイエンスハイスクール事業（以下「SSH事業」という。）における連携
- (2) 教育についての情報交換及び交流
- (3) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な実施については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、平成26年4月1日からSSH事業が終了する平成30年3月31日までとする。ただし、SSH事業の指定期間が延長された場合、その終了日までとする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成26年3月27日

公立大学法人島根県立大学

学校法人大多和学園

理事長

本田 雄一



理事長

大多和 聡宏



公立大学法人島根県立大学と中村元記念館との連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と中村元記念館が連携し、広報等の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と中村元記念館は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 広報および情報提供に関する事項
- (2) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成27年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末までに、島根県立大学と中村元記念館のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

- 2 島根県立大学と中村元記念館は、この協定の有効期間中であっても、双方協議してこの協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成26年10月6日

公立大学法人島根
理事長 本田雄一



中村元記念館
館長

前田 専学

公立大学法人島根県立大学と公益社団法人島根県看護協会が

連携して実施する事業に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と公益社団法人島根県看護協会（以下「乙」という。）とは、甲乙が連携して実施する事業について、次のとおり覚書を締結するものとする。

（連携して実施する事業）

第1条 連携して実施する事業は次の各号に定めるものとする。

- (1) 島根県内看護職の人材育成や生涯教育の推進
- (2) 島根県における保健医療や看護教育に関する施策等についての情報交換及び連絡調整
- (3) その他、甲乙双方が協議して実施する事業

（事業の実施方法及び定義）

第2条 事業は次の各号の方法により実施する。

- (1) 受託事業
- (2) 連携事業

2 第1項第1号の受託事業は次の定義による。

受託事業は、甲と乙が契約して実施する事業のうち、乙が当該事業にかかる経費の全額を負担するものとする。

3 第1項第2号の連携事業は次の定義による。

連携事業は、甲と乙が契約して実施する事業のうち、事業費の区分毎に甲と乙の経費負担率を設定するものとする。

（受託事業）

第3条 受託事業の実施にかかる甲乙双方の役割分担は次のとおりとする。

- (1) 実施計画 乙が原案を作成し、甲と協議の上決定する。
- (2) 事業経費 全て乙の負担とし、契約締結後、甲の請求に基づき乙が支払う。
- (3) 施設設備 事業を島根県立大学出雲キャンパス（以下「県大出雲」という。）で実施する場合は、甲が必要な部屋、設備を調整し、それを利用する。
- (4) 実施報告 甲は、受託事業実施後に実施報告書を作成し、乙に提出する。

(連携事業)

第4条 連携事業の実施にかかる甲乙双方の役割分担は次のとおりとする。

- (1) 実施計画 乙が原案を作成し、甲と協議の上決定する。
- (2) 事業経費 契約書において事業費の区分毎に甲と乙の経費負担率を設定し、甲乙それぞれが当該事業経費を負担する。
- (3) 施設設備 事業を県大出雲で実施する場合は、甲が必要な部屋、設備を調整し、それを利用する。
- (4) 実施報告 甲が乙と協議の上実施報告書を作成する。

(協議)

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成27年9月19日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長

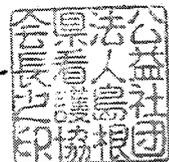
本田 雄



乙 島根県松江市袖師町7番11号
公益社団法人島根県看護協会

会長

原 由子



島根県立大学短期大学部と公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）との連携協力に関する協定書

島根県立大学短期大学部（以下「甲」という。）と公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）（以下「乙」という。）は、島根県における文化芸術・教育について連携・協力するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲乙相互の連携のもと、文化芸術振興・教育・研究及び教員養成の分野で協力し、地域における文化芸術・教育の発展に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携し、協力する。

- （1） 甲乙双方が有する知的資源、人的資源及び物的資源の活用に関すること。
- （2） 甲乙が共同で実施する事業に関すること。
- （3） その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（共同事業連携推進会議）

第3条 前条の連携事項の円滑な推進と発展のため、共同事業連携推進会議を設置する。

2 共同事業連携推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

（守秘義務）

第4条 甲及び乙は、本協定に基づく活動において、相手方から知り得た秘密事項について、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、第三者に対し開示又は漏洩してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第5条 本協定は、協定締結日から発効し、有効期間は3年間とする。ただし、この協定書の有効期間満了の2月前までに、甲乙いずれからも改廃の申し入れがない場合には、更に3年間有効期間を延長するものとし、以後この例によるものとする。

（協議）

第6条 本協定に定める事項について疑義が生じたとき又は本協定に定めのない事項について必要があるときは、甲乙両者が協議して定める。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、甲乙両者が署名押印の上、各自その1通を保有するものとする。

平成 28年 4月 1日

島根県立大学短期大学部

学 長 本 田 雄



公益財団法人しまね文化振興財団

理 事 長 藤 岡 大



公立大学法人島根県立大学と小泉八雲記念館との連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と小泉八雲記念館が連携し、小泉八雲に関する教育・研究・広報等の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と小泉八雲記念館は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 小泉八雲に関する講義・講座、催し等に関すること
- (2) 小泉八雲記念館の資料の活用に関すること
- (3) 小泉八雲に関する情報発信に関すること
- (4) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

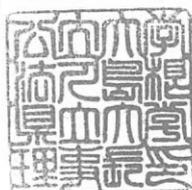
第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成29年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末日までに、島根県立大学と小泉八雲記念館のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 島根県立大学と小泉八雲記念館は、この協定の有効期間中であっても、双方協議してこの協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成28年 8月 3日

公立大学法人島根県立大学
理事長 本田雄一



小泉八雲記念館
館長 小泉 凡



公立大学法人島根県立大学と独立行政法人国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「県立大学」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校（以下「松江高専」という。）が包括的な連携のもと、教育、研究、地域貢献、産学連携、国際交流、学生及び教職員の交流において相互に協力し、地域社会と国際社会の発展及び人材育成に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 県立大学と松江高専は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 教育及び研究の推進と発展、向上に関すること。
- (2) 地域貢献の推進に関すること。
- (3) 産学連携の推進に関すること。
- (4) 国際交流の推進に関すること。
- (5) 学生の交流に関すること。
- (6) 教職員の交流に関すること。
- (7) その他前条の目的に資すること。

(協議)

第3条 本協定の実施に関し、連携・協力の細目等の具体的な事項については、両者協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から平成30年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに、県立大学と松江高専のいずれからも改定の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 県立大学と松江高専は、本協定の有効期間中であっても、両者協議のうえ本協定書を改定することができる。

本協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成 29 年 3 月 15 日

公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄

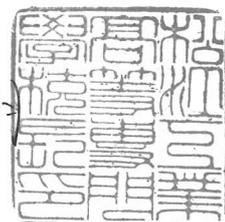


独立行政法人国立高等専門学校機構

松江工業高等専門学校

校長

井上



公立大学法人島根県立大学及び一般社団法人島根県発明協会並びに
公益財団法人しまね産業振興財団の包括的連携協力協定書

島根県立大学（以下「甲」という。）と一般社団法人島根県発明協会（以下「乙」という。）並びに公益財団法人しまね産業振興財団（以下「丙」という。）は、以下のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲と乙と丙が相互に緊密な連携協力と情報共有を図ることで、効果的かつ迅速な産業振興及び地域課題の解決を展開することを目的とする。

（連携協力内容）

第2条 甲と乙と丙は、次項以下に定める事項を基本として、適切な役割分担を図りながら、連携協力を努めることで、島根県の産業振興を図るものとする。

2 甲と乙と丙は、相互が行う次の各号に定める事項について、島根県内産業振興を図るため、全県的かつ専門的な立場から積極的な協力・支援を行うものとする。

- (1) 甲及び島根県内企業等の知的財産活用の推進に関すること。
- (2) 島根県内企業等の新事業創出支援及び経営の高度化支援に関すること。
- (3) 島根県内企業等との共同研究、受託研究及び技術移転の推進に関すること。
- (4) 「甲」教職員・学生及び県内個人の起業・創業支援に関すること。
- (5) 地域経済活性化に関すること。
- (6) その他、島根県の産業振興に関すること。

（情報の共有化と意見交換）

第3条 甲と乙と丙は、島根県の産業振興を図るため、甲にとっては乙と丙を、乙と丙にとっては甲を、連携協力の相手方（以下「連携協力相手」という。）として、法令その他の規程又は第三者との契約に反しない範囲で、緊密な意見情報交換を随時行うものとし、個別企業の情報（個人情報を含む。）を提供する場合、各々の責任において、事前に個別企業から同意を得なければならない。

（目的外利用の禁止及び秘密保持）

第4条 甲と乙と丙は、この協定に基づき連携協力相手から提供を受けた情報を、第2条第2項に規定する事項にのみ使用するものとし、他の事項への使用及び第三者へ提供してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りではない。

- (1) 事前に連携協力相手の承諾を得て第三者に提供する情報
- (2) 連携協力相手から提供を受けた際に既に公知となっている情報
- (3) 連携協力相手から提供を受けた後、開示を受けた側の責によることなく公知となった情報
- (4) 連携協力相手から提供を受ける前に取得していた情報
- (5) この協定に違反することなく他の手段により取得した情報
- (6) 連携協力相手から提供を受けた情報を使用することなく取得した情報
- (7) 法令その他の規程により提供しなければならない情報

(非独占的合意)

第5条 甲又は乙並びに丙は、それぞれ、いつでも第三者との間で、この協定と同趣旨の協定又はこれに類する契約を締結することができる。

(対外公表)

第6条 第2条第2項の各号に該当する情報の全部又は一部について公表を行う場合は、事前に甲と乙又は丙との間で協議の上、その公表の時期、内容、方法等に関する合意をした上で行うものとする。

(有効期間)

第7条 この協定の有効期間は、この協定の締結日から1年間とする。ただし、甲又は乙並びに丙から連携協力相手に対し、有効期間満了日の1か月前までに書面による協定終了の通知がない場合は、更に1年間これを延長するものとする。

2 前項の規定に関わらず、第3条の規定は、この協定の終了後5年間は引き続き効力を有するものとする。

3 第1項の規定に関わらず、前条の規定は、この協定の終了後も引き続き効力を有するものとする。

(解約)

第8条 前条第1項の規定に関わらず、甲又は乙並びに丙は、この有効期間中であっても、連携協力相手に解約予定日の1か月前までに書面により通知することにより、この協定を中途解約することができるものとする。

(雑則)

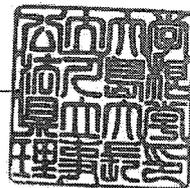
第9条 この協定の各条項の解釈について疑義が生じたとき、又はこの協定に規定しない事項については、甲と乙と丙が協議の上定めるものとする。

この協定の締結を証するため、この協定書を3通作成し、甲及び乙並びに丙が記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成28年11月2日

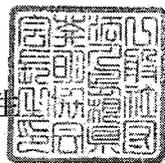
公立大学法人島根県立大学

理事長 本田 雄



一般社団法人島根県発明協会

会長 神庭 民生



公益財団法人しまね産業振興財団

代表理事理事長 山崎 征爾



お問い合わせ先

浜田キャンパス（地域連携推進センター）
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL：0855-24-2396 FAX：0855-23-7352
E-mail：tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

出雲キャンパス（しまね看護交流センター）
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151
TEL：0853-20-0220 FAX：0853-20-0227
E-mail：kango@izm.u-shimane.ac.jp

松江キャンパス（しまね地域共生センター）
〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2
TEL：0852-28-8322 FAX：0852-28-8366
E-mail：kyousei@matsue.u-shimane.ac.jp

平成28年度 地（知）の拠点整備事業
成果報告書
（地域連携活動報告書）

編集・発行

島根県立大学地域連携推進センター
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL：0855-24-2396 FAX：0855-23-7352
E-mail：tiiki@admin.u-shimane.ac.jp



マスコットキャラクター
「オロリン」



The University of Shimane